

令和4年度指定 文部科学省事業

「新時代に対応した高等学校改革推進事業」(創造的教育方法実践プログラム)
第1年次 研究開発実施状況報告書



ごあいさつ

本事業初年度となる第1年次の報告書をお届けいたします。

本校は、1948年に創立された全日制普通科の小規模高等学校です。本校が所在する人口約7,000人の山形県小国町はマタギ文化が残る中山間地域にあります。近隣の公立高等学校との距離が遠いという地理的条件のため、創立以来、生徒は町内の中学校出身者が多く、町の複数の中核企業等に対して多数の人材を輩出してきました。

2001年から6年間にわたって文部科学省研究開発学校として連携型中高一貫教育を実践し、「国際・情報」を教育の柱として地域の子どもを地域が育てる教育や中高連携及び地域学習を進めてまいりました。こういった実践研究を踏まえ、2007年度以降も町を挙げて小中高一貫教育（2018年度からは保育園も加えた保小中高一貫教育）として、「国際・情報」と「白い森学習」（地域学習とキャリア教育）を教育の柱として学びの一貫性を確保するとともに、異なる校種間や地域との交流を積極的に進める教育を推進してきました。

また、地域住民の学校教育への理解を深める取組を積極的に進め、2017年度に保護者や地域住民から構成される学校運営協議会を設置し、東北の高等学校としては初となるコミュニティー・スクールの指定を受けました。併せて、既にコミュニティー・スクールの指定を受けていた町内の小中学校等とともに合同学校運営協議会を設置し、「国際」「情報」及び「白い森学習」を教育の柱とした保小中高一貫教育とコミュニティー・スクールの取組を町と学校が一体となって、より効果的に進める体制を構築しました。

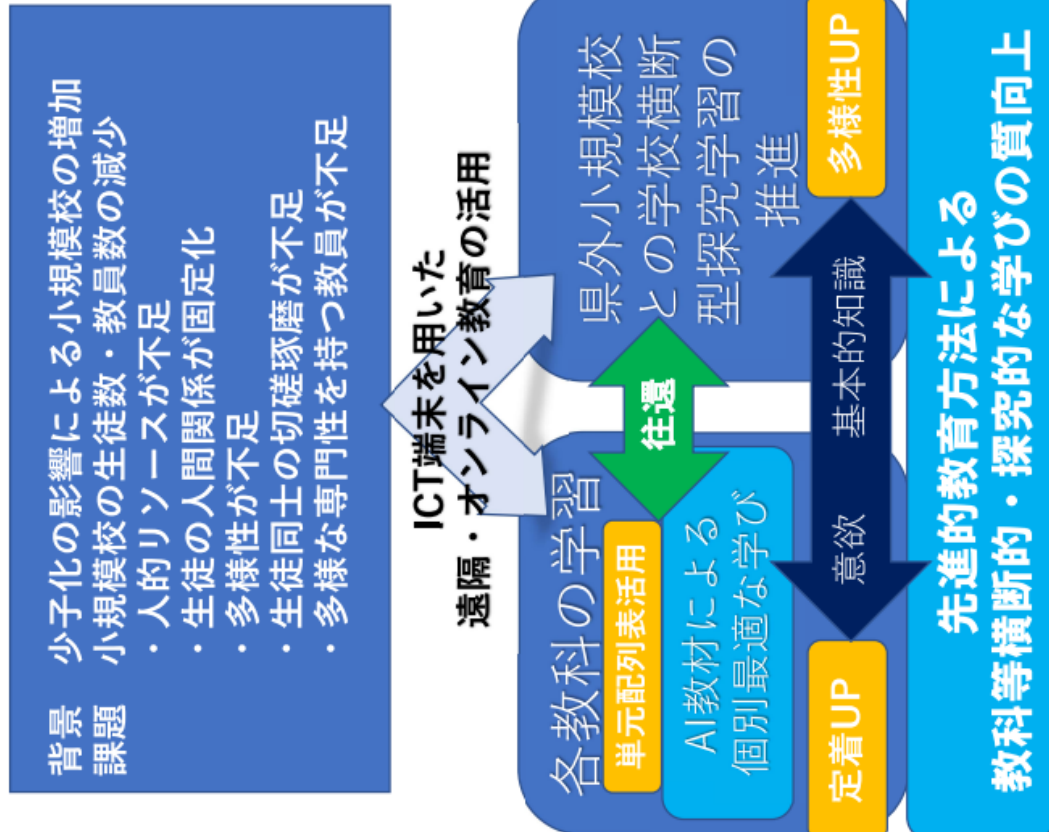
このような豊かな学びの土壌がある地域とともに、2019年度からの3年間、本校は、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」に取り組み、地域の様々な主体と協働することによりコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等を通じた学習カリキュラムを開発し、新しい価値を創造する人材育成を進めるとともに、全国の小規模高等学校の地域との連携・協働のモデルとなるよう努めてきたところです。

続く2023年度からは、本事業の指定を受け、上記の事業成果を活かしながらAI教材を活用した学習と、認定NPO法人カタリバと連携した遠隔・オンラインによる学校横断型探究学習等を推進し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図るとともに、全国の小規模校が共通に抱える課題解決を目指し、取組を進めてまいりました。本事業の具体的な取組については、本報告書に詳しくまとめていますので、ご高覧いただければ幸いです。

最後になりますが、本校の取組にご指導、ご支援を賜りましたすべての関係者の皆様方に心から感謝申し上げ、冒頭のご挨拶とさせていただきます。

校長 米野和徳

【山形県立小国高等学校】白い森未来探究プロジェクト



目次

I.	事業の概要と成果	4
II.	事業の詳細	
1.	新事業の取り組み(オンライン学校横断型探究学習・AI教材の活用)	14
2.	「白い森未来探究学」及び地域協働の主な活動報告	23
3.	教科等横断的な学び	62
4.	運営指導委員会・学校運営協議会・白い森人研修	67
5.	全国小規模校サミットの取り組み	75
6.	国際・情報教育	80
III.	資料	
1.	「高校魅力化評価システム」診断結果チェックシート	91
2.	報道記事	98

I 事業の概要と成果



【山形県立小国高等学校】白い森未来探究プログラム

構想の概要

ICT端末を用いた遠隔・オンライン教育を活用し、AI教材による個別最適化された学び直しと人的リソースや多様性を生み出しながら行う先進的な県外小規模校横断型探究学習の推進により、課題解決のための思考力・判断力・表現力等の資質・能力の育成を図る。

関係機関との連携・協働体制の構築方法

- 小国町や小国町教育委員会との連携
- 県外小規模校横断型探究学習のための連携
- 連携協力を担うコーディネーター



令和4年度の目標・取組状況

- ① AI教材の導入による教科学習の個別最適化
- ② 教科等横断的な学びの推進と探究学習の個別最適化
- ③ オンラインコミュニティの構築と進学希望者の学びの動機喚起

- ・ Qubena(1年生)とQureous(2年生)を導入
- ・ 単元初めに前時の復習、ワークブックとして課題配信
- ・ 自分で学習内容を計画して自学自習(マイブラン学習)

- ・ 英語×地理×家庭×家庭、国語×保健体育等(年7回)
- ・ 県外小規模校とオンラインでの探究学習(年4回)
- ・ 学識有識者からの探究学習への助言

- ・ 小規模校連携放課後交流活動「マイプロ相談会」
- ・ 小規模校連携放課後企画「マイテーマを持って進学した先輩との交流会」の実施

成果(○)と課題(▲)

- AI教材の学習効果あり(生徒の学習効果や学習意欲の肯定的回答90%以上)
- ▲ (AI教材に限らず)生徒が自主的に学ぶ仕掛けづくりの工夫必要
- 教科の枠でなく多角的な視野で物事に触れることで世の中のものながりを実感(各教科の重要性に気づききっかけに)
- ▲ 育成を目指す資質・能力の焦点化
- 探究学習の充実・深化
- ▲ 進学者リソースの共有(リアルな声聞ける)と意欲喚起

1 事業の実施期間

令和4年7月1日～令和5年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 山形県立小国高等学校
 学校長名 米野 和徳
 類型 創造的教育方法実践プログラム

3 研究開発名 令和4年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業」

4 研究開発概要

(1) 構想の概要

ICT端末を用いた遠隔・オンライン教育を活用し、AI教材による個別最適化された学び直しと人的リソースや多様性を生み出しながら行う先進的な県外小規模校横断型探究学習の推進により、課題解決のための思考力・判断力・表現力等の資質・能力の育成を図る。本構想により、小規模校が共通に抱える課題を解決し、教科等横断的な学びの実現により教育効果の最大化を図る。

(2) 本事業を実施する目的・目標

ICTやAIなど新しい教育方法を活用し、「教科学習」「探究学習」「進路希望の実現」の個別最適化を実践し、小規模校特有の課題を克服するとともに、本校が育成を目指す資質・能力「主体性」「挑戦心」「協働力」(下記図)を生徒が身につけることを目的(アウトカム)とする。また、大目標を達成するために、4つのアウトプットを設定する。

主体性			挑戦心			協働力		
郷土に誇りと愛着を持ち、学び続けながらより良い地域づくりに主体的に関わる			健康で豊かな人間性を持ち、新たな価値創造に挑む			多様性や個性を認め、他者を尊重しながら協働できる		
自己理解	自己肯定感	学ぶ意欲	情報収集活用 力	課題設定 力	共感力	受容力	対話力	共創力
計画力	意志ある 選択	創造的 市民性	思考力	創造力	行動力	持続可 能性意 識	グロー カル意 識	
			やり抜 く力	伝える 力	振り返 る力			

①教科学習における理解力と習熟度に応じた個別最適化

- ・AI学習システム(キュビナ・キュレアス)の導入により、学び直しと個別学習の実現
- ・いつ何をどこまで学ぶかを自分で計画する「マイプラン学習タイム」の導入
- ・自学自習習慣を身につけるためのモチベーション・マネジメントの導入

- ②小規模校連携構築による人的資源と多様性の確保、教科等横断的学習の個別最適化
 - ・岩手県立大槌高等学校と熊本県立小国高等学校との探究学習連携の継続
 - ・全国高等学校小規模校サミットで培った全国の小規模校との関係性を軸に、生徒各自の探究テーマにあった、ア：探究仲間づくり、イ：専門家等からの助言や伴走、ウ：発表とフィードバックの場を構築
 - ・全国高等学校小規模校サミットや研修旅行などによる対面での信頼関係の構築
- ③オンラインコミュニティ構築による進路希望者の学びの動機喚起と進路実現
 - ・全国の小規模校の進学希望者や大学生による「進学希望者コミュニティ」の構築
- ④事業成果の発信による全国の小規模校が抱える共通課題の克服
 - ・全国高等学校小規模校サミットを基軸にした小規模校ネットワークでの情報発信

5 運営指導委員会の体制

	氏名(敬称略)	役職
運営指導委員会委員	阿部 剛志	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 公共経営・地域対策部 上席主任研究員
運営指導委員会委員	稲垣 忠	東北学院大学 文学部教育学科 教授・学長特別補佐
運営指導委員会委員	牛木 力	東北芸術工科大学 コミュニティデザイン学科 専任講師
運営指導委員会委員	岡崎 エミ	一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム 研究開発事業部 研究開発員

6 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

	氏名(敬称略)	機関名
会長	伊藤 明芳	山形県立小国高等学校後援会
委員	佐藤 友春	小国町役場
委員	山吉 大	山形県立小国高等学校PTA
委員	齋藤 弥輔	山形県立小国高等学校同窓会
委員	安部 昌晴	小国高校を支援する会
委員	院去 七穂	小国町地域おこし協力隊
委員	山口 ひとみ	旬彩工房
委員	本間 義人	越後屋
委員	今 夢々花	東北郵政(株)小国郵便局
委員	高橋 史記	日本重化学工業株式会社小国事業所
委員	高橋 安以子	ペレットマン
委員	高橋 泰弘	国際交流団体青い星と白い雲代表
委員	西川 友子	山形県立米沢女子短期大学
委員	家財 綾	飯豊町地域おこし協力隊

7 カリキュラム開発専門家

分類	氏名(敬称略)	所属・職
カリキュラム開発専門家	岡崎 エミ	一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム 研究開発事業部 研究開発員

8 事業の実績

(1)実施日程

事業項目	実施日程	備考
①教科学習における個別最適な学びの充実 ・AI教材Qubena導入	7月～3月	
②探究学習の個別最適化 ア) 1年の取組 ・地域フィールドワーク ・課題解決ミニプロジェクト ・オンライン国際 ・学校祭(学習発表) イ) 2年の取組 ・学校横断型探究学習 ・アントレプレナーシップ講座 ・探究トークフォークダンス ・研修旅行・大槌高校オンライン交流 ・保健体育企業連携授業 ・成果発表会 ・キャリア講演会 ウ) 3年の取組 ・町役場の人と語る会 ・町議と語る会 ・成果発表会 エ) 学年横断 ・2・3年探究を語る会 ・1・2年SDGs演習 ・振り返りワークショップ オ) 白い森人研修 カ) 全国高等学校小規模校サミット関係 キ) その他 ・町教育フォーラム	9月、2月 10月 11月 12月 7月、11月(中間発表)、2月 9月 10月 11月 2月 2月 3月 8月 11月 2月 7月 10月 12月 8月、12月 7月 12月	
③事業運営 ア) 運営実務者会議 イ) 運営指導委員会	11月、2月 7月、12月、3月	

(2)実施の説明

①教科学習における個別最適な学びの充実について

【概要】

AI教材として1年生にQubena、2年生にQureousを一人一台端末のChromebookにインストールし使用した。Qubenaは中学以前の5教科の内容のため、中学校までの学習内容の学び直しができ、Qureousは高校数学(I・II・A・B)の内容なので、高校までの学

び直しができる。それが、1年生にQubena、2年生にQureousを導入した大きな理由である。教員は問題を選んでワークブックとして課題配信をすることができるため、各単元の初めにその分野の復習として使用することができた。また、2つとも生徒が教科と分野を指定して自由に進めることもできるため、自学自習やマイプラン学習に使用することもできた。どの教材もゲーム感覚で取り組める点から、生徒の中には何百問、千問以上と問題を解いている生徒が見受けられた。

【成果】

AI教材を導入した7月の2～3週間という期間をマイプラン学習に充ててみたところ、生徒によって進度の差は非常に大きく、成績上位の生徒は数時間の授業で基本的な内容を終え発展的な内容にまで進んだのに対し、多くの生徒は基本的な内容までで終わってしまった。理解力の差が生んだ結果だといえるが、教材に取り組んでいる生徒の反応に差は無く、全員が通常の授業より学習意欲が高いように感じられた。12月ごろ生徒にアンケートを実施したところ、「AI教材は学習効果があるか」との問いに「かなり効果がある」19%、「どちらかといえば効果がある」89%と2つの回答を合わせると100%であった。また、「AI教材は学習意欲の向上に効果があるか」との問いには「かなり効果がある」9.5%、「どちらかといえば効果がある」85.7%であり、これも2つの回答を合わせると95.2%と高い数字を残す結果となった。この使用している生徒の肯定的な意見が示すように、理解度や習熟度の差に対応すると同時に、学習意欲の向上にも効果が見えるAI教材の使用は、個別最適な学びの教材の1つとして効果的であるといえる。今後は授業だけでなく、学年や学校生活の中での使用方法について検討し、より効果的な教材の使用を目指したい。

②探究学習の個別最適化

【概要】

探究における小規模校の教育課題を解決するため、ICTで学校同士をつなぎ、多様な教育資源を共有しながら興味関心ごとに生徒が学び合いを行う「学校横断型探究プロジェクト」に参加した。今年度は全国から8校が参加し、それを4校ごと2グループに分けて実施した。同じグループの他の3校は岩手県立大槌高等学校、熊本県立小国高等学校、栃木県立足利特別支援学校であり、連携内容は年4回のオンライン連携授業と探究相互発表や進路をテーマにした放課後交流活動、大学生等との連携であった。第1回オンライン連携授業(6月)では、アイスブレイク交流会として、地域をこえた同級生と出会い学校紹介プレゼンテーションやオンラインコミュニケーションのポイント講座等を実施した。第2回オンライン連携授業(7月)では、ゲスト交流会として、自分の興味関心に近いゲスト(社会人ゲスト、大学生ゲスト等)と交流し様々な助言をいただき、これからの探究活動について背中を押してもらった。第3回オンライン連携授業(11月)では、探究テーマ交流会として、オンラインゼミでそれぞれの探究活動を互いに共有し意見交換を行い、本校ではその1週間後、研修旅行で大槌高校を訪れ対面での交流を行った。第4回オンライン連携授業(2月)では、合同振り返り会(成果発表会)として、1年間の探究学習から得た学びを持ち寄って共有し、お互いの成長を振り返った。

【成果】

他校と連携することで少人数指導体制をカバーでき、生徒の幅広い興味関心から始まる探究活動を支援する体制を構築することができた。その結果、生徒が自ら興味関心のあるテーマを設定することができ、やる気や主体性を高めることができた。また、他者とのコミュニケーションを通じて、伝える力や聞く力を身に付けることができたことから、考え方や視点の異なる同世代からの感想や助言を受容し、探究学習への意欲向上や活動を進めるための手段やヒントにつなげることができた。

③事業に関係した取り組み

ア) 各学年の取り組み

- ・ 2・3年探究を語る会(令和4年7月13日)
マイプロジェクトの経験者である3年生と、これから本格的に取り組んでいく2年生が語り合う会が開かれた。グループに分かれ、前半は3年生が昨年度のマイプロについて説明し、後半は2年生が現時点でのプランを話し質問や相談をした。
- ・ 2年研修旅行・大槌高校オンライン交流(令和4年11月8～10日)
岩手県・宮城県の被災地域の視察や体験談を通して、震災からの復興や防災についての理解を深めた。また、岩手県立大槌高校との交流を通して相互の友好を深めた。
- ・ 振り返りワークショップ(令和4年12月20日)
全校生徒がグループに分かれ、様々な挑戦や収穫の多かった2学期を思い返し、振り返りワークショップを行った。年間を通して成長したこと、仲間が頑張っていたこと、自分のあと一歩だったと思うこと、やりたかったこと、自分に喝を入れたいことなどを発表した。
- ・ 2年キャリア講演会(令和5年3月8日)
ハローワーク長井の大山 清志 氏に講師としてお越し頂き、近年の経済動向と企業の求人状況や働き方の変化、大学生や高校生の就職活動の変化などについて講話をお聞きした。

イ) 白い森人研修

- ・ 白い森人研修(振り返り)(令和4年8月2日)
1学期のGP資質・能力到達確認シートから生徒の成長実感をとらえ、2・3学期の取り組みについて考えた。また、AI教材キュビナ・キュレアスについて、生徒のモチベーションを意識した上で、本校での効果的な活用についてワークショップを行った。
- ・ 白い森人研修(ロジックモデル)(令和4年12月22日)
文科省「新時代に対応した高等学校改革推進事業(創造的教育方法実践プログラム)」に係るロジックモデルを全職員で作成することで、目的・目標を共有した。また、次年度の計画につながるよう、本校の教育活動について、何のためにやっているのかという内省や何を強化・改善していかなければいけないのかを認識した。

ウ) 全国高等学校小規模校サミット関係

- ・全国高等学校小規模校プレサミット(令和4年7月11日)
サミット本番に向けてホスト校としての自覚を持つとともに、ファシリテーションなどのスキルアップを図り、おぐに開発総合センター集会室にて、小国高校全校生徒と荒砥高校生4名によるプレサミットを行った。
- ・サミット参加校事前オンライン研修(令和4年7月21日)
全国高等学校小規模校サミット参加校の生徒(希望者)による、事前オンライン交流会を行った。
- ・全国高等学校小規模校サミット(令和4年7月28日)
全国の小規模高校の生徒が交流し親睦を深めるとともに、各校・地域が抱える課題について意見交換し、将来それぞれの地域で活躍する資質・能力や協働意識を育成することを目的とし、参加校の取り組みの紹介、岩本 悠 氏(一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム代表理事)による講演、生徒交流ワークショップを行った。

エ) その他

- ・町教育フォーラム(令和4年12月3日)
おぐに開発総合センターにて、『白い森おぐに教育フォーラム2022』が開催され、小国高校生14名が発表、2名が司会を行った。今回はコロナ禍以降の初の開催となり、感染症対策のため参観者は教育関係者限定で行われた。

④事業運営

ア) 運営実務者会議

- ・運営実務者会議(令和4年11月7日)
岡崎 エミ 氏(一般財団法人 地域・魅力化プラットフォーム)を講師に迎え、第2回運営指導委員会の内容について助言をいただき検討した。
- ・運営実務者会議(令和5年2月16日)
岡崎 エミ 氏(一般財団法人 地域・魅力化プラットフォーム)を講師に迎え、第3回運営指導委員会の内容について助言をいただき検討した。

イ) 運営指導委員会

- ・運営指導委員会による指導・助言(令和4年7月5日)
阿部 剛志 氏(三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)、稲垣 忠 氏(東北学院大学 文学部教育学科)、牛木 力 氏(東北芸術工科大学 コミュニティーデザイン学科)、岡崎 エミ 氏(一般財団法人 地域・魅力化プラットフォーム)による指導・助言が行われた。

- ・運営指導委員会による進捗確認と指導・助言(令和4年12月5日)
阿部 剛志 氏(三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)、稲垣 忠 氏(東北学院大学 文学部教育学科)、牛木 力 氏(東北芸術工科大学 コミュニティーデザイン学科)、岡崎 エミ 氏(一般財団法人 地域・魅力化プラットフォーム)による進捗確認と指導・助言が行われた。
- ・運営指導委員会による成果検証(令和5年3月1日)
阿部 剛志 氏(三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)、稲垣 忠 氏(東北学院大学 文学部教育学科)、牛木 力 氏(東北芸術工科大学 コミュニティーデザイン学科)、岡崎 エミ 氏(一般財団法人 地域・魅力化プラットフォーム)による成果検証が行われた。

⑤全体について

本事業の趣旨は①遠隔・オンライン教育、②新たな教育方法、③教科等横断的な学びの実践である。これらを踏まえた本事業の目的・目標は①教科学習における理解力と習熟度に応じた個別最適化、②小規模校連携構築による人的資源と多様性の確保、教科等横断的学習の個別最適化、③オンラインコミュニティ構築による進学希望者の学びの動機喚起と進路実現、④事業成果の発信による全国の小規模校が抱える共通課題の克服の4点である。①はAI学習システムの導入による学び直しと個別学習の実現であるが、使用した生徒の感想は前述したとおり、AI教材は学習効果があり、学習意欲の向上にも効果があると肯定的な意見であった。②はICTで小規模校をつないだ学校横断型探究プロジェクトであるが、参加した生徒は「授業前は不安であったが、授業後は楽しかった」という感想から、適度な緊張感やストレスが大きな達成感を得たことが分かり、いつもと違う人と話す機会によって「視野が広がった」「今まで考えたことのないことを考えるきっかけになった」「自分だけでは思いつかないアイデアに気付いた」との感想より自分を客観的に見つめることができたようである。また、専門家や多様な大人(サポーター)との出会いから「ロールモデルにしたい」と自分のこれからの人生を考えるきっかけとなり、たくさん褒められ、多くのアドバイスをいただいたことで、「自分のマイプロに自信が持てた」「やる気が出た」と背中を押してもらえたようである。また、小規模高校連携放課後企画では「マイテーマを持って進学した先輩との交流会」を実施し、本校からは2年生1名、1年生2名が参加したが、参加後の感想は「参加してよかった」(100%)、「進学した先輩の話は参考になった」(100%)、「また交流会に参加したい」(100%)であり、「勉強の仕方とか教えてもらい、今後の力になることがたくさんあった」「高校生のうちにやっておいた方がいいことが分かった」「進路の選択の幅が広がった」と全員にとって学びの多い企画であった。生徒の変容に加え、教科等横断的学習も英語・地理・家庭の組み合わせや国語・保健体育の組み合わせなど多様な組み合わせで7回実践することができたことも今後につながる。と考える。

運営指導委員の阿部剛志氏(三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)の「高校魅力化評価システム 組織診断ポートフォリオ」の分析によると、本校のGP資質・能力は3領域20項目で構成されているが、このうち本事業「創造的教育方法プログラム」は12項目の資質・能力に関連しているとのことである。しかも12項目の中でも特に「学ぶ

意欲」「やり抜く力」「対話力」の3項目に顕著な変化が現れる傾向にあることから、これら3項目の分析をいただいた。

「学ぶ意欲」について

- ・『生徒の自己認識』の「学習を通じて、自分がしたいこと増えている」は第1学年(92.0%)、第2学年(84.2%)、第3学年(87.5%)とも高位安定していた。
- ・『生徒の行動実績』の「授業で「なぜそうなるのか」と疑問を持って、考えたり調べたりした」は第3学年が2年次との比較で+14.29pt、「公式やきまりを習う時、その根拠を自分で考えたり調べたりした」は第3学年で+16.67pt、第2学年で+14.14ptと大幅に改善した。

⇒ 2・3年生で「自学自習習慣の定着」とも読み取れる指標の動きがあった。

「やり抜く力」について

- ・3年生、2年生ともに上昇傾向である。特に「忍耐強く物事に取り組むことができる」は第2学年78.9%(+16.45pt)、第3学年83.3%(+15.48pt)と顕著な変化が確認できた。

⇒ 創造的実践プログラムで導入した教材等が寄与している可能性がある。

「対話力」について

- ・「相手の意見を丁寧に聞くことができる」は第1学年(92.0%)、第2学年(94.7%)、第3学年(95.8%)とも高位安定の傾向である。他方、『生徒の行動実績』の「協働性」に関わる「自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた」が第1学年(68.0%)、第2学年(68.4%)、第3学年(70.8%)で「友人などから、意見やアドバイスを求められた」が第1学年(80.0%)、第2学年(84.2%)、第3学年(66.7%)と中位安定している。

⇒ 個別の学びは進む一方、「学び合い」までは発展していない、もしくは「学び合う」機会が不足している可能性がある。

様々な取組に対する生徒の思いや考えに変化が見られ、またアンケート等による客観的な数字も事業の推進による可能性があることも示された。これらの事実と運営指導委員の助言をもとに来年度も事業を推進し、目的である全国の小規模校が抱える共通課題の克服に向け、新たな教育方法に挑戦していきたい。

Ⅱ 事業の詳細

1. 新事業の取り組み

(オンライン学校横断型探究
学習・AI教材の活用)



令和4年度 学校横断型探究プロジェクト
第2回 オンライン合同授業「ゲスト講演会」

1. 期 日 令和4年7月15日（金）
2. 時 間 3, 4 時間目（10時55分～12時30分）
3. 場 所 各学校（Zoom利用）
4. 参加生徒 合計236名
岩手県立大槌高等学校 55名 熊本県立小国高等学校 33名
茨城県立小瀬高等学校 25名 島根県立吉賀高等学校 30名
山形県立小国高等学校 19名 栃木県立足利特別支援学校 2名
第一学院高等学校 29名 宮崎県立高千穂高等学校 43名
5. 目的
・ 仕事や活動を通して、自分のテーマをプロジェクトとして取り組んでいるゲストから話を聞き、探究学習に対する意欲を高める機会とする。
6. 内容
・ オンライン上でのゲスト講演会。（13名のゲスト講師）
・ 「自分が熱中できるテーマを見つけ、探究することのおもしろさ」を伝えていただく。
・ 生徒は1名のゲストから話を聞く。
7. ゲスト
板谷 悠佑 氏（野崎徳洲会病院〔理学療法士〕）
今川 哲矢 氏（株式会社ti）
加藤 聡 氏（日本テレビ）
佐々木 文人 氏（株式会社KNOT WORLD）
信岡 亮介 氏（株式会社アスノオト）
松岡 弘明 氏（カミハグプロダクション株式会社）
和田 大志 氏（熊本県庁）
井下 友梨花 氏（熊本県益城町教育委員会〔地域おこし協力隊〕）
落合 真弘 氏（慶應義塾大学2年生）
後田 将人 氏（関西学院大学3年生）
中島 幸乃 氏（慶應義塾大学3年生）
湯目 由華 氏（中種子町地域おこし協力隊）
總山 萌 氏（株式会社Community Nurse Company）
8. 生徒の声
「普段は関わることのできないような方々と話すことができて良かった。」
「実際に当事者の方にお話をお聞きできて良かった。これからの探究の授業に活かしていきたい。」
「好きなことや興味があることを探すことは大切だと思った。」
「地域の課題に向き合い活性化を目指して自分ができることをやっていきたい。」
「『その時しか楽しめない事をその時に取りこぼさない』というアドバイスをもとに、探究活動に励んでいきたいと思う。」
「自分が選んだ方の話や、各校の生徒がどのように思っているのか等を聞くことができ、とても良い時間になった。」
「何かやりたいけどわからない時には、リセットして色んなことをすると見えてくるものがあるのかなと思った。」
「感想共有の時、皆リアクションしてくれて、非常に話しやすい雰囲気が作れていてとても良い時間になった。」

令和4年度 学校横断型探究プロジェクト
第3回 テーマ別探究交流授業

1. 期 日 令和4年11月2日(水)
2. 時 間 5, 6校時 13:30~15:20
3. 場 所 小国高校(Zoom) 2-1教室、学習室1、学習室2、地域協働ルーム、応接室
4. 参加校

山形県立小国高等学校 2学年19名 熊本県立小国高等学校 2学年37名
岩手県立大槌高等学校 2学年58名 足利特別支援学校 2学年3名 合計117名

5. 目 的 ※育成したい資質・能力【対話力】【情報収集活用力】【学ぶ意欲】

小規模高校には地域資源と接続しやすいというメリットがある反面、多様な興味関心を持つ生徒を支援することが難しいというデメリットがある。オンラインを活用することで多様な同級生や先生と出会う機会を設け、多様な興味関心を支援する。

今回(全4回中の3回目)は、興味関心が近い生徒同士でオンラインのゼミをつくり、各自の探究活動を紹介し、意見交換を行う。また、学校を越えて興味関心を交流させることで、自身の探究を深めるヒントを得るとともに、継続的に学び合うことのできる多様な同級生や教員と出会う機会とする。

6. 交流の流れ

- ①趣旨説明

- ・本校の生徒2名が全体司会を務め、活動の進め方やマナーなどの説明をする。

- ②探究交流

- ・生徒4人ずつのグループに分かれ(探究の内容等により事前に編成)、ブレイクアウトルームにて交流する。
- ・各グループにゲストサポーターが入り、進行、助言等を行う。
- ・探究で取り組んでいることやアドバイスがほしいことについて1人ずつ話をする。

- ③振り返り

- ・他の人のプロジェクトを聞いて学んだことや今後やってみたいことなど、一人ずつ発表する。

- ④感想共有・まとめ

7. 生徒の声

「私と似たようなプロジェクトをしている人の発表を聞いて、とても共感できた。自分の活動にも活かしていきたいと思った。」

「同じ班の人の話を聞いて、みんな自分なりのプロジェクトを考えて実行していてすごいと思ったし、自分の好きな事をやっていていいなと思った。」

「マイプロジェクトでやることを『すごい』と言ってもらえて嬉しかった。」

「自分のマイプロジェクトに対して自信がなかったけど、アドバイスを貰えたり感想を言ってもらえたりしてやる気が出た。とにかく楽しむことを大事にしようと思った。他の子達も面白そうなマイプロジェクトをしていて興味が湧いた。」

「みんなそれぞれ違う観点からプロジェクトを行っていて楽しかった。サポーターの方は、一人ひとりのマイプロジェクトに対して親身になって褒めてくださったり、アドバイスしてくださったりしてくれて楽しいオンライン探究になった。」

令和4年度 学校横断型探究プロジェクト
第4回 オンライン合同授業

1. 期 日 令和5年2月17日(金)
2. 時 間 3, 4校時 10:55~12:45
3. 場 所 小国高校(Zoom)
4. 参加校
山形県立小国高等学校 2学年17名 熊本県立小国高等学校 2学年32名
岩手県立大槌高等学校 2学年51名 足利特別支援学校 2学年3名 合計103名
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【学ぶ意欲】【振り返る力】【対話力】
今回は、1年間のオンライン探究連携のまとめとして、それぞれの探究活動を発表し、それを通じて得た学びを振り返る活動を行う。また、ゲストサポーターからの質疑応答やコメントを通じて、新しい気づきや発見が促される機会とする。
6. 講 師
相原 雅史 氏【株式会社ウィルオブワーク】 芝 哲也 氏【一般社団法人クリエイティブ思考協会】
阿部 公一 氏【株式会社山のむこう】 白杉 紫帆子 氏【同志社女子大学(学生)/NPO法人ROJE】
池本 修悟 氏【武蔵野大学アントレプレナーシップ学部】 杉浦 遥平 氏【一般社団法人ウィルドア】
伊藤 大貴 氏【一般社団法人ココラボ】 関 智穂 氏【名寄市立大学(学生)】
伊藤 凜聖 氏【順天堂大学(学生)】 高橋 亜佑 氏【製造業会社員 SDGs推進室】
板矢 悠佑 氏【野崎徳洲会病院】 高橋 希 氏【上智大学(学生)】
岩間 幸枝 氏【立教大学(学生)】 高橋 泰弘 氏【高橋時計店】
岩持 友也 氏【認定NPO法人カタリバ】 竹入 悠渡 氏【名古屋大学(学生)】
上田 彩果 氏【NPO法人SET】 田島 颯 氏【暮らしの交通株式会社/慶應義塾大学(学生)】
上田 敏孝 氏【OAGE】 中尾 征貴 氏【お面職人(島根県)】
江崎 万里奈 氏【一般社団法人高校生みらいラボ】 中島 幸乃 氏【慶應義塾大学(学生)】
大橋 護 氏【L.A.F Inc. /任意団体Shine(教育系)】 中村 怜生 氏【さとのぼ大学】
落合 真弘 氏【慶應義塾大学(学生)】 橋本 武 氏【ぴよん企画代表】
風越 遥 氏【早稲田大学(学生)】 早川 輝 氏【NPO法人みやっこベース】
川島 レラ 氏【青山学院大学(学生)/NPO法人みやっこベース】 堀之内 陸十 氏【宮崎大学】
君島 真叶 氏【宮城大学(学生)】 山口 凌 氏【熊本大学(学生)】
久保 慶太郎 氏【横浜市立大学(学生)】 山田 尚 氏【一般社団法人LOCAL-HOOD】
栗原 咲子 氏【任意団体Shine(教育系)】 山森 達也 氏【コワーキングスペース三島クロケット】
佐々木 文人 氏【株式会社ノットワールド】 渡部 大知 氏【N高等学校】
佐藤 恒平 氏【まよひが企画/ゲストハウス松本亭一農舎】 和田 大志 氏【熊本県庁/東京大学公共政策大学院(修士)】

7. 交流の流れ

①趣旨説明

- ・本校の生徒2名が全体司会を務め、活動の進め方やマナーなどの説明をする。

②探究交流

- ・前半 小グループに分かれ、探究活動の最終発表
- ・後半 選択活動
 - A 深める対話
(大学教員・社会人ゲストサポーターによる探究をさらに深める相談や専門的フィードバック)
 - B 振り返り対話
(探究の学びや次の一步を考える振り返り・交流)

③感想共有・まとめ

8. 生徒の声

「同学年の人と話す機会が少なかったのでとてもためになったし、自分とは違う意見があったので視野も広がった。」

「自分には思いつかないアイデアを知れた時間だった。またやりたい。ファシリテータースキルを磨けた。」

「みんなが自分や町のために自分なりの対策を考えているのはすごいことだと思った。」


「それぞれが進路に活かそうとしているのが良いと思い、そのために探究することが大切だと改めて思えた時間だった。その時思った自分の気持ちや、考えをもっと深彫りしていくのが大切だと学ぶことができて良い時間だった。」


9. 状況写真



AI型教材について


(1)説明 Qubena(キュビナ)、Qureous(キュレアス)の導入(7月)


 **Qubena** …(1年生に導入) 中学までの内容(5教科)。問題の解答を画面に手書きで記入し、間違えるとAIが前に戻って出題してくれる。一人一台端末で気軽に学習に向かうことができ、教員が課題配信もできる。

 **Qureous** …(2年生に導入) 高校数学 I・A・II・Bの内容。
使い方はQubena同様。

導入まで時間がかかり、生徒一人一台端末chromebookにインストールできるようになったのは7月の第2週～第4週だった。夏休み開始1週間～2週間前からの使用となったため、夏休み前には各教科で一度使用してみる程度であった。教員の使用方法説明会をオンラインで行っていたため、教科によっては夏休みの課題としても使用した。夏休み明けから本格的に使用している。学校でタッチペンも購入し、3年生も含め全生徒に配布している。

(2)使用方法

 **Qubena** …5教科の中学以前の内容のため、中学校の内容を学び直しできる。生徒が教科と分野を指定して自由に進めることができる。ゲーム感覚で何百問、千問以上と解いている生徒も見受けられた。高校の学習では、各単元の初めにその分野の復習として使用することができる。教員は問題を選んでワークブックとして課題配信することができる

 **Qureous** …数学 I・A・II・Bの内容でQubena同様に復習できる。現在2年生の数学A(全員)と数学II(進学系4名)で使用。单元ごとにワークブックを作ったりして復習に使用している。

個別最適な学び…自学・自習やマイプラン学習での活用が期待できる。

(3)〈参考〉マイプラン学習(1年数学Iで7月に実施)

マイプラン学習(単元内自由進度学習)説明書

マイプラン学習とは?
1単元分の学習時間をまるごと生徒一人ひとりに委ね、各自が自分に最適だと考える学習計画をたて、自分の判断と責任で自由に学ぶ学習です。

なぜ?
生徒一人ひとり理解度は異なります。わかる人はどんどん先に進み発展的な内容まで学習することができ、わからない人はゆっくりと自分の理解度に合わせて進めることができます。

先生は?
困ったときは先生や友達に聞いてもいいです。ですが、まずは自分で考えて色々な教材を調べてみましょう。

内容は?
今回は「2章 集合と論証」の内容を夏休みまでの期間で行います。「学習のてびき」にしたがって各自のペースで進めてください。STEPごとに進めることをお勧めします。途中先生からのチェックを受けてから次のSTEPに進みましょう。

早く終わったら?
発展学習を行います。全員がそこまでやる必要はありませんが、難しい内容に取り組むことで思考力を養うことができます。

マイプラン学習 数学I 学習のてびき (単元: 2章 集合と論証)

1年1組 _____ 番 氏名 _____

平野内府

	プリント	教科書(参考)	WRITE	スタサプ(参考) ペーシクレベル1A第4課
①集合	4.0	p30~32	p32~33	チャプター1~4
②条件と条件	4.1	p34~36	p34~35	チャプター5~6
③必要条件・十分条件	4.2	p37~39	p36~37	チャプター7~8
④否定・逆・裏・対偶	4.3	p70~71	p38~39	チャプター7~8
⑤証明法(発展)	4.4	p71~73	p38~39 Level Up	ハイレベル/数学1A1B 第15課

学習の流れ(7月6日(水)~7日(金) 前9時の予定)

STEP1 プリント4.0~4.3 の内容を身につける。 チェック1 プリント4.0~4.3を先生に見せ、質問に答える。 →	チェック印
ここまではお必ず読むこと	
STEP2 WRITE p32~38 Level A問題を の内容を身につける。 チェック2 WRITE p32~38 Level Aを先生に見せ、質問に答える。 →	チェック印
できるだけここまで進む	
STEP3 WRITE p39~37 問題を の内容を身につける。	
STEP4 教科書 p33,74 Trainingを解く。	
発展学習	
・証明法 を理解する。 ・教科書 p73 Level Up を解く。	

比較的短い単元をまるごとマイプラン学習で行った。使用教材はプリント集、ワーク、教科書、スタディサプリ。7月のQubena導入前後であったため、Qubenaを教材に入れられなかった。場所は1年教室、隣の学習室2、協働ルームの3室を使用して、動画を視聴する際も他の邪魔にならないように配慮した。生徒の反応は、通常の授業より学習しようとする意欲がより多くの生徒から感じられた。

限られた期間(2~3週間)で行ったが、生徒により進度の差は非常に大きく、トップの生徒は数回の授業でノルマの内容を終え、期間内に発展学習まですべて終了したのに対し、多くの生徒は期間内にノルマまでも終えられなかった。

理解度、習熟度の差に対応すると同時に、学習への意欲向上のため、個別最適な学びが必要となる。AI型教材の使用は個別最適な学びの教材の1つとして効果的である。

(4) 成果

- ・今年度AI型教材(Qubena、Qureous高校数学)を導入し、生徒も教員もまずは使ってみてその効果を知ることができた。
- ・Qubenaにおいては、自習時や長期休業の課題としたり、単元の始めにレディネスチェックとして活用したりするなど使い方に工夫を加えた。
- ・Qureous高校数学においては、進んだ授業内容の復習として使ったり、定期テストのテスト勉強用として活用したり、その他活用の可能性を知ることができた。
- ・活用例を情報共有できるようシートを作成し、数は少なく仕組みの改善点はあるものの、来年度へ向けて仕組みを構築できた。

(5) 課題

- ・課題や授業で使用しない限り生徒が自主的に使う状況にはなっていない。
- ・AI型教材だけでなく、生徒が自主的に学ぼうとする教員側の仕掛けの意識が必要である。
- ・予算の縮小により、来年度使用できる対象学年は今年度とほぼ変わらない。
- ・特にQubenaについては、教科の中だけにとどめず、学年や学校全体として活用法を検討すべきである。

(6)第3回運営指導委員会の課題解決ワークショップ状況写真



2. 「白い森未来探究学」及び 地域協働の主な活動報告



白い森未来探究学 第1学年 地域文化学 オープニング講座

1. 期 日 令和4年4月28日(木)
2. 時 間 5, 6時間目 (13:25~15:15)
3. 場 所 大宮子易両神社
4. 参加者 第1学年29名、教員3名、コーディネーター2名 合計34名
講師：宗教法人大宮子易両神社 遠藤成晃 氏
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【受容力】【創造的市民性】【持続可能性意識】
小国町の伝統文化の一つである信仰について学び、地域における神社の役割や宮司さんの思いに触れることで、資源や文化を守り繋いで行くことの重要性を意識し、今後の活動の軸とする。
6. 成果
 - ・1300年以上続く神社が小国町にあることを学び、生徒たちは地域への誇りを感じることができた。
 - ・大宮子易両神社の信仰を学ぶことで、日本人の心について考えることができた。
 - ・神社は地域コミュニティとして重要な役割も担っていることを学び、地域コミュニティへの参加意欲が上がった。

生徒の声：

「大宮神社の歴史は1310年と長くて、小国に奈良時代からある神社があることを知ることができて良かった。」

「私も巫女さんボランティアの活動に参加してみようと思う。」

「じっくり写真を撮る時間もあり、地元の神社の魅力に気づくことができた。」

7. 状況写真



白い森未来探究学 第1学年 地域文化学 地域に浸る講座①

1. 期 日 令和4年5月26日(木)
2. 時 間 4-6時間目 (12:25~15:50)
3. 場 所 小国町小玉川地区
4. 参加者 第1学年29名、教員3名、コーディネーター2名 合計34名
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【対話力】【行動力】【共感力】
小国町のマタギ文化や地元での仕事等についてお話していただくことで、生徒たちに自然との共存(生命をいただくという循環システム)や小国町にこそその魅力の理解につなげる。
講師：
A：本間義人氏(民宿越後屋若旦那/小国高校OB/マタギ/本校スキー授業講師)
B：伊藤良一氏(元マタギ/元小国町議/森林セラピーアテンダント)
C：横山尚美氏(民宿奥川入女将/小国高校OG/マタギの妻)

6. 成果

- ・マタギ文化に触れたことで、自然との共存や小国の魅力を理解できた。
- ・マタギの歴史を知ったことで、郷土愛を育むことができた。
- ・『幸せとは』について、学校とは違った環境で深く語り合うことで共感力を育成できた。

生徒の声：

- A：「最初マタギの人は男性だけだと思っていたけど、女性のマタギもいるとお聞きしてかっこいいなと思った。また熊の胃を舐めさせてもらえるという貴重な体験ができてよかった。」
- B：「昔と今ではマタギのやり方は変わっている。小国町の歴史に触れていくうちに小国をどんどん知って行って良さがわかってきて、もりたんの時間が楽しい。」
- C：「わらびとりから始まり、とても楽しい講座だった。わらび取りは初めてで、柔らかい食べられる状態に触れることが多かったので、あんなにパキッと折れるなんて初めて知った。また『幸せとは』の作文について、自分の考えに尚美さんが返してくれた内容も他の人の内容も人生というものについて深く考えさせられる、とても良いものだった。」

7. 状況写真



白い森未来探究学 第1学年 地域文化学 地域に浸る講座②

1. 期 日 令和4年6月16日(木)
2. 時 間 5, 6時間目 (13:25~15:15)
3. 場 所 小国町東部地区
4. 参加者 第1学年29名、教員3名、コーディネーター1名 合計33名
講師：A 川崎恵氏/B 山口ひとみ氏/C 渡部明菜氏
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【対話力】【行動力】【共感力】
生徒が自分の「やりたい」を見つけるために、自分のやりたいを極めて楽しんでいるキラキラした地域の大人たちにたくさん出会い、ふれあい、対話する中で気づき、そこから考える。今回は、東部地区にある自然と共存した生活や移住者が多く受容力・多様性に溢れている様子、支え合い・助け合いのある豊かなコミュニティを感じ、考える機会とする。
6. 成果
 - ・地域との繋がりを大事にしている人たちに出会い、対話や体験を通して、講師が大切にしていること（支え合いや助け合い等）に気づくことができた。
 - ・自然と共存した生活や、移住やUターンしてきた方との対話から、東部地区の受容力や多様性を感じることができた。
 - ・質問を考えて講座に臨めたことで、問いを持って対話したり考えたりできた。

生徒の声：

- A 「動物ともっと関わりたいと思ったし、大切にしたいと思った！」「小さいころの夢だったり、好きなことをやっていると将来につながったりすることが分かった。職業を通して命のことを学んだり、様々な価値観に触れ合えたりすることができた。」
- B 「仕事というのは1人ではできないということ。自分とクライアントがいて初めて成り立つ。そして、自分ひとりで事業を展開するということもまた、難しいということを知れた。」「旬彩工房では、安全でかつ、おいしいものを作り、お客さんに安心して食べてもらおうと工夫して、販売までやっていることがわかった。」
- C 「地域の方との関わりを大事に、地域を大切に、誇りに思っているようだった。」「地域のためと無理やにっコリンクをやっているのではなくて、自分からやっているんだなあと分かり、講師の方たちは本当に優しい人たちなんだなあとと思った。」「なんか皆さんとても楽しそうで自分のやりたいことをやってるような感じでとても雰囲気よかった！」

7. 状況写真



白い森未来探究学 第1学年 地域文化学 夏課題発表会

1. 期 日 令和4年8月26日(金)
2. 時 間 5, 6時間目 13:25~15:15
3. 場 所 小国高校会議室
4. 参加者 第1学年24名、教職員6名、役場職員1名、CN2名
5. テーマ 「小国町にこそ!」の良さを見つけて紹介しよう!
6. 目 的 ※育成したい資質・能力【伝える力】【やり抜く力】【共感力】【受容力】
 - ・自分の思いを言語化・表現し、相手に伝える(プレゼントする)機会を通して、発表する楽しさや難しさを感じ、また、他者からのフィードバックを得て学びを深める機会とする。
 - ・仲間の発表を真剣に受け止め、また、仲間から気づきを持つことができる、Yes, and!できるクラス内の安心・安全の土壌、多様性の土壌を耕す。
7. 発表方法 ビジュアル資料(写真・動画・絵など)を提示し、Googleスライドまたは口頭でタイトルや資料紹介、選定理由などを伝える。(1人3分程度)
8. 発表会の流れ
 - ・発表会のねらい説明
 - ・1人ずつ発表(休憩を適宜入れる)※県外生オープンスクール見学あり(10分程度)
 - ・参加者より講評
 - ・グッジョブシール(観客が、発表者の良かった点を記入したシール)を発表者に渡す
9. 講 評
 - ・高校生の感性は素晴らしい。
 - ・臨場感(光の加減、水の冷たさ、空の色づき等)のある作品が多かった。
 - ・堂々と発表している姿が印象的であった。
 - ・高校生ならではの発見があり、驚かされる。
 - ・小国町の魅力を再発見でき、行ってみたい、見てみたいと思った。
 - ・悩んだり、忙しかったりする時こそ、空を見上げてみるのも良いと思った。
 - ・写真の構成などもよく考えられている。
10. 状況写真



白い森未来探究学 第3学年 地域構想学 ～町役場職員と語る会～

1. 期 日 令和4年8月30日(火)
2. 時 間 12:30～15:35
3. 場 所 おぐに開発総合センター
4. 参加者 第3学年24名、教職員4名、CN2名
5. 目 的
※育成したい資質・能力【思考力】【創造力】【創造的市民性】【持続可能性意識】
 - ・小国町役場の各部署から業務内容や現状と課題、高校生とやってみたいこと等をお聞きすることで小国町をより深く知り、町のために自分には何ができるのかを考える。
 - ・ありたい未来について前向きに考え、卒業後のライフワークにつなげる。
6. 講 師
小国町役場(総合政策課、町民税務課、町民税務課、産業振興課、教育振興課の5部署)
※地域整備課・総務課は豪雨災害対応のため今回対応不可
7. 内 容
グループに分かれて、各課の担当者と対話し、小国町の現状と課題や業務内容等を知る。
(構想を描く基礎を学ぶ)
8. 当日の流れ
 - ・アイスブレイク(連想ゲーム等)
 - ・本講座のねらいや見通し説明
 - ・各部署より業務内容や最近の取り組みなどの話
 - ・希望部署ごとグループに分かれ、具体的な現状と課題や、高校生と一緒に考えたいことや高校生にお願いしたいことなどについての対話
 - ・感想・チェックアウト
9. 各部署のテーマ
 - 【総合政策課】「移住者の状況」もっと増やすにはどうしたらいいのか？
 - 【町民税務課】「ごみの年間排出量の状況」もっと減らすにはどのような工夫が必要か？
 - 【健康福祉課】「子育て支援」子育てしやすいサービスの調査
 - 【産業振興課】「ふるさと納税の現状」寄付額を増やすというよりも、どうしたら多くの方に共感して寄付してもらえるか？
 - 【教育振興課】「小国高校の魅力化の現状」令和5年度以降の放課後の活動をより充実させるには？

10. 状況写真



1. 期 日 令和4年9月7日(水)
2. 時 間 13:25~15:15
3. 場 所 小国高校会議室
4. 参加者 第2学年生徒15名、教員4名、CN2名
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【創造力】【思考力】【学ぶ意欲】
将来、起業家にならずとも、起業家的な行動や思考(起業家精神)を養うことで、「無から有を創り出す」楽しさを知り、新しい時代を自分らしく生き抜くことができる人材を育てる。今回は、「高校生がプロジェクトを行うと社会的にどんな意義があるか」、「なぜプロジェクト(探究)は面白いのか」、「プロジェクトを進めるにあたって、実践的なお金の使い方・考え方」等、物事の価値について深く学ぶことで、自分のマイプロジェクトの価値を見出すことにつなげる。
6. 講 師 山のむこう株式会社 代表取締役/探究教室ESTEM(エステム)代表 大垣 敬寛 氏
7. 内 容
 - ・講師自己紹介
 - ・講話
 - ◇仮説検証について
 - ▶case1. カフェの設営(地域に若者が集まると色んな事ができるのでは)
 - ▶case2. 探究教室ESTEM(学びの楽しさを学べる場、何でもチャレンジできる場があるとよいのでは)
 - ▶ワークショップ(グループ対話)
 - 「やりたくなく、やらなくてもいいものを、どうしたらやめられるか」
 - 「やりたくなく、やらなくてはいけないものを、どうしたら楽しめるか」
 - ◇お金と価値の話
 - ・感想
8. 生徒の声

「マイプロをする上で参考にしたい『自分のすることの価値』を知ることができてよかった。」

「自分がやりたいこととやりたくないことを改めて考えてみると、みんなと同じような悩みを抱えているんだなと思った。今日の講座で『誰かが喜ぶものに価値がある』とおっしゃっていたので、それをマイプロに活かしたい！」

「自分の考えていたことがしっかりと見えて、これからのことに繋げられるいい機会になった。行き詰まったら、自分の身近なことに視点を向けていきたいと思った。」

「難しく考えずに、楽しくマイプロを進めていきたい。」

「改めて、自分の将来のことやマイプロのことを考えることができた。グループワークは自分の悩みを友だちの意見を聞いて解決できたし、友達の悩みの手助けができたので良かった。楽しかった」
9. 状況写真



1. 期 日 令和4年9月14日(水)

2. 時 間 8:50~10:40

3. 場 所 小国高校1-1教室

4. 参加者 第1学年生徒26名、教員3名、CN2名

5. 目 的 ※育成したい資質・能力【情報収集活用力】【思考力】【行動力】

生徒が自分の興味関心を理解するために、やりたいを極めている大人たちにたくさん出会い、ふれあい、対話する中で気づきを持つ。さらに、地域を直に感じることの楽しさを味わう。

本授業は、生徒個々に興味のある訪問先を選択し、西置賜地区内をフィールドワークすることで、身近にある様々な取組み（小国町には無い取組みや先進的な取組み等）について知見を深め、気づきを得る。

6. 講 師

工藤 裕太 氏

元長井市地域おこし協力隊。現在は長井市重要文化的景観コーディネーターとして建築設計やデザインの仕事をされている。山形工科短期大学の非常勤講師でもあり、幅広い分野で長井市の地域おこしに貢献されている。

7. 内 容

- ・講師紹介
- ・長井市・飯豊町の訪問先説明
- ・訪問先選択
- ・インタビュー講座(インタビューの仕方のポイントを学ぶ)
- ・講師の活動紹介
- ・訪問先への質問準備

8. 状況写真



白い森未来探究学 第1学年 地域文化学 飯豊町・長井市巡り

1. 期 日 令和4年9月22日(木)
2. 時 間 8:40~16:00
3. 場 所 飯豊町・長井市
4. 参加者 第1学年生徒25名、教員4名、CN2名
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【情報収集活用力】【思考力】【行動力】
生徒が自分の興味関心を理解するために、やりたいを極めている大人たちにたくさん出会い、ふれあい、対話する中で気づきを持つ。さらに、地域を直に感じる楽しさを味わう。
本授業は、生徒個々に興味のある訪問先を選択し、西置賜地区内をフィールドワークすることで、身近にある様々な取組み（小国町には無い取組みや先進的な取組み等）について知見を深め、気づきを得る。
6. 講 師
【ひらすび牧場】（飯豊町手ノ子） 金田 舞美 氏
【香月】（飯豊町萩生） 味田 勝徳 氏
【いいで天文台】（飯豊町萩生） 手塚 秀幸 氏
【HOTEL SLOW VILLAGE】（飯豊町萩生） 樋口 龍一 氏
【MonMonMon】（長井市本町） 小関 氏 高橋 氏 遠藤 氏
【文教の杜ながい】（長井市十日町） 後藤 卓朗 氏
【ながいアフタースクール】（長井市まもの上） 山本 和馬 氏、田中 智佳 氏
【けん玉工房spike】（長井市栄町） シェルビー・ブラウン 氏
【NUKA DOCO LIFE】（長井市本町） 船山 裕紀 氏
【山形鉄道】（長井市本町） 中井 晃 氏、佐藤 孝一朗 氏、鈴木 満成 氏
7. 状況写真





令和4年度「命の大切さを学ぶ教室」

1. 期 日 令和4年9月30日(金)
2. 時 間 11:00~12:00
3. 場 所 小国高校体育館
4. 参加者 全校生徒、教職員、小国警察署関係者
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【共感力】 【自己肯定感】
犯罪被害者・交通事故被害者の御遺族の講話により、一人ひとりの内面により深く働きかけ、自他の命を大切にする心の醸成を図る。
6. 講 師
交通事故被害者 中曽根 えり子 氏
新潟県胎内市在住。平成11年、長男(当時7歳)を交通事故で亡くす。
現在、(公社)にいがた被害者支援センター理事・支援局長を務めている。
7. 主催等
主催 小国高等学校 小国警察署
協力 山形県警察本部 (公社)やまがた被害者支援センター
山形県人権啓発活動ネットワーク協議会
8. 内 容
 - ・開会のことば
 - ・講師紹介
 - ・講話
 - ・生徒感想共有
 - ・お礼のことば
 - ・閉会のことば
9. 生徒の声
「今回の講義でお聞きしたお話を、今日家に帰ってから家族にも話してみて、改めて命の大切さや気をつけていきたいことを共有したいと思う。」
「『あのとき、ああすれば』などの後悔をしたくないし、してほしくないので、今日のことを大切にしていきたい。」
「家族には『運転するときには本当に気をつけてほしい』ということ伝えて、毎日の生活が一瞬の出来事ではなくなってしまうように生活していきたいと思った。」
「自分を大切に思ってくれている人は周りにたくさんいるんだという言葉聞いた時に、誰か困っている人や苦しんでいる人がいたらそっと手をさしのべられるような人になりたいと思った。」
「いつ誰がどの立場になってもおかしくないのが交通事故の怖さでもあるので、自分関係ないと思わず、登下校や、自転車の運転など、色々なことに気をつけていきたいと思った。」
10. 状況写真



令和4年度「薬物乱用防止講話」

1. 期 日 令和4年10月13日(木)
2. 時 間 14:25~15:15
3. 場 所 小国高校体育館
4. 参加者 全校生徒、教職員
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【学ぶ意欲】【思考力】【行動力】
身近にある薬物乱用への危険、薬物乱用防止に関する認識を深め、本校生徒が自身の行動について適切な意思決定や選択ができる力を身につけさせることを目的とする。
6. 講 師 学校薬剤師 高橋 美和子 氏
7. 内 容
 - ・薬とは
 - ・依存性について
 - ・身近な薬や調剤薬局で取り扱う薬について
 - ・薬の飲み合わせについて（お薬手帳の活用法）
8. 生徒の声

「危険薬物のことだけでなく、普段自分たちが服用している薬のことを知ることができてとても良かった。この講話を聞いて、身近に麻薬が存在していることにとても驚いた。」

「薬物は麻薬とか大麻などのことだと思っていたけれど普段使っている頭痛薬、普段飲むコーヒー、身近なものも関わりが多かったのもっと知りたいと思った。」

「市販薬に頼りがちになってしまうが痛みを強くしてしまう可能性があることを知って使い方には気をつけようと思った。自分で量をコントロールすることを意識して生活していきたい。」

「タバコやアルコールに依存してしまってもそれを治す治療があることを初めて知り、驚いた。家族の健康のためにもその治療を勧めたり、適度なタバコとアルコールをお願いしたりしようと思った。また、早く直したいからと言って薬を過剰に摂取せずに、これからも安全に薬を飲んでいきたい。」

「薬物乱用と聞くと、私はなんとなく大麻、覚醒剤を強くイメージしていたが、それだけではなくて、私たちが普段使う薬も正しく使わないと大変なことになってしまうのだとわかった。自分で考えたり、わからない時は周囲の人に聞いたりしながら適切に使っていききたい。」
9. 状況写真



1. 期 日 令和4年10月19日(水)
2. 時 間 13:25~15:15(5-6校時)
3. 場 所 小国高校体育館
4. 参加者 第2学年18名、教員4名、CN2名
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【対話力】【伝える力】【振り返る力】
マイプロジェクトへの生徒のモチベーションを上げるとともに、プロジェクトに勢いをつけるために、周囲から多様なフィードバックを受け、視野を広げ、考えを深める。中間発表として紹介することを通して、テーマやアクションの再確認を行う。
6. 講 師 (五十音順)
五十嵐 秀子 氏 (昔語り「ゆるり座」)
永野 久美子 氏 (小国町教育委員会)
大垣 敬寛 氏 (山のむこう株式会社 代表取締役/探究教室ESTEM(エステム)代表)
片桐 康代 氏 (小国町教育委員会)
木村 和子 氏 (小国高校事務員)
小関 良枝 氏 (元保育士)
後藤 武蔵 氏 (飯豊町地域おこし協力隊)
齋藤 竜哉 氏 (小国町役場)
柴田 伸也 氏 (柴田屋)
高橋 俊典 氏 (小国町教育委員会)
高橋 泰弘 氏 (高橋時計店)
竹入 悠渡 氏 (来年度小国高校魅力化CN希望者)
中原 凌 氏 (小国町地域おこし協力隊)
舟山 大地 氏 (小国町役場)
水口 明夏 氏 (小国高校養護教諭)
村山 豪 氏 (山形県教育庁スポーツ保健課主査 生涯スポーツ担当)
山口 旺允 氏 (留学生寮ハウスマスター)
山口 ひとみ 氏 (旬彩工房)
7. 内 容
トークフォークダンスとは、向かい合わせで二重の輪になって座り、内側の人と外側の人が、テーマについて交互に自分の考えを語り合い、フォークダンスのように席を移動していくものである。
本時は、町内外の地域の方々18名を講師として呼び出し、生徒と講師の方が向かい合って座り、対話をした。生徒達は、取り組んでいるマイプロジェクトについて中間発表として紹介し、講師の方々より、質問、助言、感想などを頂いた。
8. 講師の方々の感想
「全体的にありきたりなテーマではなく、一人ひとりが自分の“好き”を広げる形でマイプロを進めていることが素晴らしい。世の中のイノベーションは、好きなことをみんなで取り組むことから始まっている。これからも探究を楽しんでほしい。」
「自分の今考えていることが明確化されていて、困っていることをしっかりと言葉に出来ていた事が素晴らしいと思った。」
「大変に楽しく、有意義な時間だった。生徒さん達とも楽しく、笑いながらトーク出来たのも最高だった。」
「なかなか高校生と話す機会がなく、今日はとてもいい経験になった。また、テーマも様々あり、次回また参加したいと思った。」

9. 生徒の声

「たくさんの大人の方とお話をして、会話を続けることができたのが嬉しかったし、自分の中で考えていることが、外部の方から見てどうなのかを知ることができて良かった。」

「自分が今考えていることを口に出して言うことで、より自分のやりたいことが明確になったなと感じた。大人の方の様々なアドバイスも聞けて、前の自分より、一歩前進できたなと感じた。」

「普段は話すことのない人、全く違う取り組みをしている人と話すことで新しい価値観が生まれた気がした。これからも多くの人と会話をし、視野を広げるきっかけを見つけていきたいと思う。」

10. 状況写真



1. 期 日 令和4年10月20日(木)

2. 時 間 1－6校時

3. 場 所 小国町 ペレットマン

4. 参加者 第1学年7名、教員2名

5. 目 的 ※育成したい資質・能力【行動力】【創造力】【計画力】

主体的かつ探究的な活動を通して、地域に浸り、地域を直に感じることの楽しさ、自分たちの興味関心を突き詰めていく楽しさを味わう。また、情報の収集の仕方や整理・分析など、仲間と協働し、まとめて発表する能力を養う。

今回は、グループに分かれて、地域の協力者との対話からミニプロジェクトを立ち上げ、実践する活動を通して、来年度の探究活動の疑似体験をする

6. 講師・活動内容

高橋安以子 氏 (ペレットマン)

- ・ 焚火体験
- ・ ピザ作り体験

7. 生徒の振り返り

- ・ 初めての火おこし体験で、難しさを知った。CO₂の削減、プラスチックの使い方について見直そうと思った。
- ・ 初めての焚火をして、石油ストーブとは違った温かみを感じられて楽しかった。ペレットマンさんは地球と人とのかかわりをすごく大切にしているすごかった。着火剤を板チョコのようにする発想がおもしろかった。
- ・ 薪ストーブは温かく、見ているだけでも良いものだった。薪ストーブの着火剤は、捨てられていたろうそくを活用しているすごいなと思った。昼のピザも様々な種類のピザを食べることができて良かった。
- ・ 将来や木、エコについてしっかり考えていて、こんな人が世の中を変えていくのかなと考えた。安以子さんがたき火が好き、心が落ち着くということも実感できた。
- ・ いつもは体験できないようなことをたくさんやれて楽しかった。ピザを一から作って焼いたり、火を自分で起こして薪ストーブをつけたりして、貴重なことをたくさんやれた。

8. 状況写真



1. 期 日 令和4年10月20日(木)

2. 時 間 1－6校時

3. 場 所 小国町 木工館

4. 参加者 第1学年7名、CN1名

5. 目 的 ※育成したい資質・能力【行動力】【創造力】【計画力】

主体的かつ探究的な活動を通して、地域に浸り、地域を直に感じることの楽しさ、自分たちの興味関心を突き詰めていく楽しさを味わう。また、情報の収集の仕方や整理・分析など、仲間と協働し、まとめて発表する能力を養う。

今回は、グループに分かれて、地域の協力者との対話からミニプロジェクトを立ち上げ、実践する活動を通して、来年度の探究活動の疑似体験をする

6. 講師・活動内容

高橋泰弘 氏 (高橋時計店) 北風裕基 氏 (小国町地域おこし協力隊)

・木工体験 (家族のための調理ベラを作ろう・木の年輪時計を作ろう)

7. 生徒の振り返り

・作るのに集中すると時間があっという間に過ぎ、一日がとても短く感じた。今回で完成させることはできなかったが、大体の形ができ、とても愛着がわく。

・物を作る大変さを知ることができたし、集中して作って楽しかった。

・木工館がどんなところか分かった。木で物を作ることが好きなので、今回のミニプロはすごく楽しかった。

・手がそんなに器用ではないので、不安だったが、めちゃめちゃ集中して、時間を忘れるくらい楽しむことができた。泰弘先生と北風さんがとても丁寧に教えてくださったので、上手に作ることができた。

・一つの木べらをつくるまでの工程を一通り体験できて、とても貴重な時間になった。持ち手の持ちやすさやヘラ本体の部分の角度など、使い手のニーズに合わせて考えながら削っていくのは楽しかった。

・木を削っていると楽しくてすぐに時間がなくなった。まだ完成していないけれど、家で完成できるように頑張りたい。

・木の板を使って何かをつくることは、もともとは苦手だったが、このミニプロで楽しさを知れて、好きになった。参加して良かった。

8. 状況写真



1. 期 日 令和4年10月20日(木)

2. 時 間 1-6校時

3. 場 所 小国町 アスモ駐車場 アスモキッチン

4. 参加者 第1学年5名、教員1名

5. 目 的 ※育成したい資質・能力【行動力】【創造力】【計画力】

主体的かつ探究的な活動を通して、地域に浸り、地域を直に感じることの楽しさ、自分たちの興味関心を突き詰めていく楽しさを味わう。また、情報の収集の仕方や整理・分析など、仲間と協働し、まとめて発表する能力を養う。

今回は、グループに分かれて、地域の協力者との対話からミニプロジェクトを立ち上げ、実践する活動を通して、来年度の探究活動の疑似体験をする

6. 講師・活動内容

西村 美祈 氏 (小国町地域おこし協力隊)

- ・アスモ障がい者用駐車区画ブルーペイント
- ・キャンプもち作り

7. 生徒の振り返り

- ・午前は雨が降ったり止んだりで心配だったが、無事にペイントできて良かった。お昼もキャンプもちをみんなでおいしく料理できて楽しかった。
- ・普段では体験できないようなことを体験させてもらったこともあり、とても楽しく感じられた。活動中様々な人に助けてもらったり、話したりして、私達の活動は沢山の大人の人達に支えられているんだと改めて再確認することができた
- ・みんなで苦労して作ったから、大切に使ってほしいと思った。物を作るのは大変だけど、作り終えた時の達成感がすごかった。改めて物を大切に使いたいと思った。
- ・お昼に食べたキャンプもちは、自分のアイデア次第で主食にも副菜にもなるし、デザートにもなるから、おいしかったし、楽しかった。
- ・雨もあって不安だったが、無事に完成して良かった。手形をつけたり、名前を書いたりして楽しく作ることができた。お昼ご飯もいろんな人と楽しく食べることができて良かった。

8. 状況写真



1. 期 日 令和4年10月20日(木)
2. 時 間 1－6校時
3. 場 所 小国町 アスモ アスネットキッチン
4. 参加者 第1学年5名、教員1名
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【行動力】【創造力】【計画力】
主体的かつ探究的な活動を通して、地域に浸り、地域を直に感じることの楽しさ、自分たちの興味関心を突き詰めていく楽しさを味わう。また、情報の収集の仕方や整理・分析など、仲間と協働し、まとめて発表する能力を養う。
今回は、グループに分かれて、地域の協力者との対話からミニプロジェクトを立ち上げ、実践する活動を通して、来年度の探究活動の疑似体験をする
6. 講師・活動内容
山口 ひとみ 氏 (旬彩工房)
 - ・アスモ、恋っちゃん市場で買い物
 - ・料理体験 (たかきびごはん、お肉を使わないグラタン、たかきびスープ)
 - ・食の現状の説明
7. 生徒の振り返り
 - ・食品添加物が少ない食材を選んで調理した。作った料理はとてもおいしく、普段使わない食材ばかりで新鮮だった。
 - ・食材を選ぶときは添加物が少ないもののほうが体に良いということを学んだ。卵の黄身の色は食材によって変わることがわかった。
 - ・食材を買う時に裏に書いてある添加物が少ない方が体にいいと聞いてびっくりした。自分たちでたかきびごはん、お肉を使わないグラタン、たかきびスープを作って、とてもおいしく作れたのでよかったし、楽しかった。
 - ・料理を学びたくてこのプロジェクトに参加した。昼ごはんが豪華すぎて、本当にお腹がいっぱいで苦しかったけど、おいしいものでお腹いっぱいになれて幸せだった。
 - ・地元では食べられないような物を食べることができて良かった。国産か外国産かは、後ろのパッケージを見るということが分かった。
8. 状況写真





科目「保健」ならびに「白い森未来探究学」第1学年 地域文化学
SDGs2030カードゲーム演習

1. 期 日 令和4年10月25日(火)
2. 時 間 11:50~15:45
3. 場 所 小国高校体育館
4. 参加者 第1学年28名、第2学年19名、教員7名、CN2名
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【行動力】【グローバル意識】【持続可能性意識】
SDGs2030カードゲームを通して、SDGsの意義を体感的に学ぶ。そのことにより、人間の生活や産業活動が自然環境を破壊し健康に影響を及ぼすことを理解するとともに、個人や社会がどのような対策・行動をとることができるかを考える。
6. 講 師
佐藤 恒平 氏
SDGs2030カードゲーム公認ファシリテーター
地域振興サポート会社まよひが企画代表
山形県朝日町でゲストハウス松本亭一農舎運営
山形県男女共同参画若者活躍支援事業顧問
7. 内 容
SDGs2030カードゲームとは、SDGsの目標到達期限に設定されている2030年の世界がどうなっているのかをシミュレーションするゲーム。ゲーミフィケーション(ゲームデザイン手法や仕組みを用いて課題を解決すること)によって、体験的に楽しくSDGsを学んだ。
8. 生徒の声
「楽しくSDGsについて学べた。私もこれからの地球環境や社会について改善していかなければならないと思ったので、小さなことでもいいから何かしらやっていけたらなと思った。」
「社会のことを優先するか、自分たちの利益を優先するかでかなり悩んだことに少し罪悪感を感じた。世界は動いてないように見えていたけど動けない理由があったことに気づいた。」
「SDGsのことを世界全体として考える機会がなかったので、今回のカードゲームを通して、バランスを保っていくことが大切だと分かったので、まずは日本の現状から知って、足りないところを補うためにはどうしたら良いのかを、自分なりに考えていきたいと思った。簡単なことから実践していきたい。」

9. 状況写真



白い森未来探究学 第3学年 地域構想学「小国町議との意見交換会」

1. 期 日 令和4年11月8日(火)
2. 時 間 13:30~15:00
3. 場 所 おぐに開発総合センター
4. 参加者 第3学年23名、教職員4名、CN2名
小国町議員(五十音順)
安部 春美 氏、伊藤 弘行 氏、遠藤 和彦 氏、今 康成 氏、柴田 伸也 氏、
小関 和好 氏、小林 嘉 氏、高野 健人 氏、間宮 尚江 氏、渡邊 重信 氏
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【創造的市民性】
地域や社会の課題について、自分には何ができるのか考え、解決のためのアイデアを提案し、欲しい未来を思い描くことができる。また、自分のことだけでなく、地域や社会の一員としてともに幸せを求めていく大切さを感じ、卒業後も地域や社会と関わる意識を持つ。
6. 内 容
「移住者希望者に向けた情報発信」「ごみの減量」「子育て支援」「ふるさと納税に共感を得る工夫」「放課後の活動の充実」の5つのテーマごとにグループに分かれ、付箋に意見を書き込んでアイデアを出し合う。交流後、グループごとに成果を発表する。
7. 生徒の声
「『資金を出すことで子どもが生まれるわけではない。子育てをしやすい環境の整備が求められている。』と町議の方が話していたことに納得できた。」
「なかなか難しい課題で、これからやることをうまく実行できるか分からないが、自分のできる範囲のことを頑張りたいと思う。」
「色々な意見を聞くことができたし、自分のプロジェクトに取り入れたいものも沢山見つけることができたので良かった。」
「貴重な意見を頂けたので自分自身の視野が広まった。また、自分以外の人を巻き込んで活動することが大事なことだと改めて思った。」
「各班それぞれの意見も、すばらしく、実際に来年度から取り組めそうなものもあり、いい話し合いになったと思った。母親のニーズを見ていたけれど、小国町としてのニーズもあるのだと思った。」
8. 状況写真



白い森未来探究学 第1学年 地域文化学 発表会

1. 期 日 令和4年12月10日(土)

2. 時 間 13:00~14:00(学校祭内)

3. 場 所 小国高校 体育館

4. 参加者 第1学年25名、教職員3名、CN2名

5. 目 的 ※育成したい資質・能力【伝える力】【意志ある進路選択】

白い森未来探究学(総探)や教科授業、学校行事等を通して、1年間で学んだことを言語化し、相手に分かりやすく伝える(プレゼントする)ことで、人前で表現する楽しさ・難しさを味わう。また、多様なフィードバックを得るから学びを深め、ありがたい未来を考え、次年度のマイプロジェクトの種とする。

6. 発表内容

テーマ:「この1年間の学びから自分が得たものを言語化し、プレゼンする」

授業や行事でお世話になった地域の方々、教職員、家族、友達など、全ての学びを総合して、いま自分の中にある気づきや感じている成長、気持ち、思いを自分らしく表現する。

方 法:自分が学び得たものをスライドにまとめ、作成したスライドをカラー印刷し、ポスターセッション風に段ボールに掲示してプレゼンテーションを行う。発表者は前後半に分れ、12名同時に発表を開始する。聴衆は聞きたい生徒のところへ集まって発表を聞く。

7. 生徒の声

「『価値を見つけて自分のものにしてください』というコメントが印象に残った。ただ見つけることだけではなく、それを生かして将来どんな価値を自分のものに出来るのか、しっかり考えなければならないと思った。」

「たくさん人の前で落ち着いて話すことができたので良かった。今回はいつもに比べて自分の伝えたいことを強調して言えた気がする。前回のオンライン交流会のプレゼンで『自分の気持ちをもう少し入れた方が良い』とアドバイスがあり、それを生かすことができた気がする。」

「自分が伝えたいことは自分の言葉で話したほうが相手に伝わることを知ることができたので、自分らしさを大切にしていきたい。」

「自分が行いたい活動に対して『頑張ってるね』や『楽しみ』『応援しています』など自分の背中を押してくれるコメントがたくさんあった。」

8. 状況写真



白い森未来探究学 第3学年 地域構想学 発表会

1. 期 日 令和4年12月14日(水)
2. 時 間 5-6校時 13:30~15:45
3. 場 所 おぐに開発総合センター 集会室
4. 参加者 第3学年24名、教職員、CN
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【創造的市民性】 【持続可能性意識】
 - ・地域や社会の課題について、自分には何ができるのかを考え、解決のためのアイデアを提案し、欲しい未来を思い描くことができる。
 - ・自分のことだけでなく、地域や社会の一員として共に幸せを求めていく大切さを感じ、卒業後も地域や社会と関わる意識を持つ。
6. 発表内容
「10年後の小国町」の構想を3学年全体で1枚の絵に描き、小国町役場(5部署)から頂いたテーマ「移住希望者に向けた情報発信」「ごみの減量」「子育て支援」「ふるさと納税に共感を得る工夫」「放課後の活動の充実」について、一人ずつ構想を発表する。
7. 生徒の声
「自分では思いつかないアイデアが沢山あっておもしろかった。」
「自分で動いて自分で考えるということに慣れていないはずなのに、改めてやってみるとその大変さが身にしみてわかった。こういったことが社会に出たら当たり前になると考えると怖いけど、少し楽しみだなと思った。」
「役場の方々がたくさん会話を交わしたことで、知らなかった小国町の課題や魅力を感じることができた。なかなか自分ごととして課題解決のためにアイデアを出すことは難しかったけれど、最終的にまとめて話すことができたのは良かった。小国高校が地域との関わりが密であることをさらに感じた。」
「アイデアや、物の表面だけでなく、一つ一つの問題や足りないものをつなげて考える頭の使い方をしていきたい。」
「テーマを頂けたおかげで小国町と向き合うことができた。何かに向き合うことの大切さを実感し、結果に行き着くまでの過程をもっと大切にしていこうと思えるきっかけにもなった。」
8. 状況写真





科目「生活と福祉」 人生100年時代をどう生きる？
『超高齢社会への対応』特別授業

1. 期 日 令和4年12月15日(木)
2. 時 間 2、3校時 9：50～11：40
3. 場 所 小国高校 3-1教室
4. 参加者 第3学年「生活と福祉」履修者21名
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【課題設定力】【創造的市民性】【意思ある進路選択】
 - ・高齢化は対策すべき課題ではなく、与えられた時間をいかに楽しく健康に生きるかを考えることが重要であり、セカンドライフにおける「幸せのカタチ」を見つけることの必要性を理解するとともに、自分にとっての「幸せ」についても考える。
 - ・現在のような「現役世代が高齢者を支える」ではなく、「高齢者が子育て世代を支える」社会を目指し、高齢者が最期まで役割と自由を持ち続け、輝ける社会を実現するために、社会の一員として貢献しようとする。
 - ・人生にピークをつくらず、何歳になっても「今が一番楽しい」と思えるために、自分の人生は自分でつくるという視点で、人生100年時代をどう生きていきたいかについて考える。
6. 講 師
一般社団法人ロングライフ・ラボ 代表理事 清水 雅彦 氏
7. 内 容
 - ①講義
超高齢社会への対応を正しく行えば、何歳になっても「今が一番楽しい」と思える健康長寿社会をつくることができる。(江藤禎英氏著書『社会は変えられる～世界が憧れる日本へ～』、厚生労働省統計データ参考)
 - ②ワークショップ
小国町でつくる「高齢者がワクワクできる場」のアイデア
8. 生徒の声
「『きょういく(今日行くところがある)』と『きょうよう(今日用事がある)』は人生を楽しく生きるために大切なことだと思った。退屈は心の毒なのでいろんなことに興味を持って生きていきたいと感じた。」
「私は長生きしていろんなことをしてみたい。高齢者になったらカフェとか植物を育てることをしてみたい。」
9. 状況写真



白い森未来探究学 第1学年 地域文化学「映像制作講座」

1. 期 日 令和5年1月18日(水)
2. 時 間 5、6校時 13:25～15:15
3. 場 所 小国高校 1-1教室、地域協働ルーム
4. 参加者 第1学年
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【伝える力】【創造力】
 - ・ドキュメンタリー映像制作に取り組むことで、多様な表現方法を学ぶ。
 - ・取材する「人物」や「事象」に対して、答えのない問いを発し、受けとるというドキュメンタリーの本質は、探究活動の本質とも通じるところがあり、次年度のマイプロジェクト活動等に活かすことができる。
6. 内 容
 - ・阿部CNによる映像制作のレクチャー
 - ・インタビュー・撮影
 - 6名(教頭、事務員、司書、役場職員3名)を取材・撮影する。
 - 生徒は4人ずつ6チームに分かれ、各チーム1名の取材をする。
 - ・映像制作
 - iMovieアプリを使用し、チームごとに動画を編集する。
 - ・発表
 - 各チーム2分ずつ発表する。
7. 生徒の声

「どの班も個性が出る動画で、見ていて楽しかった。他の班の動画を見て、いいなと思った所を真似したい。」

「撮影する時間が長くなってしまったものの、画角やカメラワークを工夫しながら撮ることができたし、楽しんで活動することができた。」

「班のみんなで協力して、楽しくできたので良かった。いいお話も聞けたし、映像制作も学びがたくさんあったのでいつか個人で発表するときに使ってみるのも良いなと思った。」

「伝えたいことを短く的確に伝えるにはどうしたらいいのかということは今後活かしていきたいと思った。」

「難しかったけど、その何十倍楽しかった。動画制作する機会があったら、今回の学習で学んだことを使っていきたいと思った。」
8. 状況写真



科目「保健」小国警察署の協力による「交通安全」に関する授業

1. 期 日 令和5年1月27日(金)
2. 時 間 2, 3校時 9:50~11:40
3. 場 所 小国高校 1-1教室、地域協働ルーム
4. 参加者 第1学年25名
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【思考力】 【振り返る力】
地元の交通安全について最前線で取り組む小国警察署員の講義を受け、当事者意識を強め、交通事故を防止するには各個人の適切な行動や交通環境の整備などが必要なことを理解し、より実践的な思考力・判断力を養う。
6. 講 師
小国警察署 地域交通課員2名(清野 豪 氏・高梨 萌 氏)
7. 内 容
 - ・交通事故の原因と防止についての講話
 - ・スタントマンを活用した『自転車交通安全教室』DVD
 - ・KYT(危険予測トレーニング、Honda)
8. 生徒の声
「自分が思っていた以上に自転車の事故が多く、決して他人事ではないと改めて気づくことができた。特に不注意や油断から事故が起こるということも知れたので勉強になった。」
「シミュレーションでは、危険な場面がたくさんあり、気づけなかったところがあった。道路は危険と隣り合わせだということ意識したい。」
「実際の事故の事例や、車のドライバー目線での映像を見たことで、事故にあった時の想像ができてより気をつけて行動しなければと思った。」
「高校生は自転車を主な交通手段としていて、慣れているからこそ危険なことがたくさんあると思った。自分が被害に合うだけでなく、加害者として被害を与えてしまうかもしれないことを考えると、日々の注意がとても重要になる。これからも意識して自分から安全な交通環境を作っていけるようにしたい。」
9. 状況写真



科目「論理基礎」人権教室を通じた論理的思考力や表現力の向上

1. 期 日 令和5年1月27日(金)
 2. 時 間 2校時 9:50~10:40
 3. 場 所 小国高校 学習室1
 4. 参加者 第2学年論理基礎選択者
 5. 目 的 ※育成したい資質・能力【共感力】【受容力】【自己理解】【対話力】
【伝える力】【計画力】
- ・人権について理解を深めることで、互いを理解し合おうとする気持ちを醸成する。
 - ・対話を通して考えたことを多くの方に理解してもらえるような表現力を身に付ける。
6. 講 師 小野 卓也 氏 (長井市草岡在住・洞松寺住職・人権擁護委員)
 7. 内 容

LGBTQや偏見について理解を深めたうえで、自分自身や周りの人をありのままに受け止めること・差別や人権侵害は不当であることを伝えることの大切さについて、講師の先生と対話をしながら深く考えた。

8. 生徒の声

「日本はジェンダー意識が低いことがわかった。」

「LGBTQを伝える活動がマイノリティである雰囲気はどうにかしたい。」

「なかなか『自分らしく』はできないけれど、他者と違うのは当たり前ということを早く知ることが大切。」

「日本はまだ同性婚が認められていないけど、パートナーシップ制度を取り入れたり、性別で人を区別する習慣が少しずつなくなってきているので、もっと新しい対策を考えながら性に悩みをもつ人も住みやすい世の中を作っていく必要があると思う。まずは自分の周りから変えていきたいと思う。」

9. 状況写真



白い森未来探究学 第1学年 地域文化学 地域に浸る講座③

1. 期 日 令和5年2月6日(月)
2. 時 間 4-6校時 12:30~15:15
※事前学習1月25日(水)5-6校時、振り返り2月7日(火)5-6校時
3. 場 所 伊佐領会館、kegoya
4. 参加者 第1学年24名、教員3名、CN1名
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【対話力】【共創力】
生徒が自分の「やりたい」を見つけるために、自分のやりたいを極めて楽しんでいるキラキラした地域の大人たちにたくさん出会い、ふれあい、対話する中で気づき、そこから考える。今回は、冬(雪)に関連した魅力ある活動をしている方々との出会いや体験を通して、雪国の魅力を再確認し、学びを得る。
6. 講 師 吉田 悠斗 氏 (おぐにマルチワーク)
熊谷 茜 氏 (kegoya)
西村 美祈 氏 (地域おこし協力隊)
7. 内 容
 - ・ 2月18、19日に開催される「雪のお城カフェ～snow castle in oguni～2023」のお手伝いをする。
 - ※雪のお城カフェとは、ワカモノプロジェクト「地域みらい塾☆小国」の卒業生が中心となり、2日間限定で伊佐領地区に雪のお城を造り、カフェを開店するイベント。
 - ・ 生徒は3チームに分かれ、チームごと作業を行う。
 - ①kegoyaの椅子・テーブルのセッティング
 - ②小物作り(プレゼントのラッピング、氷のキャンドル作り等)
 - ③会場設置のための除雪
8. 生徒の声
「雪かきなどから、協力の大切さや良さなどを改めて知ることができたので、これを今後に繋げていきたい。」
「キャンドル作りが面白かった。材料が自由なので色々なアイデアが頭に浮かんだ。この雪のお城カフェを思いついて行動できるのがすごいと思った。」
「今後も町の行事やイベントへの参加、お手伝いをしていきたいと思った。」
「私達が今回頑張って作ったのは、商品ではなくサービスだと知って、人を集めるために様々な努力をしていることが分かった。」
「製作者、開催者が込めるお客さんへの気持ちがすごく温かくていいなと思った。」
9. 状況写真





科目「家庭総合」第1学年『自然エネルギーを未来のために』地域連携授業

1. 期 日 令和5年2月8日(水)
2. 時 間 4校時 11:35～12:20
3. 場 所 小国高校 1-1教室
4. 参加者 第1学年
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【持続可能性意識】【グローバル意識】【課題設定力】
 - ①小国町には自然エネルギーの源となる資源がたくさんあることを知り、その資源を大切にしていこうと思う。
 - ②石油や原発に頼らず、自然エネルギーを利用することで、地球温暖化の防止、エネルギーの地産地消、地域雇用の創出につながることを知り、グローバルな視野を持ち地域の課題に目を向ける。
 - ③持続可能なまちづくりには、町内で経済が循環するしくみを構築することが大切であることを知るとともに、町の取り組むべき課題を発見する。
6. 講 師 高橋 睦人 氏 (小国グリーンエネルギー合同会社ペレットマン)
7. 内 容
 - ・ガソリンスタンドの店長からペレットストーブ屋に転身した理由
 - ・ペレットストーブとは
 - ・灯油の流通とペレットの流通を比べてわかる経済循環の違い
 - ・木質バイオマス先進地であるヨーロッパの視察事例紹介
 - ・明るい未来をつくるために行っている取り組みの紹介
8. 生徒の声

「『エネルギーの地産地消』という言葉がとても残った。ペレットストーブにすれば町の経済が回って地球温暖化防止にもつながっていいことがたくさんあることを知った。」

「小国町を本当に愛しているからこそできる、雇う人も消費者も地球も笑顔になれるような活動だと感じた。」

「ペレットストーブは灯油ストーブと違って水蒸気や二酸化炭素を排出する量も少ないということで、今現在問題となっている地球温暖化防止にもなることがわかった。将来家の暖房について考える際、ペレットストーブについても検討できるように知識をつけていきたいと思う。」
9. 状況写真



科目「家庭総合」 『小国町の未来を考えるSDGsワークショップ』地域連携授業

1. 期 日 令和5年2月13日(月)
2. 時 間 2～4校時 9：50～12：40
3. 場 所 小国高校 被服室
4. 参加者 第1学年25名、教員、小国町役場職員18名、CN
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【対話力】【創造的市民性】【共創力】【グローバル意識】
 - ①町で取り組んでいるSDGsアクションを聞くとともに、自分のアイデアや思いも伝える。
 - ②町の未来を担う高校生と町職員が意見を交わすことを通して、互いにアクションを起こすだけでなく協働してアクションを起こすきっかけとする。
 - ③自分たちには社会を変える力があることを知り、地球規模で考え、地域で行動すること(Think globally, Act locally)の価値を感じる。
6. 内 容
 - ・高校生2～3名と、町職員2名の計9グループになる
 - ・自己紹介
 - ・高校生よりSDGs学習のプレゼン(1人5分程度)
 - ・町職員より町でのSDGsアクションについてプレゼン
 - ・ワークショップ
 - テーマ『持続可能な小国町に向けたアクション』
 - それぞれの課の業務内容とSDGsの目標を結び付け、各グループごとにそれぞれの目標ごとにワークを行う。(例：ジェンダー、貧困、ごみ、エネルギーなど)
 - ・各グループの模造紙の観察及び発表
7. 振り返りアンケートより
 - 【Q1】 高校生によるSDGs学習プレゼンについて
 - 高校生**「緊張したが自分の意見や伝えたいことをアドリブも交えながら伝えることができた。」
 - 町職員**「内容は調べたものだけでなく、自分の考えやこれから自分がしていきたいことも含んだものであり、問題改善に対する意志を感じられる良いプレゼンだった。」
 - 【Q2】 町職員によるSDGsアクションの説明について
 - 高校生**「小国町でどのような取り組みがされているのか初めて知ることができたし、小国町ではLGBTQに関する取り組みがされていないなど町の課題も知ることができた。」
 - 町職員**「普段の業務や町のアクションについて、もっとSDGsに関する視点で見ようと思った。」
 - 【Q3】 ワークショップ「持続可能な小国町に向けたアクション」について
 - 高校生**「自分が全く思いつかなかった意見が沢山出たのがすごく面白いと思ったし、まとめていくうちに一つのゴールが見えていったことに感動した。」
「大人の方も混ぜて行くと新しい見方があって新鮮だった。」
 - 町職員**「実現できそうなものもあり、業務の参考にできればと思った。」
「ワークショップで終わるのではなく、実際に行動に移したいと思う。」

8. 状況写真



ハタラトーク(若手社員との座談会)

1. 期 日 令和5年2月14日(火)
2. 時 間 5, 6校時 13:25~15:15
事前学習 2月14日(火)4校時
事後学習 2月15日(水)5校時
3. 場 所 小国高校 被服室
4. 参加者 第1学年25名、若手社員15名、教職員、CN
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【共感力】【対話力】【自己理解】【意志ある選択】
 - ①生徒が「働く」ことを通して、自らの「生き方」を考えることにつなげる。
 - ②町内企業・事業所を知ってもらうとともに、様々な選択肢があることを認識し、生徒自身の視野を広げる。
 - ③就職や進学で一度は町外に出た場合でも町内に戻ってくるような選択肢をもってもらい機会とする。
 - ④生まれ育った町を考える機会を作り、町への主体性や問題意識をもたせる。
6. 講 師 新田 卓 氏 (株式会社プラスアート代表取締役)
7. 内 容
企業や公共機関に勤務する若手社員や個人事業主の方々15名と、高校生が『働く』をテーマにしたグループディスカッションを行った。
「どんな仕事をしているのか」「働いていてよかったと感じること、大変だと感じること」「その仕事のやりがいは何か」「今の生活は満足しているか」など、仕事に関することから、プライベートに関することまで、高校生の様々な質問に答えて頂いた。
8. 生徒の声
「自分が興味を持っている職業の方だけではなく、いろんな方のリアルなお話を聞くことができ、自分の将来に役立つ話をたくさん聞くことができた。」
「自分の好きな物やことをずっと好きでいるということは大事だと思う。好奇心や挑戦心、楽しさ、面白さが重要だと思う。これらがなければつまらなくなってしまうと思うし、それがきっかけでやめてしまうかもしれないから。」
「『働くこと』について、どんどんと自分に近づいてきて、早く決めなくちゃ、大学どうしよう、という焦りのようなものもあった。しかし、実際に働いている人たちと話すことによって、『働くこと』を自分自身の中で消化するような感覚になったので、とても良い時間だった。」
9. 状況写真



白い森未来探究学 第2学年 地域実践学 マイプロジェクト発表会

1. 期 日 令和5年2月16日(木)
2. 時 間 3、4校時 10:50~12:40
3. 場 所 小国高校 音楽室(分科会A)・2-1教室(分科会B)・学習室1(分科会C)・
3-1教室(分科会D)・図書館(ホストPC・全体会)
4. 対 象 第2学年19名
5. 参会者 本校1・3年生全員、第2学年保護者、カリキュラム開発等専門家、
コンソーシアムメンバー及び連携協力者、県内外教育関係者
6. 目 的 **※育成したい資質・能力【伝える力】【課題設定力】**
 - ・総合的な探究の時間で取り組んできたマイプロジェクトの発表を通して、本校の特色ある教育実践を本校関係者や保護者等に広く理解してもらうとともに、探究活動を通じて得た学びを他者に分かりやすく伝え、聞いている人の心を動かすことを目指し、プレゼンテーション力を高める。
 - ・多様な他者からのフィードバックを得ることで、生徒の生き方在り方への新たな気づきや未来への創造力を高め、今後の探究活動の一助とする。
7. 講評者
分科会A 遠藤 啓司 氏(小国町教育委員会教育長)、阿部 公一 氏(株式会社山のむこう)
分科会B 阿部 英明 氏(小国町副町長)、川崎 恵 氏(川崎小動物診療所)
分科会C 岡崎 エミ 氏(一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム)、
五十嵐 秀子 氏(元保育園副園長)
分科会D 小野 正晴 氏(小国町教育振興課長)、荒井 博貴 氏(株式会社山のむこう)
8. 発表方法
 - ・4分科会(A~D)に分かれて行う
 - ・1プロジェクト所要時間15分(発表7分・質疑感想3分・講評2分・移動準備3分)
 - ・1人1発表(Googleスライドでの発表)
 - ・参観者にはグッジョブカードを記入してもらう
9. 発表内容
テーマ：「1年間取り組んだマイプロジェクトについての発表」
 - ①発表タイトル
 - ②プロジェクトの動機
 - ③プロジェクトの目的
 - ④調べたこと、実行したこと
 - ⑤結果から分かったこと、考えられること
 - ⑥自分で出した自分自身なりの結論
 - ⑦探究活動を通しての学びや変化
 - ⑧今後の予定/新たな問い、課題
10. 生徒の声
「全体的にとっても楽しかった。周りの人達が優しく発表しやすかった。感想だけでなくアドバイスまで頂き、次どうしていくか考えやすくなった。」
「発表を通じて、1年間の自分のマイプロのことを振り返ることができて良かった。自分の特技を伸ばしていきたいと更に感じた。」
「マイプロを通して、自分で計画して実行する大切さを学んだ。何か疑問に思ったことがあったらそのままにしないで、自分で計画し実行したい。」
「上手くいかなかったこともあったけど、自分ができる最大限を出して発表することができた。多くの人に自分の伝えたいことを伝えることができたので良かった。これからも探究は続けていければいいなと思った。」

11. 状況写真



科目「保健」～労働と健康～地域連携授業

1. 期 日 令和5年2月20日(月)
2. 時 間 3, 4校時 10:50～12:40
3. 場 所 小国高校
4. 参加者 第2学年19名、教員、CN
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【思考力】
保健の授業において、地域企業と連携し、実際の「働く現場」から学び、以下の単元について深く理解し思考できるようにする。
(3)ア(イ) 労働と健康 労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をすることが必要であること。
(高等学校学習指導要領(平成30年告示)より抜粋)
6. 講 師
クアーズテック株式会社小国事業所
加藤 孝則 氏 (小国総務担当 シニア HR マネージャー)
井上 勝裕 氏 (小国安全衛生・環境担当 EHS マネージャー)
今 朋子 氏 (小国安全衛生・環境担当 EHS テクニシャン)
7. 内 容
①労働災害防止について
・労働災害とは
・怪我をしないためには(安全衛生教育、ものの重さへの先入観、集中力の持続など)
②ワーク・ライフ・バランスについて
・働き手のための制度や休暇
・健康診断、健康教育、ストレスチェックなど
8. 生徒の声
「仕事上での安全の大切さについて知ることが出来て良かった。ハンドグライダーのスイッチの切り忘れの話を知ったり、実際に体感したりして、日頃の意識の大切さも学んだ。」
「自分なりの適度な休憩を取って気分転換し、自分でオンオフの切り替えをしっかりとすることが大切だということが1番印象に残った。身の回りの整理整頓やルールを守ることは、自分の周りの人を守ることにつながると聞いてなるほどと思った。」
「全く社会や会社のことについて知らず不安なことが多いけれど、今回の講話で休暇の形態などを知ることができて、不安なことが減った。」
「休日と休暇の違いがわかりやすくて勉強になった。自分が病気になった時にしっかり対応してくれる会社って素敵だなと思った。」
9. 状況写真



3. 教科等横断的な学び



英語科×家庭科×地理歴史科における教科等横断型学習
「ヨーロッパを知る」地域連携授業

1. 期 日 令和4年11月18日(金)
2. 時 間 3-5校時 10:50~14:15
3. 場 所 小国高校 2-1教室、調理室
4. 参加者 第2学年18名、教職員、CN
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【持続可能性意識】【グローバル意識】【学ぶ意欲】
【伝える力】【計画力】【意思ある進路選択】【受容力】
 - ①<英語科・家庭科・地理歴史科共通>「ウェルビーイング」とは何かについて考えるとともに、個人がウェルビーイングであるためには、社会や地球もウェルビーイングである必要があることを理解する。
 - ②<英語科>ヨーロッパにおける多言語社会のリアルを見聞きし、グローバルな言語である英語を学習する意義を再考し表現する。
 - ③<家庭科>自己のライフスタイルや将来の家庭生活と職業生活の在り方について考えるとともに、生活資源(家族、友人、健康、金銭、もの、空間、技術、時間、情報など)を活用して生活を設計できるようにする。
 - ④<地理歴史科>衣食住の地域的に差異があることや衣食住のあり方が世界的に画一化が進んでいるとともに、情報化の進展により今まで知らなかった世界の服装や食文化に接する機会が増えていることを理解する。
6. 講 師
川崎ひかり氏(小国町出身。2010年より8年間スイスで暮らし、現在小国町在住。育児や農業をしながら「おやつやNa ë baco」経営。)
セドリック・ブラットナ氏(スイス出身。川崎ひかり氏と結婚後、小国在住。)
※ヨーロッパ渡航経験のある柳沢茜氏(kegoya)と高橋安以子氏(小国グリーンエネルギー合同会社)にもメンターとして参加していただく。
7. 内 容
スイスの言語文化や、食文化、ライフスタイルなどをお聞きしながら、自分や社会がウェルビーイングな生活を送るにはどうしたらいいのか考える。トークセッション後、スイスにちなんだ料理の調理実習をする。
8. 生徒の声
「これから英語を学習していくにあたって、書くだけではなく、コミュニケーションをするために学ぶことを意識していきたい。」
「well-beingな人生を送るために、好きなことを追求していきたい。」
「自分ができることを誰かのために活かせるようになりたい。」

9. 状況写真



保健体育科×国語科における教科等横断型授業
「がんを身近に感じる～経験者とのトークセッション～」地域連携授業

1. 期 日 令和5年1月17日(火)
2. 時 間 4校時 11:50～12:40
3. 場 所 小国高校 会議室
4. 参加者 第3学年24名
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【共感力】【対話力】【受容力】
 - ・がん患者や家族などのがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る。
 - ・対話とそれを聞く活動を通して、話す・聞く力をつけるとともに、自らの生き方・考え方を見つめ直す。また、聞いたり考えたりしたことを的確にメモし、言語化することで伝え合う力を育成する。
6. 講 師
佐藤 茜 氏
1年半前に若くしてがんを経験し、昨年1月に寛解。2年前に千葉から小国へ移住された。
7. 内 容
がん経験者の方へ生徒(2名)がインタビュアーとなり、事前に準備した質問を中心に対談形式でお話をお聞きする。その後、傾聴したことを言語化し、共有することで学びを深める。
8. 生徒の声
「これからの人生で辛いことが沢山あると思うけど、それを経験に変えて前向きに強く生きていこうと思う。」
「最初は絶望し、それでも家族のためにがんと闘う決意をした茜さんのお話はとても共感できました。人生何が起こるかわからないからこそ、記憶に残る人であり続けたい。」
「抗がん剤治療の影響で自身の体の変化にショックを受けながらも、夫や子ども達のために前向きにがんと闘おうとする姿は、人としても母親としても強くかっこいいと感じた。」
「家族や身近な人ががんになった時に私ができることとして、その人を見守ることと愛情を伝えることだとお聞きしてとても心が温かくなった。私も自分の大切な人にこのような温かい支え方をしていきたい。」
9. 状況写真



保健体育科×家庭科における教科等横断型授業「住まいと健康」特別授業

1. 期 日 令和5年2月21日(火)
2. 時 間 3, 4校時 10:50~12:40
3. 場 所 小国高校 1-1教室 (リモート授業)
4. 参加者 第1学年27名、教員、CN
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【思考力】【課題設定力】【意志ある進路選択】
 - ①健康を支える環境づくりに関わる事象や情報などから課題を発見し、よりよい解決に向けて思考する。
 - ②安全のために必要な個人の行動や全ての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について理解し、取り組むべき課題を意識できる。
 - ③住宅の断熱不足、部屋の温度差や低室温が健康に与える影響を知り、将来は快適かつ、省エネルギーで、健康を維持増進できる住まいづくりをしていこうとする意識を持つ。
6. 講 師 一般社団法人ロングライフ・ラボ代表理事 清水 雅彦 氏
7. 内 容
 - ①住まいについて
 - ・省エネで家中快適な健康住宅の選び方
 - ・健康・省エネ住宅の実例紹介
 - ②健康について
 - ・お医者さんと薬に頼らない丈夫な体の作り方(免疫力アップ)
 - ・体温と健康の関係
8. 生徒の声

「『寒い』というのは自分が知っていた以上に危険ということがわかった。」

「家のことはあまり自分事として考えたことがなかったので、今回学んだことは必ず将来役に立つことなので知識として覚えておきたい。窓の断熱は簡単にできると聞いたので母に教えてあげたいと思う。」

「命を守る住まいに住めるかは、私たち生活者の意識次第なので、どういう住宅に住みたいかをしっかりと考えて住まいを選び、生活していきたいと思う。」

「私の家は電気代節約をするためにエアコンをあまり使わないようにしているが、体を温めて体温を上げることで免疫力も上がり風邪をひきにくくなると知り、朝にタイマーをつけて部屋をあたためようと思った。私が家を建てる時は、UA値とC値を意識したい。」

「窓を二重窓にしたり、新築を建てる時には省エネ建築の専門家に相談して家を建てたりしたいと思った。」
9. 状況写真



4. 運営指導委員会・学校運営協議会・白い森人研修



文部科学省「新時代に対応した高等学校改革推進事業」（創造的教育方法実践プログラム）
令和4年度 第1回運営指導委員会

1. 期 日 令和4年7月5日（火）
2. 時 間 13時30分～15時30分
3. 場 所 山形県立小国高等学校 会議室 ※ハイブリット開催（Zoom利用）
4. 参加者 山形県教育庁高校教育課長、担当指導主事、小国高等学校教職員11名、
小国町教育委員会教育振興課長、高校魅力化推進室長、CN3名
運営指導委員会委員：（50音順）
阿部 剛志 氏（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）
稲垣 忠 氏（東北学院大学 文学部教育学科）
牛木 力 氏（東北芸術工科大学 コミュニティデザイン学科）
岡崎 エミ 氏（一般財団法人 地域・魅力化プラットフォーム）

5. 協議内容

(1) 事業全体の成果検証方法について

- ・GPルーブリック、高校魅力化アンケート、授業単元ルーブリック、GP資質能力到達確認シート、進路希望者対象アンケート調査の5つの指標について、再整理の必要性。
 - 各評価の重複している部分、統一できる部分等の見直し。
 - 評価が、具体的な解決へとつながるような指標設定。
 - 各生徒の評価基準の捉え方の個人差。

(2) 実施計画について

- ・キュビナの導入にあたり、探究学習との結びつきを考える。
- ・教科横断学習における、各教科の相乗効果を期待したい。
- ・カリキュラムが、育てたい生徒像に合っているのか検証していく。
- ・地域の課題を解決していくために必要な学びは何かを考える必要がある。
- ・地域の力を学校に活かしていけるような環境づくりをしていく。

6. 状況写真



白い森人研修 ～1学期振り返り～

1. 期 日 令和4年8月2日(月)
2. 時 間 13:30～15:30
3. 場 所 小国高校会議室
4. 参加者 教員(管理職含め全員)10名、CN2名
5. 目 的
 - ・ 1学期の取り組みを振り返り、生徒の成長実感を整理し、2・3学期に向けて、意識しなければならないことや改善策などを考える。
 - ・ 文科省「新時代に対応した高等学校改革推進事業(創造的な教育方法実践プログラム)」について、教職員及び関係者で理解を深め、本校での効果的な活用について考える。
6. 内 容
 - ・ 1学期のGP資質・能力到達確認シートから生徒の成長実感をとらえ、2・3学期の取り組みについて考える。
 - ・ AI教材キュビナ・キュレアスについて、生徒のモチベーションを意識した上で、本校での効果的な活用について考える。
7. 研修の流れ
 - ・ 流れの説明
 - ・ アイスブレイク
 - ・ GP資質・能力到達シートから生徒の成長実感をとらえる
 - ・ キュビナ活動について
 - インプット①キュビナ・キュレアスの基本事項の説明
 - インプット②実際に使用してみた5教科教員より
 - ワークショップ①
「生徒が自主的に学習しない要因を探る。モチベーションが上がらない要因を探る。」
 - ワークショップ②
「生徒が進んで学ぶようになるにはどんな仕掛けが必要か？」
 - ワールドカフェ(他グループの模造紙を眺めて、アイデアを広げる)
 - ドット投票(模造紙を自由に眺め、気に入った付箋に丸シールを貼る)
 - ・ チェックアウト
8. 状況写真



令和4年度 第2回学校運営協議会

1. 期 日 令和4年11月29日(火)
2. 時 間 14時00分～16時00分
3. 場 所 山形県立小国高等学校 会議室
4. 参加者 22名
山形県教育委員会、学校運営協議会会長、学校運営協議会委員、
小国高等学校教職員、小国町教育委員会教育振興課長、
高校魅力化推進室長、高校魅力化推進室係長、CN

5. 内 容

●報告及び質疑応答

- (1) スクール・ポリシーについて
- (2) 「新時代に対応した高等学校改革推進事業」について
- (3) 中間総括について
- (4) 全国高等学校小規模校サミットについて
- (5) その他
 - ・ 留学生(1・2年生)の様子
 - ・ 3年生の進路状況について
 - ・ いじめ防止対策について

●協議

- (1) 生徒募集について
 - ・ 小国町内・町外の保護者等へのPR方法についてのワークショップ
(5グループに分かれ、小国高校のPR方法としてどのようなものが考えられるかを付箋に記入し、意見を出し合った)
- (2) その他

6. 状況写真



文部科学省「新時代に対応した高等学校改革推進事業」（創造的教育方法実践プログラム）
令和4年度 第2回運営指導委員会

1. 期 日 令和4年12月5日（月）
2. 時 間 13時25分～16時00分
3. 場 所 山形県立小国高等学校 会議室 ※ハイブリット開催（Zoom利用）
4. 参加者 山形県教育庁主任指導主事、担当指導主事、小国高等学校教職員10名、
小国町教育委員会教育振興課長、高校魅力化推進室長、CN2名
運営指導委員会委員：（50音順）
阿部 剛志 氏（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）
稲垣 忠 氏（東北学院大学 文学部教育学科）
牛木 力 氏（東北芸術工科大学 コミュニティデザイン学科）
岡崎 エミ 氏（一般財団法人 地域・魅力化プラットフォーム）

5. 内 容

●AI教材を使った授業の参観

- (1) 第2学年1組 数学A
- (2) 第1学年1組 生物基礎

●報告及び指導・助言

- (1) ロジックモデルについて

関係機関が対話をして一緒に作成し、新事業の目的や意義が一目で分かるものにしていく。

- (2) 成果指標について

指標を使う場面の再検討。生徒による指標の選択。面談の重要性。

- (3) 県外小規模校との学校横断型探究学習について

遠隔授業のノウハウの蓄積。

- (4) AI教材を活用した個別最適な学習について

個別最適な学びがより活かせるようなカリキュラムの工夫。

AI教材導入による効果。

- (5) 各教科による教科等横断的な学習について

教科等横断授業の成果。来年度への課題。

- (6) その他

6. 状況写真



白い森人研修 ～ロジックモデル作成～

1. 期 日 令和4年12月22日(木)
2. 時 間 10:00～12:00
3. 場 所 小国高校 会議室
4. 参加者 教職員、CN
5. 目 的
 - ・ 文科省「新時代に対応した高等学校改革推進事業（創造的教育方法実践プログラム）」に係るロジックモデルを全職員で作成することで、目的・目標を共有する
 - ・ 本校の教育活動について、何のためにやっているのかという内省や何を強化・改善していかなければいけないのかを認識し、次年度の計画につなげる
6. 内 容
 - ・ ロジックモデルとはどのようなものなのか
インプット(活動資源の投入)→アクティビティー(実施する活動)→アウトプット(活動した結果)→中間アウトカム(活動の成果)→最終アウトカム(活動の最終成果)の「手段と目的」の関係性を示した「事業の設計図」
 - ・ ワーク
 - ①小国高校ロジックモデル(案)のアクティビティー「小規模高校連携による探究学習」「人工知能(AI)学習システム・スタサプ」「教科等横断的な学び」に対するアウトプットを個々に付箋に書き出す。
 - ②グループ内で共有し、整理・追加する。
 - ③グループ全員で対話しながら中間アウトカムを出す。

7. 状況写真



令和4年度 第3回学校運営協議会

1. 期 日 令和5年2月27日（月）
2. 時 間 14時00分～16時00分
3. 場 所 山形県立小国高等学校 会議室
4. 参加者 19名
山形県教育委員会、学校運営協議会会長、学校運営協議会委員、
小国高等学校教職員、高校魅力化推進室長、高校魅力化推進室係長、
総合政策課政策企画室長、CN
5. 内 容
 - 文部科学大臣表彰状授与
 - 報告及び質疑応答
 - (1) スクール・ポリシーについて
 - (2) 「新時代に対応した高等学校改革推進事業」について
 - (3) 「高校生の地域留学推進のための高校魅力化支援事業」について
 - (4) 年間総括について
 - (5) 保護者による学校評価アンケートについて
 - (6) その他
 - 協議
 - (1) 放課後の活動について
 - 来年度からの放課後の過ごし方の案について協議を行った。
 - ①放課後の過ごし方のルールの内容について
 - ②活動内容(案)について
 - ③自分が主体的にかかわるとしたら何ができるか
 - ④アルバイトについて
 - (2) その他
6. 状況写真



文部科学省「新時代に対応した高等学校改革推進事業」（創造的教育方法実践プログラム）

令和4年度 第3回運営指導委員会

1. 期 日 令和5年3月1日（水）
2. 時 間 14時30分～16時30分
3. 場 所 山形県立小国高等学校 会議室
4. 参加者 山形県教育庁主任指導主事、担当指導主事、小国高等学校教職員、
小国町教育委員会教育振興課長、高校魅力化推進室長、CN
運営指導委員会委員 ： （50音順）
阿部 剛志 氏（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）
稲垣 忠 氏（東北学院大学 文学部教育学科）
牛木 力 氏（東北芸術工科大学 コミュニティデザイン学科）
岡崎 エミ 氏（一般財団法人 地域・魅力化プラットフォーム）

5. 内 容

●報告及び指導・助言

I 今年度の報告について

- (1) 1, 2, 3年それぞれの探究活動の実施内容・成果・課題について
- (2) ICT活用による個別最適な学習の実施内容・成果・課題について

II 評価について

- (1) 評価項目について
- (2) 魅力化評価アンケート結果について(阿部 剛志 氏)

●今年度の課題解決ワークショップ(岡崎 エミ 氏)

- ・課題の共有と構造化
- ・アイデアを出し合う
- ・各グループの発表

●次年度の計画案について

●運営指導委員会からの総括と提案

6. 状況写真



5. 全国小規模校サミットの 取り組み



小規模校サミットの趣旨：

全国の小規模高校の生徒が交流し親睦を深めると共に、各校・地域が抱える課題について意見交換し、将来それぞれの地域で活躍する資質や能力、協働意識を育成する。

大会主題：

「今ここで起こっていることは、将来日本中で起こり得ること、小規模校だからこそできることがきっとある」～仲間と一緒に未来を考えよう～

第5回テーマ：

見つけ合うサミット(自他校の良さや考えを共有し、新しい発見のあるサミット)

第5回グラドルール：

「明るく、笑顔でリアクション」「想いを素直に伝える」

当日の流れ・内容：

1. 開会
2. アイスブレイク
3. 参加校取組発表
4. 講演「小規模高校による魅力ある教育への挑戦」
岩本 悠 氏(一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム代表理事/島根県教育魅力化特命官)
5. 生徒交流(5テーマ20グループでワークショップ)
テーマ1 ※希望調査をもとにチーム分け
A:地域を盛り上げるにはどうしたら良いか、盛り上げるために学校ができることは何か
B:入学者を増やすためにはどうしたら良いか、新入生にどんな気持ちで入学してほしいか
C:なぜ地方に移住している人が増えているのか、移住しやすい地域づくりのためにできることは何か
D:あなたの理想の人間像は何か、理想を人生はどのようなものか
E:自分が大切にしている言葉は何か、理想の人生はどのようなものか
テーマ2
A:なぜ地元に関心の薄い人が多いのか、地元に残ってもらうにはどうしたらいいか
B:小規模校で問題になっていることは何か、問題を解決するためにできることは何か
C:若者が地元に残ってもらうためには何をすれば良いか、地元に残したいものは何か
D:生活を豊かにするために欲しい秘密道具は何か、それらの秘密道具をどう活用するか
E:現在の理想の学校像とは、10年後自分の学校がどうなってほしいか
大人交流(3テーマでワークショップ)
「魅力化始めます」「わくわくする総探」「学校と地域のいい関係」 ※事前調査で設定
6. 閉会

参加校：

山形県立遊佐高等学校/山形県立左沢高等学校/山形県立荒砥高等学校/福島県立石川 高等学校/
福島県立西会津高等学校/島根県立吉賀高等学校/広島県立油木高等学校/ 山口県立防府高等学校
佐波分校/高知県立大方高等学校/沖縄県立本部高等学校

7県11校105名(うち山形小国71名)+引率16名+教育関係29名+報道3

事前研修・準備

➤ 6月18日(土) コア・ファシリテーター研修

場所:小国高校体育館

講師:小野寺 真希 氏(荒屋デザイン)※東北芸術工科大学学生2名協力

対象:小国高生(コアメンバー13名、チームファシリテーター2名)、荒砥高生4名

➤ 7月11日(月) プレサミット(サミットリハーサル)

場所:おぐに開発総合センター

講師:小野寺 真希 氏

対象:小国高生(全校生)、荒砥高生4名



- 7月21日(木) サミット準備(小国高校内)
場所:各クラス 内容:名札・名刺づくり(手書き、おぐまんシール貼付) 対象:全校生
- 7月21日(木)プレセッションーオンライン
場所:ZOOM 参加者:50名程度
- 7月22日(金) サミット準備(小国高校内)
場所:体育館、各教室 対象:全校生
内容:全体で確認・連絡・決意等の確認、生徒交流(ワークショップ)のチームに分かれて当日に向けた準備(テーマの理解・確認、当日に向けた準備等)
- 7月27日(水) サミット前日会場準備
場所:南陽市民体育館 内容:会場設営、リハーサル
参加者:小国高生(コアメンバー13名+有志生徒11名)、荒砥高生4名
- 7月27日(水) サミット前日会場準備
場所:南陽市民体育館 内容:会場設営、リハーサル
参加者:小国高生(コアメンバー13名+有志生徒11名)、荒砥高生4名



成果(○)と課題(△)：

- コミュニケーション・ファシリテーション・プレゼンテーションスキルの習得
- リアルで交流する喜びや満足感が得られた
- 普通にしていたら交わらない人との交流・思い出(若者の関係人口創出)
- 自校や地元を取組(資源)を提供し、互いに認め合うことでの誇りの醸成
- 交流による自身の成長や視野の広がりを実感(多様性の確保)
- 仲間と協働する価値の実感(考えの深まり)
- 卒業生や旧職員、地域(町役場職員、CS委員等)のサポート増大
- △ 参加校・参加人数の減少(経費捻出問題)
- △ 会場になる施設が町内に無く遠い(移動手段・費用、準備負担増、場に慣れない)つながり続ける・つながりが広がる：

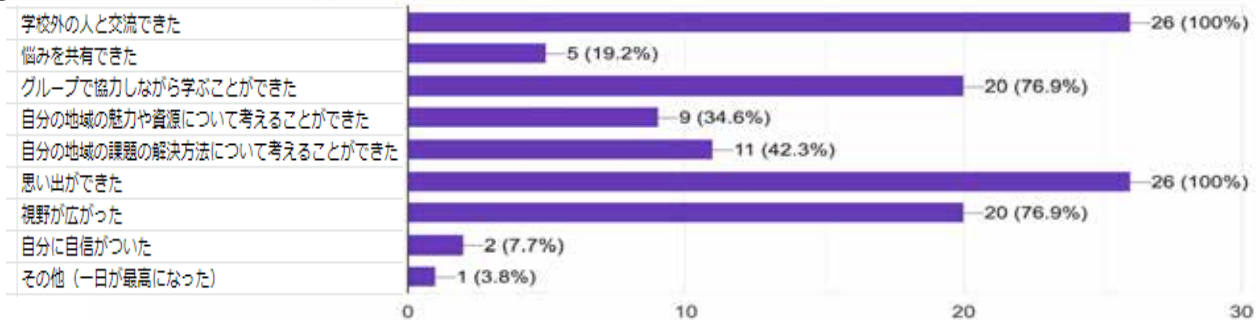


- ❖ 8/3豪雨災害時の沖縄本部による支援(山形県内の小規模校サミット参加校へ)「小規模校の絆を今試せ!~どうかしようぜプロジェクト~」
- ❖ 10/13「いわて小規模高校さみっと」(岩手大迫高校が中心に本会を参考に立ち上げ)
- ❖ 沖縄本部×島根吉賀(×山形高畠) オンライン調理実習 ※一昨年度より実施
- ❖ 山形小国×岩手大槌 第2学年研修旅行(小規模校訪問)※岩手大槌は昨年度の参加校
- ❖ 山形小国×岩手大槌×熊本小国×栃木足利特支 学校横断型オンライン探究連携 ※サミット前より実施

参加者の声(一部抜粋)：

<高校生>

○サミットを通して得たもの(複数回答可)

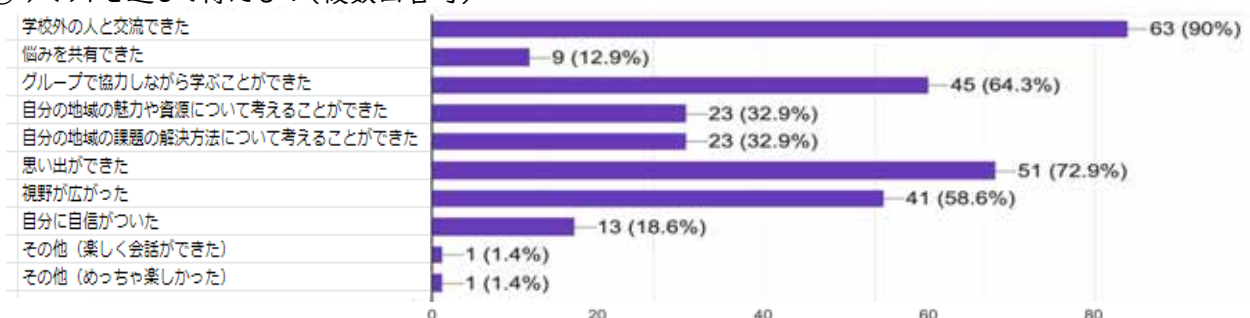


○感想(一部抜粋)

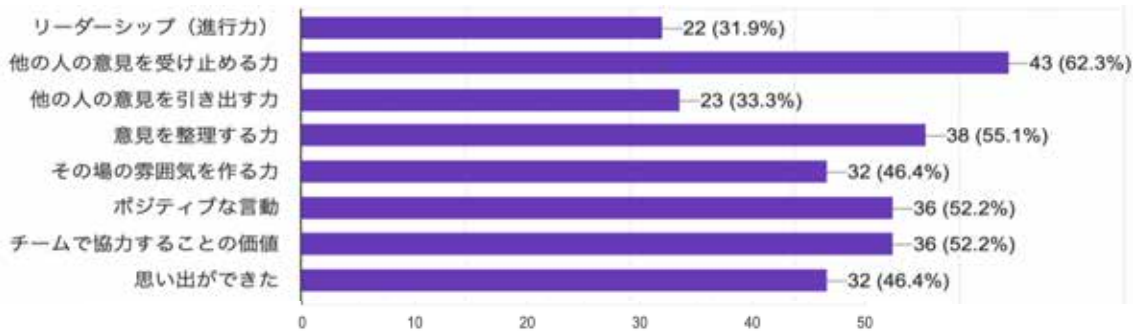
同じ小規模校という共通点を持っているので、共感できることが多く、話が弾んだし、友達も増えてステキな空間でした!一人だけの力だけではなく、皆んなで意見を出しながらまとめていくのがとても楽しく感じた/小国高校さんの出た意見をまとめる力がすごかった/今回で小規模校サミットへの参加は2回目でしたが、他校、しかも県外の方と生の交流会はなかなかできないので、新しい発見や発展をさせることができたのでとても楽しかった/色々な学校と交流出来て自分を深めることができた/地域のことについて考えられてよかった/実際に対面で同年代と交流し、貴重な体験ができて本当に良かったし、他校の課題を共有したり新たな発見があったりして楽しかった/他校の課題やその取り組み方に違いが見られ、自分の高校も個性があって楽しかった/班員が明るく盛り上げてくれて楽しく学ぶことができた!/他校生と交流して、自分にはない考え方が得られたし、コミュニケーションを高めることができた/それぞれの学校が違った活動を、強い思いなどを持って行って、活動の参考にしたいなど思うことがあり、とても楽しく勉強になった/このサミットのためにたくさんの人が支えてくれて、動いてくれたんだと感じた/名刺交換などで新しい人と繋がったり、会場にいるたくさんの人と繋がれてとても嬉しかった/2回目の参加でしたが、実際に対面してみても新たな自分が見つけられた/小規模校だから、田舎だから、友達がいないから、と言いつつやりたけれどやらなかったことがあったけど、サミットを通して自分がやりたい!と心から思って、計画して実行に移せばどんなことでもできると知った/コミュカの向上や話し合う力、プレゼン力などが身についた/自分たちの学校の現状を聞いて貰えたこと

<高校生(荒砥高生・小国高生)>

○サミットを通して得たもの(複数回答可)



○事前研修・準備で得たもの(複数回答可)

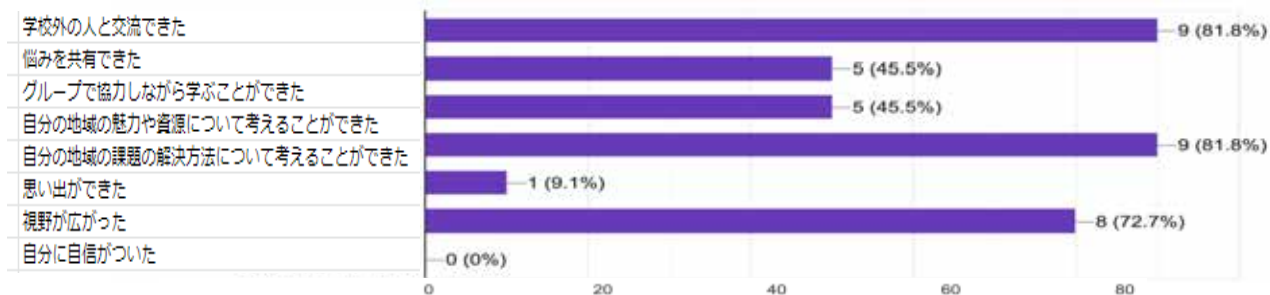


○感想(一部抜粋)

たくさん意見やアイデアが出て、それらが繋がり共通点を見つけることが出来た／自分がまとめられるか、自分から話せるかなど不安が沢山あったが、実際にやってみてみんなの意見をまとめられたしグループみんなの意見を引き出した！達成感が結構ある！／名刺交換ではたくさんの人と交換出来てコミュニケーションもたくさん出来ていい経験になった！／色んなハプニングがあったけどそれもいい思い出！／ファシリをしてみても難しかったけど、班の人と協力して意見をうまくまとめることができてよかった！またやりたい！／小規模校ならではの思い出ができて楽しかった！！／色んな学校の人々が居て単純にワクワクしたし、初対面の方と話す機会はないのでとても新鮮でした！／意見交換する大切さを感じた／たくさん交流できて今までよりも視野が広がったし、仲良くなれてとても楽しめました！／他校生から学ぶことが多かった／自分から積極的に話しかけて、もっともっと成長できる場にしたいので、来年意識していきたい／話し合いを進める力がより一層強化された／最初は緊張して話せなかったけど、段々と他愛もない話をする事が出来たのでとても楽しかった！／対面してみて、去年に比べて難しかった。会話が途切れたり、気まづくなったりして大変だった。友達作りって難しい／それぞれの地域の魅力を知ることが出来て良かった→行ってみたい！／対面をやってみて、去年も楽しかったけどオンラインとは違う楽しさがあった／自分にはない考え方や意見を持っていて色んな考え方や意見を聞いて良い経験になった／県外の高校生と情報交換や流行などを聞けるいい機会となった／自分の意見を言った時に共感や質問などをしてくれて自信がついた／オンラインはオンラインでとても楽しかったし素敵な思い出だけど、時差も声が聞こえないこともない対面はめっちゃくっちゃ楽しかった！みんな同じ場所にいるからオンラインよりずっと周りに話しかけやすくお友達たくさんできた／オンラインのサミットでめちゃくちゃ仲良くなれた子とまさかの同じチームでとても幸せでした！／話しやすい空気感の中で協働してお互いに学び合っている感覚が強かった／対面楽しい！！実際会うほうが仲良くなれるし主体的になれると思った／同じ悩みを持っている仲間と話せてとても楽しかった！／フリーで会ってみたい♡

<大人>

○サミットを通して得たもの(複数回答可)



○感想(一部抜粋)

生徒が自信をもって紹介や発表が出来ている事が印象的だった／同じような課題や思いをもつ人たちと情報交換し、そこからヒントをもらったので、大変有意義な時間となった／大人ワークショップで異なる立場の人と意見交換できて楽しかった／生徒が熱心に問題について話し合っているところが印象に残った／大人たちも悩みを共有し、一緒に課題解決を模索できる時間がとても有意義な時間だった／交流の広がりから多様な考え方が理解できることを実感した／オンラインでの交流会と対面、それぞれいい点があると思った／最初は視察目的で大人のみ参加を考えていたが、生徒を参加させることで準備から自校のことを考える時間を作ることができてとても良かった／生徒が学校外の人と関わる機会を作ることの重要性を感じた／生徒の学びがどんどん溢れてくるようにファシリテーションしていただき、小国高校の生徒の皆さん、先生方には本当に感謝／生徒は『また参加したい!』と言っているの、来年度また山形に連れて来れるようにしたい！／小規模校の課題は地方の課題そのものだった。大規模校(自治体で言えば都会)で出来ることを地方の田舎で同じようにやるためにはどうしたらよいかではなく、若い人たちとどうい話し合いや解決手段が必要なのかを深く考えさせられた／対面で実施する良さを改めて実感した／日本の今後を考えると小規模校の増大は避けられないだろうから、本来は国が音頭を取るぐらいの価値が生み出せそうだし、ポテンシャルは高いと思った

6. 国際・情報教育



オンライン英語交流 ～マレーシア（センポルナ島）～

1. 期 日 令和4年7月12日（火）
2. 時 間 16:15～17:15
3. 場 所 小国高校(Google meet利用)
4. 参加者 小国高校生徒8名、ALT、CN2名
5. 内 容
 - ・文化・食事・お祭りについて事前に準備したプレゼンテーションをお互いに英語で発表する。
 - ・ソーラン節を踊って披露する。
6. 生徒の声

「英語はすべて聞き取れなかったけれど、異文化に触れることができて貴重な体験だった。」

「マレーシア人がソーラン節を踊ってくれて嬉しかった！とても上手だった。」

「マレーシアの民族衣装がめっちゃ可愛かった！！」

7. 状況写真



令和4年度西置賜地区英語弁論大会

1. 期 日 令和4年9月13日(火)

2. 時 間 9:10~12:30

3. 場 所 白鷹町文化交流センター「あゆ〜む」

4. 趣 旨

英語弁論大会を通し、生徒の英語に対する興味・関心や表現力などを一層高めるとともに、地域内中学・高校の英語教育の充実・発展に資する。

5. 主 催 山形県英語教育研究会 西置賜支部

6. 後 援 長井教育会 西置賜地区校長会

7. 本校参加者 第1学年生徒2名、教員1名

8. 内 容

弁論様式…スピーチは自作の英文に基づくものを原稿とする。制限時間は4分30秒から5分30秒とし、その時間内にスピーチを終了すること。

審査基準…Content50点、English30点、Delivery20点

9. 生徒の声

「あまり緊張していなかったけど、ステージに立ったらすごく緊張した。緊張したけど最後まで発表できて良かった。またチャレンジしたい。」

「頑張ったほうだと思う。普段、英語長文に触れる機会がないのでいい機会となった。」

10. 状況写真



My Dream for the Future

Oguni S.H.S.

"Two Hundred Thousand." What do you think this number represents? It is the number of children abused in Japan each year. As someone who wants to be a childcare worker in the future this is an important topic to me.

I am from Kawasaki City in Kanagawa but I am enrolled at Oguni High School in a study abroad program. The charm of Oguni is that there are events every month where you can talk with all sorts of people. You can get close to the local community in a way you can't easily experience in the city. Interacting with the people there will help my growth as a person, which is important for my goal of becoming a childcare worker.

Children face many challenges, the most serious being problems like neglect and abuse. In the context of Japan's declining population, the loss of children through abuse seems senseless. I am heartbroken that there are those that won't raise their children with care despite being family. Furthermore, I wish for people who pretend not to see abuse to accept reality and act to save the children.

Parents should take responsibility and accept that they are their children. They should have the resolve to think, "I am all this child has." I believe a lack of this is often what leads to cases of abuse. It is also true that an abusive person may not be aware that they are abusive at all, so they need education. We must make them aware of the fact that abuse is not just discipline. Above all, emotional support for abused children is crucial. If you abuse your own child due to your own past, the trauma will never end. Outside support is essential to break the cycle.

Others must also notice that something is wrong with a family as a way to combat abuse. It is important to have a support system where if someone notices that a child seems unwell, they can consult with the school or guidance center. It is essential to prevent child abuse before a child's life is lost. Some people say that it feels small and cramped, but I think an environment like Oguni is ideal. There, the community, schools, and town hall are in close contact, and all the residents watch over the children's growth. Parents and children who are having trouble should not be out of sight.

As a high school student, what I can do now to combat child abuse is to build up a variety of life experiences. By interacting with many people in Oguni, I will improve my communication skills and learn to consider other people's feelings and thoughts. Additionally, living away from my parents makes me think every day about taking responsibility for my own actions. I believe that these two things will shape who I am when I become a childcare worker. I want to be a kind and trustworthy adult who understands the feelings of those around me and who is always there to lend a helping hand.

将来の夢

「20万」。皆さんこの数字は何を表していると思いますか？この数字は日本で年間に子どもが虐待をされている件数です。私は将来、保育士になりたいと考えているため、これは私にとって重要なトピックなのです。

私は神奈川県川崎市出身で、(国内)留学制度によって小国高校に在籍しています。小国町の魅力は、毎月、様々なイベントがあり色々な人と話ができるため、小国は都会ではなかなか体験できない、地域社会との距離が近いところです。そこで現地の人たちと交流することによって私が人間として成長することを後押ししてくれ、私が保育士になるという目標には重要です。

子どもたちは多くの問題を抱えており、その中でも特に深刻なのは、育児放棄や虐待です。少子化が続く日本では、虐待で子どもの命が奪われることが意味不明であると感じます。自分の家族なのにその子どもを大切に育てられないことが大変悲しくて仕方ありません。さらに、虐待を見て見ぬふりをしている人もまた、虐待の事実を受け止めて自分が救わなければという気持ちを持ってほしいです。

親たちは自分の子どもに対する責任を果たし、その子が自分の子どもだという事実をしっかりと受け止めるべきです。その子の親は自分しかないのだという覚悟を持ってほしいと思います。その覚悟がないから虐待につながるのではないのでしょうか。また、虐待をしている本人は、自分が虐待をしている自覚がまったくない場合もあると思うので、虐待という行為について彼らへの教育が必要です。虐待は「しつけ」とは無関係だという事実を認識させなければなりません。そして何より、虐待を受けた子どもたちの精神的なサポートが重要です。自分が幼い時に虐待されたから、自分も虐待してしまうとしたら、トラウマがいつまでも解消されません。その虐待の循環を断ち切る外部からのサポートは不可欠です。

周囲の人たちが少しでも子どもと彼らの家庭の異変に気づくことも、虐待を未然に防ぐ方法として必要です。ある子どもが少し元気ないなと思ったらすぐに、学校や児童相談所に相談できるようなサポートシステムを設置することが重要です。虐待によって子どもの命が失われる悲劇が起こるその前に、未然に防止することが必要不可欠です。地域が狭くて窮屈だと言う人もいますが、地域と学校と町役場の関わりが強い小国町のような、地域の住人全員で子どもの成長を見守る環境は理想だと思います。問題を抱えた親子が誰の眼にも触れない状態を避けることが必要です。

私が現在、高校生として育児放棄や幼児虐待の問題改善に向けてできること、それは様々な生活体験を重ねることです。小国町で多くの人たちと交流するなかで、私はコミュニケーション能力を高め、一人ひとりの気持ちや物の考え方を考える力が高められるでしょう。さらに、親元を離れて生活することによって、私は自分の行動に責任を持つことを日々考えさせられています。このような二つのことが、私が将来保育士の職に就いたとき、その時の自分を形作っていくものと信じています。私は自分の周りの人たちの気持ちを理解し、相手に手を差し伸べられるようにいつもそばにいる優しく信頼される大人になりたいと思います。

Let's Revive the Rainbow Colored Dream

Oguni S.H.S.

"I want to use magic. I want to transform. I want to help someone." — These were my childhood wishes. I looked up to the cute and powerful magical girls, idols, and princesses in stories. Their frilly skirts, beautiful dresses, and cute shoes are like magic. When I saw those clothes on TV, I wanted to touch them. Those passions fill me with a desire to make the clothes of my dreams real.

The picture books and anime I saw when I was young had a big effect on me, particularly those like Super Sentai and Magical Girls. The characters in these stories often have strong personalities, and sometimes villains get the spotlight too. As I saw more stories like this, my cast of beloved characters grew.

For children the characters they admire become role-models. As kids we cherish these emotions and they can have a big impact on our outlook. I had strong feelings towards my beloved characters despite differences in gender, birthplace, etc... A survey of children under the age of 6 conducted by Mite, a child-development group, asked their reasoning for their future dreams. More than 70% responded with their own interests over things like money and duty. This suggests that the early dreams of a person show their true nature and affect their future. I think it is important for all people to never forget the pure interests of childhood.

We hear the word "diversity" a lot, but have we lost sight of what diversity truly is? When I was flipping through some books that I read as a child, I felt I understood a hint of what diversity really means: The honest curiosity of youth, before stereotypes took root, is what's needed for real diversity.

Were you ever told that your favorite story was unrealistic, an impossible fantasy? With time, these denials open us up to prejudice, turning the rainbow dreamscape of our youth into binary black and white. In turn, we deny others their own interests. As time passes, our interests weaken, and suddenly, our dreams become the fantasies of a child.

You cannot just train for fairness. You must recall the feelings you had when you were young, set aside ideas of what's possible, and feel the beauty of the rainbow dream. I believe that accepting your dreams is akin to accepting those different from yourself.

I am planning on entering fashion school to pursue a career in fashion design. I want to recall the colorful worlds that I loved when I was young, and express those dreams in a concrete form through fashion. The scarlet scarf of a witch, the bumblebee fur of a terrifying beast, the sparkling emerald one-piece, the blue skirt with waves like the southern seas – I want to etch this rainbow patchwork into the fabric of my work. I hope you too will remember those sparkling feelings from when you were little.

虹色の夢をよみがえらせよう

「魔法が使いたい、変身したい、誰かを助けたい」—これは私が幼かった頃の願望です。かわいくて強い魔法少女やアイドル、物語に出てくるプリンセスたちが私の憧れでした。フリルの付いたスカートやきれいなドレス、かわいい靴は魔法のようです。私はテレビでそんな服を見ると触ってみたいと思いました。こうした熱い想いによって、私は夢のある洋服を作りたいという願望を実現させたいと思っています。

私が幼い頃に目にした絵本やアニメ、特にスーパー戦隊や魔法少女のような話は、現在の私に大きな影響を与えました。これらの話に出てくる登場人物は個性が強く、悪役にもスポットが当てられることがあります。私はより多くの物語と出会うたびに好きな配役が増えました。

子どもにとって、憧れの登場人物はお手本のような存在になります。子どもの頃、私たちはこのような感情を育み、その感情が物の見方に大きな影響を与えるのでしょう。性別や出生地などの違いに関わらず、私は大好きな登場人物に強い感情を抱きました。子育て支援団体「ミーテ」によって行われた6歳未満の幼児を対象にした調査では、将来の夢を持つ理由をたずねる質問に対して、70%を超える子どもたちが、お金や義務を上回って興味と回答しました。この調査が示唆しているのは、小さい頃の憧れや好きなものはその人の本質を表すものであり、将来にも影響を及ぼすということです。私は全ての人間が、幼い頃に持っていた純粋な興味を決して忘れないことが重要だと思います。

私たちは「多様性」という言葉を度々耳にしますが、真の多様性とは何なのでしょう？私は子どもの頃よく読んでいた本をパラパラとめくっていた時、多様性とはこういう意味ではないのかというヒントが浮かんできました。固定概念が根付いてしまう前の、幼かった頃の素直な好奇心こそが、真の多様性に必要なものではないかと思っています。

今まで、好きな物語が現実離れしているとか、あり得ない夢物語だと言われたことはありませんか？時間とともにこのような否定によって偏見が拡大し、虹色の夢は白黒の二色で塗り変えられてしまいます。逆に、私たちは他人に対しても、その人の興味を否定しています。時の経過とともに私たちの興味は薄れ、私たちの夢は急にありえない子どもの夢になってしまうのです。

(多様性を受け入れる) 公正さは、訓練だけで身につけられるものではありません。幼かった子どもの頃の感覚を思い出し、何が可能かという判断をいったん脇に置いて、美しい虹を美しいと感じなければなりません。自分の夢を受け入れることは、あなたとは異なる夢を受け入れることに通じていると思います。

私はファッション系の学校に進学し、ファッションデザインの職業を探求しようと考えています。幼かった頃、私が大好きだった彩り豊かな世界を思い起こし、ファッションを通してその夢を具体的な形に表現したいと思っています。魔法使いの真っ赤なスカーフ、恐ろしい猛獣のトラ柄の毛皮、まばゆいエメラルド色のワンピース、南の海のようなブルーのスカートなど、この虹色のパッチワークを自分の作品に刻み込みたいです。みなさんにも自分が小さい頃のキラキラした素直な気持ちを忘れず覚えていてもらえたらと思います。

第1学年オンライン国際理解研修 ～アメリカ～

1. 期 日 令和4年11月2日(水)
2. 時 間 8:50～11:40
3. 場 所 小国高校 1-1HR教室、学習室2、学習室3、美術室
4. 参加者 第1学年23名、教職員4名、CN2名
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【伝える力】【受容力】【グローバル意識】
「国際教育＝英語」だけではなく、異文化理解を含めた教科横断的な学習とする。
アメリカの学生との交流を通じて「外国から見た日本」を考える。
英語でも日本語でも外国人とコミュニケーションがとれることを実感する。
小国町に居ながらオンラインで世界と繋がれることを実感する。
海外の同世代と繋がることで異文化への興味関心を高め、翌年以降の研修に繋げる。
6. 交流先
Venice High School (アメリカ)
指導者：Ms. Hiroko Nomachi (日本語教員) 生徒：9名
7. 交流方法
 - ・事前に各校5グループ用意する。(日本4～5人ずつ、アメリカ1～2人ずつ)
 - ・2つのテーマに基づいてブレイクアウトルームで発表し、交流を行う。
8. 発表テーマ
英語交流テーマ「浮世絵を知っていますか？」
英語科との教科横断。教科書Lesson6で学んでいる「浮世絵」について、英語でアメリカ人に紹介する。英語でフィードバックをもらう。
日本語交流テーマ「私のSDGs」
家庭科との教科横断。自分に取り組もうとしているSDGsについて、日本語で紹介する。
事前学習で「やさしい日本語」について学ぶ。1人1枚スライドを準備し紹介する。
9. 生徒の声
「緊張して英語がうまく話せなくて、多分伝わってなかったけれど、ベニス高校の生徒さんが相槌やリアクションをしてくれてとても安心した。また機会があったら交流したい。」
「お互い言語がわからない時があって伝えるのが大変だったけれど、趣味など話せたので楽しかった。」
「アメリカの高校生と交流することはとても貴重だと思うので、とてもいい経験をすることができたと思う。アメリカのことやSDGsのことについて知ることができて楽しかった。」
「分からないと思って伝えようとしないよりも、頑張って伝えようとする気持ちが大事だと感じた。」

10. 状況写真



第1学年オンライン国際理解研修 ～アフリカ～

1. 期 日 令和4年11月9日(水)
2. 時 間 4－6時間目 12:40～15:15
3. 場 所 小国高校 1-1HR教室、学習室1、地域協働ルーム、学習室3
4. 参加者 第1学年24名、教職員2名、CN2名
5. 目 的 ※育成したい資質・能力【伝える力】【受容力】【グローバル意識】
「国際教育＝英語」ではなく、異文化理解を含めた教科横断的な学習とする。
小国町に居ながらオンラインで世界と繋がれることを実感する。
日本の国際協力に対する理解を深める。
6. 講 師
青年海外協力隊アフリカ隊員 4名
前田 尋貴 氏(ルワンダ)、田口 雄太 氏(ルワンダ)、加賀瀬 悠 氏(ケニア)、
田路 篤輝 氏(モザンビーク)
7. 交流内容
 - ①チェックイン
事前学習「アフリカ大陸ってどんなところ？」(阿部CNプレゼン)
 - ②JICA隊員自己紹介(メインセッション)
ニックネーム、なぜJICAボランティアに行こうと思ったか、アフリカでどんな仕事しているか、派遣国の概要など
 - ③JICA隊員と交流会(ブレイクアウトルーム)
7つのテーマ(食べ物、伝統服、宗教、経済、教育、現地語、カルチャーショック)について、高校生が隊員の方へ質問
 - ④チェックアウト(メインセッション)
生徒から感想、振り返り
8. 生徒の声
「海外で生活しながら、誰かの役にたてるのはとても素晴らしいことだと思った。自分の幅を広げることや、もっと社会と世界全体に目をむける大切さを強く感じた。」
「最初こそアフリカには黒人が多い、くらしいイメージしかなく、どんな話が聞けるのか少し楽しみだった。自分の知らない国や地域のことを聞くのがとてもおもしろく感じられた。」
「普段、アフリカの国々のことを考えたことがなくて、アフリカの国々の現状や歴史などを知ることができとても楽しかった。また、新たな発見がとても多く世界にはいろんな文化があり、いろんな人がいて面白いと感じた。」
「今回の交流で、アフリカのイメージが結構変わった。アフリカの宗教のこととか現状とかを聞いてもっと知りたいと思った。」

9. 状況写真



Ⅲ 資料

1. 「高校魅力化評価システム」 診断結果チェックシート

Portfolio of sustainable education and community

高校魅力化評価システム 組織診断ポータル

高校名 山形県立小国高等学校

年度 2022年度

回答者数	生徒・学生	19	3年生	24	4年生	0	5年生	0
(昨年度)	65	(内訳)	1年生	28	3年生	0	5年生	0
大人	28	(内訳)	教職員	30	(内訳)	教職員	14	

【MEMO】

教育目標、育てたい生徒像など

Summary 総括表

■ 今回の結果 (まとめ)

	主体性	協働性	探究性	社会性
① 学習活動	3	4	4	3
② 学習環境	4	4	4	4
③ 自己認識	3	3	3	3
④ 行動実績	3	3	3	2
⑤ ウェルビーイング	2	4	3	2

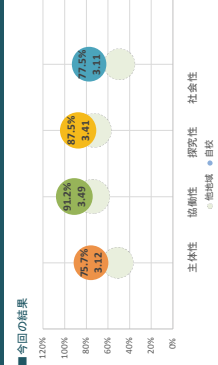
※学習活動割合が50%未満、未満1.00~40%、未満2.00~40%、3.00以上4

■ 前回、前々回からの肯定的回答割合の推移(まとめ)

	主体性	協働性	探究性	社会性
① 学習活動	↑	↑	↑	↑
② 学習環境	↑	↑	↑	↑
③ 自己認識	↑	↑	↑	↑
④ 行動実績	↑	↑	↑	↑
⑤ ウェルビーイング	↑	↑	↑	↑

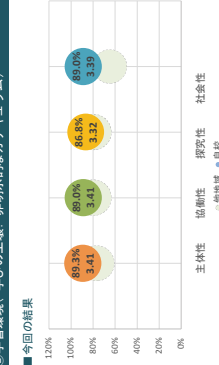
※学習活動割合が50%未満、未満1.00~40%、未満2.00~40%、3.00以上4

① 学習活動 (明示的なカリキュラム)



※上段の数値(%)、横軸が肯定的回答割合、下段の数値が平均値

② 学習環境 (学びの土壌、非明示的なカリキュラム)



How to read 結果の読み取り方

このポータルフォリオでは、以下の5軸面、4領域、3軸により、高校と地域の学びの「いま」と「変化」を読み取ることが出来ます。

- 5つの軸面から
 - 各校、地域の状態を、「①学習環境」「②学習環境」「③生徒の自己能力認識」「④生徒の行動実績」「⑤ウェルビーイング」の5つから把握しています。
- 4つの領域から
 - 各取組を「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの資質・能力に分類しています。
- 3つの軸で
 - 上記のデータを「時間軸(前年度からの伸び)」「学年軸(学年による違い)」「地域軸(地域との比較)」の3つの軸で整理しています。

結果に出てくる数字や言葉は次の意味を表しています。

- 【割合(%)】
 - 各項目で「4. あてはまる」「3. どちらかといはあてはまる」という肯定的回答をした割合
- 【平均】
 - 「あてはまる」「1」「2」「3」「4」の回答の平均値
- 【他地域】
 - 同じ機会に調査を実施した他校の回答の平均値
- 【回答上昇者の割合】
 - (個人IDで紐づけを行い、複数回答を実施した場合に表示) 前年と比べて、各領域の回答平均値が上がった回答者の、全回答者に占める割合

■ 総合的な生徒の満足度

満足度 64.7%

生活全般的満足度(0~10で0以上)

前年、前々回からの推移 97.1%

高校に対する満足度 97.1%

前年、前々回からの推移 88.2%

この学校を中学生におすすめできる 75.0%

※学年別満足度グラフに表されるため読み取り注意。

■ 今回の結果

満足度 50.0%

この地域を推薦する場所としておすすめできる

前年、前々回からの推移 92.9%

この学校に関わってよかった

前年、前々回からの推移 75.0%

この学校を中学生におすすめできる

※学年別満足度グラフに表されるため読み取り注意。

■ 自己認識 (資質・能力の主観的認識)

■ 今回の結果

主体性 75.0% (3.0), 協働性 74.3% (2.9), 探究性 71.3% (3.0), 社会性 65.0% (2.8)

■ 前回調査時からの変化(回答上昇者の割合)

主体性 31.1%, 協働性 29.5%, 探究性 26.8%, 社会性 26.8%

■ 今回の結果

満足度 50.0%

この地域を推薦する場所としておすすめできる

前年、前々回からの推移 92.9%

この学校に関わってよかった

前年、前々回からの推移 75.0%

この学校を中学生におすすめできる

※学年別満足度グラフに表されるため読み取り注意。

■ 今回の結果 (詳細)

主体性 68.0% (3.1), 協働性 73.5% (3.1), 探究性 73.5% (3.1), 社会性 68.4% (3.1)

■ 前回調査時からの変化(回答上昇者の割合)

主体性 35.0%, 協働性 25.0%, 探究性 28.8%, 社会性 34.2%

■ 今回の結果

満足度 50.0%

この地域を推薦する場所としておすすめできる

前年、前々回からの推移 92.9%

この学校に関わってよかった

前年、前々回からの推移 75.0%

この学校を中学生におすすめできる

※学年別満足度グラフに表されるため読み取り注意。

■ 今回の結果 (詳細)

主体性 68.0% (3.1), 協働性 73.5% (3.1), 探究性 73.5% (3.1), 社会性 68.4% (3.1)

■ 前回調査時からの変化(回答上昇者の割合)

主体性 42.5%, 協働性 25.0%, 探究性 22.5%, 社会性 26.3%

【 ウェルビーイング】読み取り・検討の視点

- ・ 学習環境や人のあり方との関係は?
- ・ 生徒の資質や力の成長は?
- ・ ウェルビーイングの成長を学校目標にどう位置づけていくか?

【 生徒の行動実績】読み取り・検討の視点

- ・ 生徒に期待する具体的な行動は?
- ・ 生徒の自己認識との関係は?
- ・ 具体的な行動を促すような、学習環境や学習環境づくりはできているか?

【 学習環境】読み取り・検討の視点

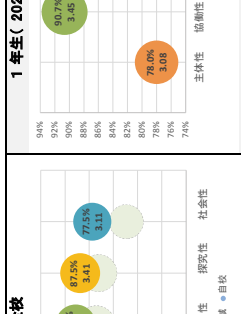
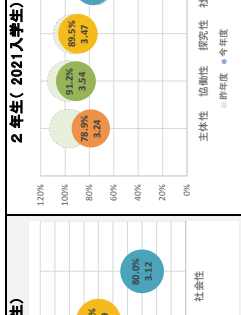
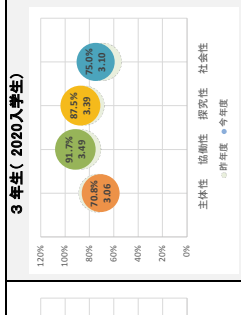
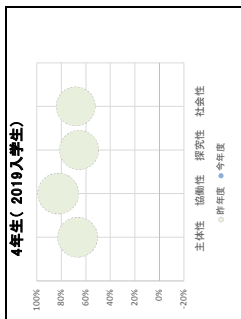
- ・ 自校の学びや環境、それを導く「型」を築くための、後継のあり方は?
- ・ 学校から意識して取り組んでいる活動の健全な環境づくりはいつまで成長は出ているか?
- ・ 後継を支えるコア・チーム・組織として、どのような役割が必要か?

Details 詳細結果

① 学習活動(明示的なカリキュラム)

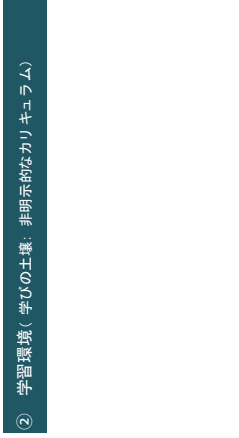
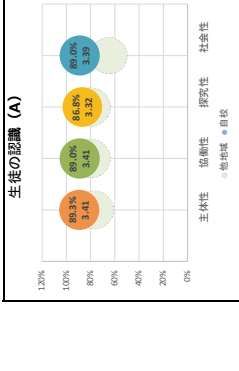
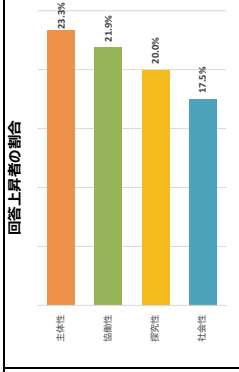
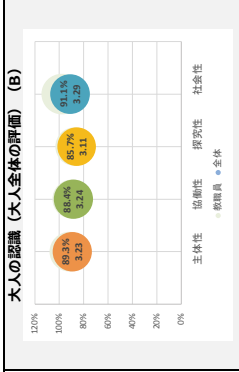
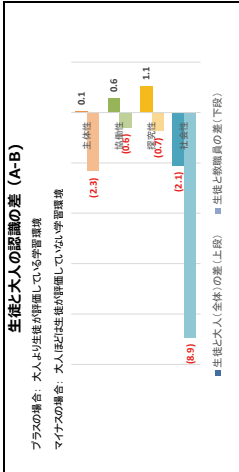
	全校		1年生(2022入学生)		2年生(2021入学生)		3年生(2020入学生)		4年生(2019入学生)	
	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)
10pt以上の増加	75.7%	-1.19	78.0%	-18.88	78.9%	-17.93	70.8%	-2.38	-	-
0~10ptの増加	86.8%	-0.93	88.0%	-12.00	84.2%	-15.79	87.5%	5.36	-	-
減少	64.7%	-1.45	68.0%	-25.75	73.7%	-20.07	54.2%	-10.12	-	-
主体性に関わる学習活動	91.2%	2.97	90.7%	-7.25	91.2%	-6.89	91.7%	4.76	-	-
5 自主的に課外のものや教材を行う	95.6%	1.74	96.0%	-4.00	94.7%	-5.26	95.8%	2.98	-	-
6 学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	91.2%	1.95	92.0%	-1.75	94.7%	0.99	87.5%	-1.79	-	-
協働性に関わる学習活動	86.8%	5.23	84.0%	-16.00	84.2%	-15.79	91.7%	13.10	-	-
7 グループで協力しながら学習や調べものを行う	75.0%	7.12	86.0%	-7.75	89.5%	-4.28	87.5%	3.57	-	-
8 活動、学習内容について大人(教員や地域の大人)と話し合う	75.0%	1.15	72.0%	-9.25	75.7%	-7.57	79.2%	0.60	-	-
探究性に関わる学習活動	91.2%	6.56	88.0%	-12.00	94.7%	-5.26	91.7%	9.52	-	-
10 自分の考えを文章や図案にまとめる	92.8%	12.65	92.0%	-8.00	94.7%	-5.26	91.7%	9.52	-	-
11 記した内容をまとめる	91.2%	8.10	92.0%	-1.75	94.7%	0.99	87.5%	-5.36	-	-
12 活動、学習のまとめを発表する	77.5%	7.19	80.0%	5.00	77.2%	2.19	75.0%	5.95	-	-
13 生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	88.2%	8.24	96.0%	2.25	78.9%	-14.80	87.5%	12.50	-	-
社会性に関わる学習活動	80.9%	7.04	76.0%	-5.25	84.2%	2.96	83.3%	11.90	-	-
14 地域の課題の解決方法について考える	63.2%	6.31	68.0%	18.00	68.4%	18.42	54.2%	-6.55	-	-
15 地域の課題の解決方法について考える										
16 日本や世界の課題の解決方法について考える										

※3年生、4年生の回生上昇率(引上げ率)は引上げ率で確認いただけます



② 学習環境（学びの土壌：非明示的なカリキュラム）

生徒の認識 (A)	回答上層者の割合				大人の認識 (大人全体の評価) (B)				生徒と大人の認識の差 (A-B)										
	1年生				2年生				3年生				4年生						
	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)					
主権性	89.3%	1.06	89.3%	-1.52	90.0%	8.6%	91.1%	89.3%	91.7%	89.3%	91.7%	89.3%	91.7%	89.3%	91.7%	89.3%	-10.00	0.1pt	-2.3pt
協働性	89.0%	6.36	89.0%	19.17	96.0%	94.7%	95.8%	78.6%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	-16.67	17.0pt	12.3pt
探究性	89.3%	0.14	89.3%	6.77	100.0%	89.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.00	-2.9pt	-2.9pt
社会性	89.3%	3.48	89.3%	10.28	96.0%	84.2%	91.7%	89.3%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	-8.33	1.9pt	-0.5pt
他領域との差	89.3%	-0.25	89.3%	17.29	20.0%	68.4%	62.5%	89.3%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	-25.00	6.5pt	2.9pt
全体	89.3%	3.28	89.3%	6.71	100.0%	84.2%	100.0%	96.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.00	-0.8pt	-4.4pt
回答上層者	89.3%	-	89.3%	6.61	80.0%	89.5%	95.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-	-7.4pt	-7.4pt
他領域との差	89.3%	-	89.3%	18.45	80.0%	100.0%	100.0%	88.4%	89.6%	89.6%	89.6%	89.6%	89.6%	89.6%	89.6%	89.6%	-10.42	0.6pt	-0.6pt
10pt以上の増加	89.3%	2.82	89.3%	9.39	90.0%	86.8%	89.6%	88.4%	89.6%	89.6%	89.6%	89.6%	89.6%	89.6%	89.6%	89.6%	-	-	-
減少	89.3%	-0.86	89.3%	5.69	80.0%	89.5%	87.5%	89.3%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	-8.33	-4.0pt	-6.4pt
主権性に関わる学習意識	89.3%	3.69	89.3%	4.60	88.0%	78.9%	91.7%	89.3%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	-8.33	-2.5pt	-4.9pt
20 失敗してもよい安全・安心な雰囲気がある	89.3%	3.21	89.3%	13.50	100.0%	94.7%	95.8%	92.9%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	-4.05	5.95	-4.0pt
21 挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	89.3%	5.23	89.3%	13.76	22.5%	84.2%	83.3%	82.1%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	-16.67	4.2pt	5.4pt
33 目標や当事者意識を持って挑戦している人がある	89.3%	2.15	89.3%	7.19	20.0%	81.6%	88.5%	85.7%	88.5%	88.5%	88.5%	88.5%	88.5%	88.5%	88.5%	88.5%	-7.14	1.1pt	-0.7pt
34 地域に、尊敬している、憧れている大人がいる	89.3%	6.56	89.3%	9.32	20.0%	89.5%	91.7%	82.1%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	-16.67	9.0pt	7.8pt
30 人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある	89.3%	-5.07	89.3%	-1.75	22.5%	84.0%	75.0%	82.1%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	-9.52	-5.7pt	-6.9pt
24 自分が何かを挑戦しようと思つたとき、周りは手を差し伸べてくれる	89.3%	7.90	89.3%	10.26	15.0%	89.5%	100.0%	92.9%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	0.00	2.7pt	0.5pt
35 周りの大人は、自分に関わることについて自分で決めることを尊重してくれる	89.3%	0.14	89.3%	22.22	10.0%	85.5%	89.6%	85.7%	88.5%	89.6%	89.6%	89.6%	89.6%	89.6%	89.6%	89.6%	-2.38	-1.9pt	-4.4pt
36 生徒の意見が学校での意思決定に反映される機会がある	89.3%	1.66	89.3%	24.20	17.5%	85.5%	89.6%	91.1%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	-0.30	-2.1pt	-8.9pt
協働性に関わる学習意識	89.3%	0.14	89.3%	22.22	10.0%	100.0%	95.8%	92.9%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	0.00	4.2pt	2.9pt
17 本書を執筆した言葉で書かれた雰囲気がある	89.3%	0.54	89.3%	15.11	12.5%	78.9%	87.5%	89.3%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	-8.33	-1.1pt	-3.4pt
18 将来のことや課題について話し合える大人がいる	89.3%	0.41	89.3%	35.00	17.5%	84.2%	91.7%	89.3%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	0.00	1.9pt	-8.8pt
24 周りの大人は、しつこく話を聞き、考えの手助けしてくれる	89.3%	5.57	89.3%	24.48	30.0%	78.9%	83.3%	92.9%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	7.14	-13.4pt	-20.6pt
28 立場や役割を超えて協働する機会がある	89.3%	1.66	89.3%	24.20	17.5%	85.5%	89.6%	91.1%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	-0.30	-2.1pt	-8.9pt
探究性に関わる学習意識	89.3%	0.14	89.3%	22.22	10.0%	100.0%	95.8%	92.9%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	0.00	4.2pt	2.9pt
17 本書を執筆した言葉で書かれた雰囲気がある	89.3%	0.14	89.3%	22.22	10.0%	100.0%	95.8%	92.9%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	0.00	4.2pt	2.9pt
18 将来のことや課題について話し合える大人がいる	89.3%	0.14	89.3%	22.22	10.0%	100.0%	95.8%	92.9%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	0.00	4.2pt	2.9pt
24 周りの大人は、しつこく話を聞き、考えの手助けしてくれる	89.3%	0.14	89.3%	22.22	10.0%	100.0%	95.8%	92.9%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	0.00	4.2pt	2.9pt
28 立場や役割を超えて協働する機会がある	89.3%	0.14	89.3%	22.22	10.0%	100.0%	95.8%	92.9%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	0.00	4.2pt	2.9pt
社会性に関わる学習意識	89.3%	0.14	89.3%	22.22	10.0%	100.0%	95.8%	92.9%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	0.00	4.2pt	2.9pt
19 地域から大切にされている雰囲気を感じる	89.3%	0.14	89.3%	22.22	10.0%	100.0%	95.8%	92.9%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	0.00	4.2pt	2.9pt
25 興味を持つことに対してすぐに挑戦し促してくれる大人がいる	89.3%	0.14	89.3%	22.22	10.0%	100.0%	95.8%	92.9%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	0.00	4.2pt	2.9pt
29 地域の人が課題などに挑戦している様子を感じる	89.3%	0.14	89.3%	22.22	10.0%	100.0%	95.8%	92.9%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	0.00	4.2pt	2.9pt
32 自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある	89.3%	0.14	89.3%	22.22	10.0%	100.0%	95.8%	92.9%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	91.7%	0.00	4.2pt	2.9pt



③ 生徒の自己認識(資質・能力)の主観的認識

No	10以上の増加	0~10%の増加	減少	全校		1年生(2022入学生)		2年生(2021入学生)		3年生(2020入学生)		4年生(2019入学生)	
				割合(%)	差(点)	割合(%)	差(点)	割合(%)	差(点)	割合(%)	差(点)	割合(%)	差(点)
				全体	前年度との差	他校との差	学年	学年	学年	学年	学年	学年	学年
				75.0%	7.09	6.39	76.0%	76.0%	76.2%	76.4%	76.6%	76.8%	76.8%
				68.4%	9.92	3.11	68.0%	68.0%	71.1%	66.7%	66.7%	66.7%	66.7%
				79.4%	14.80	3.67	80.0%	80.0%	37.5%	37.5%	37.5%	37.5%	37.5%
				57.4%	5.05	2.55	56.0%	56.0%	63.2%	61.3%	61.3%	61.3%	61.3%
				76.5%	4.16	2.60	84.0%	84.0%	57.9%	57.9%	57.9%	57.9%	57.9%
				73.5%	5.07	11.16	82.0%	84.0%	57.9%	57.9%	57.9%	57.9%	57.9%
				73.5%	8.91	11.90	76.0%	76.0%	57.9%	57.9%	57.9%	57.9%	57.9%
				73.5%	1.22	10.42	68.0%	68.0%	68.4%	68.4%	68.4%	68.4%	68.4%
				82.4%	7.74	6.79	84.0%	84.0%	78.9%	78.9%	78.9%	78.9%	78.9%
				82.4%	5.43	3.95	84.0%	84.0%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%
				82.4%	10.05	9.62	84.0%	84.0%	78.9%	78.9%	78.9%	78.9%	78.9%
				82.5%	8.79	6.65	83.2%	83.2%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%
				97.1%	7.83	4.16	96.0%	96.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
				94.1%	1.81	4.13	92.0%	92.0%	94.7%	94.7%	94.7%	94.7%	94.7%
				73.5%	15.07	9.59	74.0%	74.0%	63.2%	63.2%	63.2%	63.2%	63.2%
				80.9%	16.27	11.38	88.0%	88.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%
				66.2%	13.87	7.80	60.0%	60.0%	63.2%	63.2%	63.2%	63.2%	63.2%
				76.5%	4.16	5.78	80.0%	80.0%	78.9%	78.9%	78.9%	78.9%	78.9%
				76.5%	4.16	5.78	80.0%	80.0%	78.9%	78.9%	78.9%	78.9%	78.9%
				74.3%	6.04	3.79	76.5%	76.5%	63.2%	63.2%	63.2%	63.2%	63.2%
				76.5%	3.14	8.30	78.7%	78.7%	70.2%	70.2%	70.2%	70.2%	70.2%
				70.6%	4.43	-0.74	60.0%	60.0%	68.4%	68.4%	68.4%	68.4%	68.4%
				80.8%	2.90	17.95	84.0%	84.0%	57.9%	57.9%	57.9%	57.9%	57.9%
				88.2%	2.08	7.69	92.0%	92.0%	84.2%	84.2%	84.2%	84.2%	84.2%
				80.9%	9.34	5.39	78.0%	78.0%	81.6%	81.6%	81.6%	81.6%	81.6%
				88.2%	11.31	5.94	88.0%	88.0%	94.7%	94.7%	94.7%	94.7%	94.7%
				73.5%	7.38	4.85	68.0%	68.0%	68.4%	68.4%	68.4%	68.4%	68.4%
				61.8%	5.52	-4.37	72.0%	72.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%
				47.1%	5.52	-5.14	60.0%	60.0%	31.6%	31.6%	31.6%	31.6%	31.6%
				76.5%	8.64	3.39	76.0%	76.0%	78.9%	78.9%	78.9%	78.9%	78.9%
				79.4%	8.64	3.39	76.0%	76.0%	78.9%	78.9%	78.9%	78.9%	78.9%
				65.5%	1.15	0.98	70.9%	70.9%	62.2%	62.2%	62.2%	62.2%	62.2%
				60.3%	2.35	0.12	64.0%	64.0%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%	54.4%
				45.6%	2.51	-4.11	52.0%	52.0%	31.6%	31.6%	31.6%	31.6%	31.6%
				67.6%	3.03	3.94	68.0%	68.0%	68.4%	68.4%	68.4%	68.4%	68.4%
				67.6%	1.49	0.53	72.0%	72.0%	63.2%	63.2%	63.2%	63.2%	63.2%
				72.5%	3.32	2.35	77.3%	77.3%	68.7%	68.7%	68.7%	68.7%	68.7%
				54.1%	2.10	-0.33	60.0%	60.0%	47.4%	47.4%	47.4%	47.4%	47.4%
				72.1%	-3.33	0.19	80.0%	80.0%	63.2%	63.2%	63.2%	63.2%	63.2%
				91.2%	11.18	7.19	92.0%	92.0%	89.5%	89.5%	89.5%	89.5%	89.5%
				64.7%	-2.47	0.75	68.0%	68.0%	3.01	3.01	3.01	3.01	3.01
				73.5%	-0.32	2.04	84.0%	84.0%	19.25	19.25	19.25	19.25	19.25
				73.5%	1.22	0.72	72.0%	72.0%	2.43	2.43	2.43	2.43	2.43
				47.1%	-8.33	-0.51	48.0%	48.0%	4.25	4.25	4.25	4.25	4.25
				66.2%	1.56	0.55	76.0%	76.0%	10.38	10.38	10.38	10.38	10.38
				63.2%	3.24	4.90	80.0%	80.0%	11.25	11.25	11.25	11.25	11.25
				69.1%	-0.11	-3.80	72.0%	72.0%	9.50	9.50	9.50	9.50	9.50

④ 生徒の行動実績（資質・能力の発揮）



⑤ 学習・その他

学年	1年生 (2022入学生)		2年生 (2021入学生)		3年生 (2020入学生)		4年生 (2019入学生)	
	時間(分)	割合(%)	時間(分)	割合(%)	時間(分)	割合(%)	時間(分)	割合(%)
90	42.40	42.40	32.11	64.17	64.17	64.17	64.17	64.17
92	74.80	74.80	54.21	103.33	103.33	103.33	103.33	103.33

⑥ 大人向け調査

項目	大人向け調査(全回答平均)		大人向け調査(教職員のみ)	
	全体	他地域との差	全体	他地域との差
25	75.0%	-11.91	66.7%	-19.12
26	92.0%	2.12	83.3%	-6.34
27	50.0%	-27.20	41.7%	-34.13
28	75.0%	1.66	75.0%	1.66
30	83.3%	10.84	83.3%	10.84
31	41.7%	25.39	41.7%	25.39

⑦ 生徒のウェルビーイング

	全校		1年生 (2022入学生)		2年生 (2021入学生)		3年生 (2020入学生)		4年生 (2019入学生)	
	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)
全体	52.9%	10.86	57.3%	14.00	52.6%	18.42	48.6%	-1.79	1.63	-
10pt以上の増加	減少	10.86	57.3%	14.00	52.6%	18.42	48.6%	-1.79	1.63	-
主体性に関するウェルビーイング	81 今の生活全般に対する満足度 (0~10で評価：6以上の割合)	10.86	64.0%	14.00	64.4%	18.42	62.5%	-1.79	1.63	-
82 普段の暮らしの幸福度 (0~10で評価：6以上の割合)	50.0%	-19.98	56.0%	-	47.4%	-	45.8%	-	-	-
協働性に関するウェルビーイング	83 現在の日本生活に不安や心配事がない	6.29	52.0%	-	42.1%	-	37.5%	-	-	-
84 学校の一人を感じている	9.10	93.3%	6.25	4.35	89.5%	0.99	93.1%	6.55	0.18	-
85 大切な人を幸せにしたか、楽しませたかと思う	10.84	100.0%	6.25	4.35	94.7%	0.99	95.8%	6.55	0.18	-
探究性に関するウェルビーイング	86 この学校に入って良かったと思う	6.29	92.0%	-	84.2%	-	87.5%	-	-	-
87 自分の将来について明確な希望を持っている	9.69	88.0%	-	-	89.5%	-	87.5%	-	-	-
88 自分の将来に向けて大切な想いを実行している	-0.11	-0.50	68.0%	9.50	78.9%	5.92	75.0%	-4.76	-7.25	-
89 自分の将来についての認識 (将来について具体的に持っている)	-0.11	-3.80	72.0%	9.50	68.4%	5.92	66.7%	-4.76	-7.25	-
90 10pt以上の増加	-	-0.74	64.0%	-	73.7%	-	87.5%	-	-	-
社会性に関するウェルビーイング	91 2%	3.04	68.0%	-	94.7%	-	70.8%	-	-	-
92 2%	2.36	-2.61	66.0%	10.38	53.9%	-5.10	52.1%	-4.17	-19.93	-
93 5%	1.49	0.53	72.0%	9.50	63.2%	0.66	66.7%	2.38	-7.25	-
94 6%	3.24	4.90	80.0%	11.25	57.9%	-10.88	50.0%	-10.71	-32.61	-
95 7%	-	-18.08	60.0%	-	47.4%	-	45.8%	-	-	-
96 8%	2.19	48.5%	52.0%	-	47.4%	-	45.8%	-	-	-
97 9%	-	2.19	52.0%	-	47.4%	-	45.8%	-	-	-

2. 報道記事

豪雪地帯 県外から新入生



県外から小国高校に入学した1年生7人(1、2列目)。3列目の5人は1年間留学する2年生だ=小国町役場

県立小国高に7人

新潟県境の豪雪地帯にある県立小国高校(小国町)にこの春、首都圏などから7人が新入生としてやって来た。定員割れが続く1学年1学級の小規模高であれば、県外入学を認めるとい

う県の制度を活用。7日に町役場を訪れ、新生活への意気込みを語った。

7人は東京、千葉、神奈川県、長野の出身で、3年間を寮生活などで過ごす。8日にある同高の入学式に、他の新入生22人とともに出席する。

町役場で仁科洋一町長と面会した生徒たちは、それぞれ「趣味の釣りで地域の人とかかわりたい」「スノー

ボードをしたい」などと語った。仁科町長は「楽しむ感覚で雪を受け入れれば、楽しい生活を送れる。地域の人と仲良くなり、生きた知識、生きた知恵を身につけて」と激励した。

千葉市から来た三浦美樹さん(15)は「趣味は水墨画。おしゃれが好きで、ミシンを使って服をつくっています」と自己紹介した。会談後の取材に「好きなことをきわめたい。小国に来て、水墨画で雪と木をうまく表現できればと思います」と話していた。

この7人の他に、国などの事業「地域みらい留学365」で2年生の1年間を同高で学ぶ県外の生徒5人も紹介された。

県教育委員会は昨年、小規模高の入学者選抜方法を見直し、県外からの受け入れを決めた。同高のほか、新庄北最上校や新庄南金山校、新庄神室産業真室川校、荒砥、遊佐の計6校が対象。今年度は遊佐高も県外の新入生を迎えた。

(坂田謙郎)

2022年（令和4年）4月9日（土曜日）

地域 山形 開港 楽行 月報

県外〓留学生〓12人意気込み

小国高へ住民らと交流し学ぶ

小国町の小国高（采野和徳校長）で本年度から学ぶ県外出身の〓留学生〓12人が7日、町役場を訪れ、仁科洋一町長らに意気込みを語った。

12人は国などの関係人口創出拡大に向けた「地域み

らい留学制度」を活用。同校が昨年度から受け入れていた地域みらい留学365生は2年生の1年間、本年度から受け入れる白い森留學生は3年間、同校で学ぶ。365生は東京、大阪、茨城、神奈川、愛媛の5都

府県から女子5人、白い森留學生は東京、千葉、神奈川、長野の4都県から男子3人、女子4人。生徒たちは町内の宿泊施設や町民宅などに下宿し、地域の行事に参加するなど住民と交流しながら勉学に励む。

仁科町長は町の産業や町内の観光地などを説明し、「地元の人からここでしか学べない生きた知恵などを吸収して、大きく成長した姿を1年後、3年後に見せてほしい」と激励した。365生の〓柳帆花さん（16）〓愛媛県久万高原町出身は「住民の方々と関わりながら、自分の可能性を広げていきたい。将来、学んだことを生かし、吉里で地域貢献ができれば」と



小国高で学ぶ県外出身の地域みらい留學生 〓小国町役場

語り、白い森留學生の三浦美桜さん（15）〓千葉市緑区とを追求できる小国高の力

リキラムに魅力を感じた。雷ととも生きる小国ならではの生活の知恵などを学びたい」と話した。365生は7日の始業式で初登校し、白い森留學生は8日に入学式を迎えた。（小池拓海）

山形・小国高

ユニーク運営「学び」探る

4/19 河北

山形県小国町の小国高が、小規模校ならではのユニークな学校運営を展開している。県外生徒の受け入れをはじめ、海外や他の小規模校とも積極的に交流を重ねる。新潟県境の豪雪地帯で生徒の視野を広げようと、学びの在り方を探っている。



小国高で学ぶ県外の生徒12人と7日、小国町役場

4月には県外から新たな仲間12人が加わった。1年生7人は3年間、2年生5人は1年間、親元を離れて小国町内の寮や町民の家庭で暮らす。出身地は東京都や大阪府、愛媛県などさまざま。2021年度は2年生のみだったが、22年度に1年生の受け入れも始めた。

千葉県から入学し、寮生活を始めた1年三浦美桜さん(15)は「雪や紅花などの地域にしかないものに触れ、住民と関わりながら学びたい」と目を輝かせる。米野和徳校長は「多様な考えを持つ生徒たちが互いに刺激し合い、成長してほしい」と期待を寄せる。

県外生徒は、全国で徐々に広がる「地域みらい留学」の制度を基に、運営する松江市

県外の1、2年生受け入れ

ICT活用 海外校と連携

の財団法人を通じて募った。本年度の受け入れ数は、東北では最も多い水準とみられる。町教委は、県外生徒の生活などを支えるコーディネーターを校内に配置するなどして、体制を拡充させている。

他校との連携や情報通信技術(ICT)の活用にも力を注ぐ。全国の小規模校の生徒が集まって意見を交わす年1回の「サミット」を主導したり、海外の学生に小国町の特長をオンラインで紹介したりしている。

21年度は、サミットが経て関係を築いた岩手県大槌町の大槌高、熊本県小国町の小国高と4

回、オンラインで交流。地域の文化や課題を探る校内の取り組みを発表し合った。

一連の取り組みは、他校にない特色をつくらうと、学校が町教育委員会などと進める「魅力化プロジェクト」の一環で、19年度に始動した。同年春に小国高に進んだ地元の中3年生の割合が例年より低く、危機感を抱いたのがきっかけだった。地域の進学率は学校存続や将来の働き手確保にとって重要な意味を持つ。

22年度の全校生徒は12人の県外生徒も含めて74人。取り組みを始めたものの、減少傾向は続く。コーディネーターの阿部宣行さん(36)は「県外の生徒や校外との交流で化学反応が起き、生徒それぞれが新たな可能性を見つけられればいい」と話す。

「地域みらい留学」高校生が地元を離れて地方の公立高校に通う制度。財団法人地域・教育魅力化プラットフォームが主体となり、17年に始まった。21年度は全国27道県の78校が生徒

小規模校で「化学反応」を



小国高が本年度受け入れる留学生12人
＝4月7日、小国町校場

「留学生」と開く未来

留学生といえば、外国人をイメージする人が多いかもしれないが、小国町では日本人の留学生を受け入れている。同町の小国高（米野和徳校長、74人）は本年度、昨年度に続き2年生の1年間を同校で学ぶ県外の生徒5人に加え、3年間学ぶ県外出身の新入生7人を初めて受け入れた。全校生徒の16%を占める留学生と地元進学の子が、同校の新たな歴史をつくらうとしている。

小国高 入学者増へ 県外から受け入れ

留学生は、国などの関係人口削減に向けた「地域みらい留学制度」を活用。1年生は「白い森留学生」として3年間、2年生は「地域みらい留学365生」として1年間通う。町民宅や町内の宿泊施設に下宿しながら勉強に励み、地域行事に参加するなどして町民らと交流する。

小規模校の存続は少子化などの影響で厳しい状況に置かれている。従来の県の方針では、同校のような1学年1学級の高校で2年連続して入学定員の半分に満たない場合、原則、2年後に募集停止とされていた。2020年1月に示された新方針ではルールが緩和され、地元関係者による協議会を設置の上、3年間の魅力化に向けた取り組みを実施した後に、募集停止などを検討することとなった。

19年度、同校の入学者数は入学定員（40人）の半数をわずかに超える22人だった。そこで、同校は入学者数を増やすため、留学制度の導入を決めた。また、町は新方針を受けて全面的に支援。20年度には町地域おこし協力隊として「高校魅力化コーディネーター」を配置した。21年度からは町教育委員会に「高校魅力化推進室」を新設することも、留学生に対して下宿費を補助するなどしている。

一方、学校側も魅力づくりに取り組む。全国の小規模高校の生徒が集う「小規模校サミット」を18年から開き、地域住民を先生役に迎えて自らの興味・関心を掘り下げる「白い森未来探求学」に力を入れている。その様子を交流サイト（SNS）で積極的に配信し、入学・留学生の増加につなげたい考えだ。

同校と町の取り組みが

1年間と3年間 地元生徒への好影響期待

み合い、昨夏のオンライン学校説明会では県外生徒が約40人参加するなど、関心の高さが明らかになった。そして、本年度は12人の留学生が小国高の一員となった。留学生受け入れ前は9割が町内の生徒で、高校でも人間関係が固定化していたという。米野校長は「高校のうちから、実社会に近い多様な価値観を知ることができるようになった。昨年度は1年間だけだったが、町内出身の生徒が留学生のおかげで、地元の良いところを改めて発見できた」と利点を語る。

生徒たちはどう考えているのか。いずれも1年生で東京都から入学した斎藤千尋さん（15）は「親から離れて自立した人間になりたい」と思い留学した。東京ではできないウサギ狩りなどのマタギ文化を体験したい。小国中から進学した新沢愛那さん（15）は「県外の同級生と話す機会はほとんどなかったから、これからは楽しみたい」と話した。

（小池拓海）

2022年（令和4年）6月18日（土曜日）

地域

山

形

新

報

職への理解、体験してこそ

小国、インターンシップ

小国町の小国高（米野和徳校長）の2年生18人が14～16日の3日間、置賜地域各地でインターンシップを行い、さまざまな職業への理解を深めた。

生徒の進路希望に合わせ、小国警察署や同町役場

インターンシップに参加し社員からアドバイスをもらう小国高生

小国町・大宮産業小国工場



米沢市と飯豊町のホテル、川西町フレンドリープラザなど計約10カ所を実施。関連会社であるユニオントレーディング（さいたま市、牧野茂正社長）に、アメリ

カンカジュアルウェアを出荷する同町兵庫館3丁目の大宮産業小国工場（牧野次成社長）では、永井愛莉さん（17）が参加した。

永井さんは、工場では厚めの生地を使用してコートを製作するため高い縫製技術が求められることなどを学んだほか、自身も3日間かけてオープンカラーシャツ作りを体験。「服が好きでものづくりに興味がある上、祖母が同工場で働いていることもあり、インターン先に選んだ。布を裁断するのが難しかったが、服作りを体験できて良かった」と話した。

茂正社長は「工場では人手不足が続いているため、

町内にもアパレルの工場があることを知り、一人でも多くの人に入社してもらいたい」と期待を寄せた。また、小国署を訪れた生徒は15日の年金支給日に合わせた広報活動で、特殊詐欺（うそ電話詐欺）被害防止を訴えるチラシ配りなどを体験した。

（小池拓海）



生徒に作った籠について説明する熊谷茜さん（中央）
＝小国町・小国高

熊谷さんは5月26、29日の4日間、フランス北東部のブクシユール村で開催された各国の籠職人が集まる「むこフェスティバル」に参加した。同校は生徒に、地域性を考慮しながら地球規模の視点で考えて行動する「グローバル」な視点を持つてもらおうなどを目的とし、今回の講師を依頼した。

熊谷さんは「ヨーロッパを知る」をテーマに、つるで作った籠を見せながら、教諭と人とともにフェスティバルでの経験をトークセッション形式で語った。「共通言語としての英語の必要性を痛感した」や「知り合

小国高で特別授業

「グローバル」何だろう

町内の籠作家
熊谷さん講師

3教科を一度に学ぶ

小国 小国町の小国高（采野和徳校長、74人）で8日、籠作家の熊谷茜さん（42）＝同町伊佐領＝を講師に招き、一つのテーマを複数の教科から捉えて学ぶ「教科横断型学習」の特別授業が行われた。2年生15人が熊谷さんの話から英語、家庭科、地理の各教科の内容について理解を深めた。

て男性を紹介していた、「小国町と気候が似ており、町内にもあるアケビの木が

生えていた」など、内容は多岐にわたった。

生徒たちは話を聞いて気付いた点や、持帰可能な小国町にするためにできることについて機嫌紙に書き、意見を集約。「ヨーロッパは多様性が当たり前や」権利を認め偏見をなくす」などの意見が出た。後日、今回学んだことについて英語でプレゼンテーションする。

木口麗世さん（17）は「海外や籠作りに興味があったので、さまざま知ることができて良かった。3教科を一度に学ぶするのは初めてで、各教科に共通する部分があることを学べた」と振り返った。

（小池拓海）

特色ある学びその成果

小国高 地元住民に活動報告

小国 小国町の小国高（米野和徳校長）の活動報告会が19日、同町のおくに関発総合センターで開かれた。地元住民や小国中生の保護者など約30人を前に、1〜3年生の代表生徒が日々の学びについて発表した。

生徒たちは、地域住民との対話や実践を通して学びを得る「日い森未来探究学」や、海外の高校生とのオン



小国高の生徒が日々の学びについて発表した。小国町・おくに関発総合センター

ライン交流、生徒が運営する「全国高校小規模校サミット」など、同校の特色ある学習活動から、それぞれが感じたことを述べた。

「地域みらい留学制度」を活用して愛媛県から1年間留学中の2年一柳帆花さん（16）は、寮生活や田植え、ホタル観賞といった校外での体験などを報告。未来探検学の一環で、地元動物診療所の仕事に就いた1年の安部潤さん（16）は「進路選択につながる経験ができた。会いたい人に会って学べるところがいい」と魅力を語った。

報告会は学習活動を地元住民に知ってもらおうと、

3年ぶりに開催した。引き続き、教職員らによる学校説明会も開かれた。

（上妻大豊）

小国高の生徒が日々の学びについて発表した
 小国町・おくに関発総合センター

ユースアクション for SDGs

私たちにできること

SDGs(17種類の持続可能な開発目標)は、持続可能なより良い社会の実現を目指す、世界共通の目標です。2030年までに実行する「行動の10年」とし、市民一人一人まで行動することが求められています。この世界的な課題に、山形の高校生はどう向き合っているのでしょうか。SDGsを視野に入れた取り組みや、自らの活動とSDGsとの関わりについて紹介します。



小国高校(小国町)

家庭科の授業から、個人の探究活動へ

「自分のできること」 ずっと考え、広げていく

「自分のできることは何か」という問いを繰り返して考えていく。それは小国高校2年生の家庭科の授業でSDGs(持続可能な開発目標)を学ぶ際の活動の一つだ。世界の問題をどうにか自分のできることに落とし込んでいくという考えが、生徒たちを動かしている。



今年2月に開催された小国高校と町職員とのSDGワークショップ。持続可能な社会の実現を目指すための意見を話し合いました。



家庭科で取り組んだ、野菜の皮を使った食パン。家庭科が食品ロス削減を意識するきっかけにもなったそうです。

探究活動を促してSDGsの考えを中学生にも広げていっています。



家庭科の先生、小国高校の先生、家庭科が食品ロス削減を意識するきっかけにもなったそうです。



「マイエシ」から発表では、プラスチックごみ削減の観点から、食パンの包装紙をリサイクルするアイデアを発表した。



「自分のできること」をテーマに、家庭科の授業から探究活動へと広がっています。家庭科の授業では、食パンの作り方や野菜の皮の活用など、身近な課題からSDGsの考えを学んでいます。また、家庭科の授業で学んだことを、探究活動やコンテストなどで発表しています。

家庭科の授業では、食パンの作り方や野菜の皮の活用など、身近な課題からSDGsの考えを学んでいます。また、家庭科の授業で学んだことを、探究活動やコンテストなどで発表しています。

家庭科の授業では、食パンの作り方や野菜の皮の活用など、身近な課題からSDGsの考えを学んでいます。また、家庭科の授業で学んだことを、探究活動やコンテストなどで発表しています。

2022年（令和4年）7月29日（金曜日）

社会

山

形

新

聞

親睦を深める小規模校の生徒たち

〓 南陽市民体育館



3年ぶり対面 親睦深め 南陽

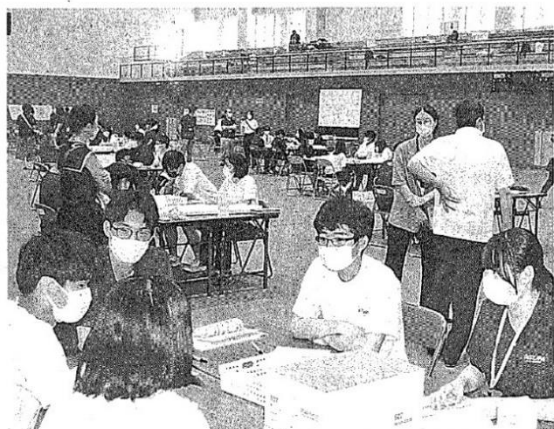
小国高主催 小規模校サミット

小国高（米野和徳校長）が主催する「全国高校小規模校サミット」が28日、南陽市民体育館で3年ぶりに対面形式で開かれた。沖縄や福島など7県11校から参加した計約110人の生徒が、学校の特徴を紹介し合いながら親睦を深めた。ワークショップではテーマごとに、4〜6人の20チームに分かれて議論を交わした。「小規模校の問題を解決するためにできること」のテーマでは学校活性化を目的に、遠方の生徒を受け入れるため、寮を建設するなどの意見が出た。

小国高3年舟山頼さん（18）は「2年間はオンライン

で開催だったので、他校の人と対面で話すのは緊張したが、趣味の話で打ち解けられて良かったと話した。各校・地域が抱える課題で意見交換し、地元で活躍できる人材育成を目的に、2018年から開催している。第1回サミットから小国高が事務局を務めている。

（小池拓海）



グループに分かれ、各校の活動について意見を交わした小規模校の高校生

小規模校の未来語る

山形・小国高主体「全国サミット」

3年ぶり対面で開催

南陽

全国の小規模校に通う高校生が集まる「全国高校小規模校サミット」が7月28日、南陽市の市民体育館であった。小国高（山形県小国町）の全校生徒約70人を中心に、福島や沖縄など7県11校の約100人が参加。各校の活動や地域が抱える課題について意見を交わした。

参加した生徒は、小規模校の強みを生かした各校の取り組みを紹介。それぞれ防災や進路、自然保護などに関する学習を通してできた地元とのつながりを発表した。人口減少を見据え、

地域の将来も話し合った。沖縄県本部町の本部高3年知念小春さん(17)は「卒業生らの支援で校内に設けられた進学塾の活動を紹介

し、地域との関わりの強さを伝えられた。他校の生徒とも仲良く話せ、貴重な経験になった」と語った。サミットは、小規模校同

士の交流の輪を広げようと2018年に始まり、今年で5回目。初回の開催を呼びかけた小国高が軸となり毎年、同高の生徒らが実行

委員会を組織して運営している。20、21年度は新型コロナウイルス禍のためオンラインで実施し、3年ぶりに対面で開いた。

小国高主催「小規模校サミット」3年ぶり対面に

小規模高校の生徒が集まり、学校、地域が抱える課題について意見交換する「全国高校小規模校サミット」が7月28日、南陽市民体育館で開かれた。小国町の小国高(米野和徳校長)が実行委員会事務局を務め、2018年の初開催から5回を数える。20、21の両年は新型コロナウイルスのためオンライン形式で実施し、今回は3年ぶりの対面開催となった。サミットのこれまでの歩みを振り返る。

話題の 十字路

サミットが始まるきっかけとなったのは、17年に開かれた同校と岩手県花巻高との交流会。終了後、小国高生から

今年で5回目の「全国高校小規模校サミット」。3年ぶりに対面開催となった
—南陽市民体育館

多様な意見知る機会

オンライン併用も選択肢

「もっと近所の高校と交流したい」との意見が出たことを踏まえ、地元で活躍できる人材の育成を目的に、翌18年から毎年開いている。サミットの大きな特徴は、生徒が準備から当日の運営まで携わる点だ。今年はコアメンバーと呼ばれる1、2年生



検査で陽性であることなどを参加条件とした。沖縄や福島など7県11校の約100人が会場に集結。各校の生徒による学校紹介のほか、テーマごとに分かれて議論するワークショップなどが行われた。取材した過去2年のサミットに比べると、ワークショップでは会話のテンポのよさが感じられた。休憩時間には、持ち寄ったお菓子やプロフィールが書かれた手作りの名刺を交換する姿が見られた。メインファシリテーターを務めた2年生の斎藤心花さん(16)は「オンラインでは伝わりづらい雰囲気や表情が一目で分かり、ワークショップがやりやすかった」と話していた。

対面でのサミットが再開した一方で、オンライン開催の20、21年の2年連続で増加していた参加校・人数はいずれも減少に転じた。新型コロナウイルスの感染拡大や、交通・宿泊費の負担が理由とみられる。参加者が多ければそれだけ多様な学校や高校生を知ることができ、生徒の刺激にもなるはずだ。より充実したサミットにするため、対面とオンライン双方のメリットを生かす併用するハイブリッド型の開催も選択肢の一つだと感じ

た。(長井文社・小池拓海)



終日の27日は民宿奥川入でマタギ文化について学ぶほか、野菜の収穫作業を体験する。(小池拓海)

舗道

●小国町の小国高(米野和徳校長)のオープンスクールが26日、町内で始まり、同校への進学を検討する県外在住の、未

●同校は本年度から県外からの入学を受け入れており、町と学校について知ってもらおうと、町と同校が昨年

●祖父母が山形市に住んでいるという長谷川達さん(13)は「生徒同士の仲が良さそうで、雰囲気も良かった」と話しく、興味深そうに授業を見学していた。最終日の27日は民宿奥川入でマタギ文化について学ぶほか、野菜の収穫作業を体験する。(小池拓海)

交通事故防く ひまわりの絆プロジェクト

小国高校生 紙芝居手作り

小国町の小国高(米野和徳校長)の1、2年生有志8人は、交通事故撲滅を願う「ひまわりの絆プロジェクト」の紙芝居を制作した。生徒らは町内の保育園で読み聞かせを行っており、地域ぐるみで交通事故のない町を目指している。

作ったのは一柳帆花さん(16)と、高藤心花さん(16)の2年。その説明を聞いた主筆人、岡久津七香さん(15)、人公は大切に育てて立派な花を飯田晴基さん(16)、大津佳純さん、咲かせる。母親に成長したハルくん(16)、佐藤秀華さん(15)、沢ちゃんが、自分の子どもに種を田旭さん(16)、藤田嘉穂さん 受け継いでいく」という妻話を(16)の1年生6人。 基にした物語。

小国警察署の依頼を受け、生徒たちは夏休みの約2週間を、一環として種をまいた町内3保育園で紙芝居制作に当たった。作業は1日3、6時間にわたり、よる紙芝居が行われた。認定こども園すみれ保育園では、年手分けして絵を描き、物語の言い回しを考えるなどして完成させた。

紙芝居は全10枚。花が好きな小国町に住む女の子・ハルちゃん、母親からヒマワリの種をもらうところから始まる。この種は交通事故で亡くなったナツくんが育てていたもので、ナツくんの両親が「交通事故で悲しい思いをする人がいなくなるよ」と、小さな子どもにも伝わるよ

イラストを担当した岡久津さん(15)は「絵の色を濃くしたり、アツくんのような絵にしたりするよ」と話している。警察官を「あつ」と呼ぶことと胸を張った。来年度は種まきに合わせ、紙芝居の披露を検討している。

町内3保育園で読み聞かせ



小国高生がひまわりの絆プロジェクトを題材にした紙芝居を制作した

(小池拓海)

小国高で講演 交通事故で長男亡くした中曽根さん

小国町の小国高（米野和徳校長）で9月30日、「命の大切さを学ぶ教室」が開かれた。交通事故で長男を亡くした、にいがた被害者支援センター理事の中曽根えり子さん（64）＝新潟市西区＝が「最愛の家族を突然失って」と題して講演した。

事故は1999年4月に発生。当時小学2年生の長男斐君（7）が、自転車で道路を横断中、過積載で速度違反のダンプカーにはねられて亡くなった。

事故後、中曽根さんは心的外傷後ストレス障害（PTSD）に苦しんだといい、「周囲の人たちが支えてくれたおかげで立ち直ることができた」と語った。一方で「交通事故で負った心の傷は目には見えないが、一生消えることはない」と打ち明けた。

最後には生徒に「小国町に住んでいれはばいずれ、バイクや車を運転す

「被害者にも加害者にもならないで」

ることになると思う。安全運転を心がけて被害者にも加害者にもならないようにしてほしいと呼びかけた。同校と小国警察署が主催し、生徒や教職員ら約90人が聴講した。（小池拓海）



「最愛の家族を突然失って」と題して講演した中曽根えり子さん（中央）
小国町・小国高

小国高、弁当配達を導入 保護者が発案、実施



日替わりメニューで届けられるフレッシュランチ＝小国町・小国高

出勤前などに弁当を準備する家庭の負担軽減を図ろうと、学食がない小国町の小国高（米野和徳校長）で学校に弁当を届ける「フレッシュランチ」が導入されている。保護者が発案・実施し、平日の事前予約制となっている。

メニューは日替わり。唐揚げやハンバーグ、エビフライなどで、おかずだけの購入も可能。前日の夜までに専用サイトから注文し、代金は後日送付される納付書でコンビニで支払う仕組み。

1年生の保護者の片桐康代さん（45）は、他の保護者からの「毎朝弁当を作るのが難しい」「メニューを考

えるのが大変」などの声を受け、給食のような制度の導入を模索していた。オーシャンシステム（新潟県）が町内企業にも弁当を配達していることを知り、同社の厚意もあって、定価（1食480円）から割安で提供されている。

3年生の瀬賀忠和さん（18）は「両親が共働きで大変だと思うので、弁当を用意する手間を減らせて良かった」とフライを頬張っていた。

片桐さんは「お弁当の用意は保護者にとって大きな負担。このような制度があることを知ってもらい、入学者数増につなげたい」と話していた。（小池拓海）

2022年（令和4年）10月31日（月曜日）

地域

山

開

新

月

探究テーマ、大人から助言

小国高で「トークフォークダンス」

小国

小国町の小国高（米野和徳校長）で、地域の大人たちとの対話を通して学びを深める「トークフォークダンス」が19日に行われた。2年生18人がそれぞれのテーマを探究するマイプロジェクトについて助言を受けた。写真。

「白い森未来探究学（総合的な探究の時間）」の一環で、2020年度から実施している。町内のほか、町外の企業経営者や地域おこし協力隊員など、多彩な



顔ぶれの大人が参加。体育館に輪になって座り、生徒が外側を順番に回って個別に対話を繰り返した。

生徒たちは「使わなくなった化粧品品の再活用」「山の魅力を伝える絵本、紙芝居の制作」など、それぞれ取り組みを紹介。8月の豪雨災害を踏まえ、おいしい非常食作りをテーマにした佐藤愛結さん（17）は「試作品の感想が聞けた。教わったレシピも試してみたい」と収穫を口

にした。

南陽市でカフェなどを営む大垣敬寛さん（31）は「身近な課題を自分なりに見つけ、行動している点に感心した。壁を乗り越えながら、今までにないものを生み出してほしい」と期待した。生徒は今後、他県の高校とのオンライン交流、専門家との意見交換などを通して内容を磨き、来年2月の発表会に臨む。

（上妻大晃）

2022年（令和4年）11月5日（土曜日）

地域

山

形

新

報



小論文コンテストで表彰を受けた学生たち
 米沢市・ホテルモントピュ
 米沢

高校生小論文の
 入賞者に表彰状

米沢有為会

米沢有為会（平山英三会長）が主催する置賜地区高校生小論文コンテストの表彰式が10月29日、米沢市のホテルモントピュ米沢で行われ、最優秀に選ばれた小国高2年一柳帆花さんら入賞者11人に表彰状が贈られた。

進学や就職による若者の県外流出が懸念される中、地方の未来を考えるきっかけに

けにしてもらおうと、置賜地域の高校2年生を対象としたコンテストを2018年から毎年開催。本年度は「人口減少社会の中でも持続可能な地域とするため、地域の未来と私の生き方を考える」のテーマで、8校から78点の応募があった。

最優秀賞以外の入賞は次の通り。

- ▽優秀賞 今向日葵（小国）
- 安部悠花（米沢中央） 伊東美優（長井） 二宮緋毬（小国）
- ▽入選 石井倅之介（米沢興譲館） 吉田樹里（九里学園） 後藤音衣（米沢中央） 嶽本佳菜（同）

三屋俊介（米沢興譲館） 朝一凜（九里学園）

（半田徹）

2022年（令和4年）11月10日（木曜日）

地域

山形新聞

町の課題一緒に考える 5テーマで議論

小国高生と町議会

5テーマで議論



班ごとにまとめた意見を発表する参加者
＝小国町・おぐに開発総合センター

小国町議会は8日、小国高生との意見交換会をおぐに開発総合センターで開いた。子育て支援など5テーマについて話し合い、町の課題に理解を深めた。

若者の意見を聞き、課題後の活動の充実の各テーマで意見を交わした。各班では付箋に意見を書き込むなどアイデアを出し合い、最後に話し合いの成果を発表した。「子育てしやすい環境を整えるには二

「子育て支援を議論した山吉穂乃香さん(18)は「子育て経験のある議員の方の意見は勉強になった。母子・父子家庭や里親など多様な家族の形を想定した支援策の考え方を新鮮に感じた」と話した。

(石井剛)

「マで意見を交わした。各班では付箋に意見を書き込むなどアイデアを出し合い、最後に話し合いの成果を発表した。「子育てしやすい環境を整えるには二」ズの把握が重要」「移住者が増やすため私たちに何が出来るかを考えたら、町に住み続けることが大切だと分かった」などの意見が出た。放課後の活動では「こ長寿アイドルのプロデュースで地域おこし」というユニークな案もあった。

2022年（令和4年）11月19日（土曜日）

地域

山形新聞

小国警察署 佐藤守書さん(15)日、紙芝居を作り小国町内に読み聞かせ



野和徳校長の生徒8人に感謝状を贈った。受け取ったのは、16年(17)と、1年の阿久津七香さん(15)、飯田晴基さん(16)、大津佳純さん(16)、佐藤秀亜さん(15)、沢田旭さん(16)、藤田聖也さん(16)。

生徒たちは同署の依頼を受け、ヒマワリの種をまき交通安全講座を贈った。ヒマワりの種プロジェクトを題材に、交通安全の大切さを伝える紙芝居を制作。今年8月に町内2保育園で読み聞かせを行った。

(小池雅博)

巡って知る置賜推し

高校生が取材、発表

長井 ボランティア活動に取り組む置賜地域の高校生を対象とした「おきほら地域クリエイター beyond」の地域づくり実践発表会が18日、長井市の旧長井小第一

校舎で開かれ、生徒たちが地域を巡り、感じ取った魅力などを紹介した。地域活動のリーダー育成や若者の地元愛の醸成につなげようと、県教育委員会が主催。南陽高3年の高橋

夏梨さん(18)と桜井空葉さん(18)、米沢東高2年の伊藤葵さん(17)と尾形優夏さん(17)、小国高2年一柳純花さん(16)が今年10月に「icho cafe」(いちようカフェ) (南陽市)「川西タリヤ園」(川西町)「三淵渓谷」(長井市)の3カ所を取材し、発表した。生徒たちはパワーポイントを使い、各施設の概要などを説明。桜井さんは「昨年参加した経験を生かし、取材では気になる部分を細かく聞いた。インスタグラムなどで魅力を発信することができて良かった」と話した。インスタグラムのアカウント「okiborara」で活動の様子を確認できる。(小池拓海)



地域を取材した成果を発表する生徒たち
—長井市・旧長井小第一校舎

2022年(令和4年) 12月29日(木曜日)

地域 山形 楽行 月見



街かど アラカルト

町づくりアイデア

小国 小国高(米野和徳校長)3年生24人の地域構想学発表会が14日、同町のおくに開発総合センターで開かれ、生徒たちが住みよい町にするためのアイデアを発表した。写真。

地域構想学は「白い森未来探究学」の一環で実施。総合政策、町民税務、健康福祉、産業振興、教育振興の各課から「移住者の増加」「子育てしやすい町」などのテーマをもらい、役場での聞き取りなどを経て意見をまとめた。発表会では、移住希望者に町の魅力を知ってもらえるパンフレットを作ることや、母子健康手帳を紙とアプリの選択制にすることなどを提案。仁科洋一町長らが講評した。

2023年（令和5年）1月9日（月曜日）

総合

山形

開

新

月

CSと地域学校協働活動、一体的推進

本県3市町 文科大臣表彰

コミュニティ・スクール（CS）と地域学校協働活動の一体的な推進について、本県の3市町の取り組みが2022年度文部科学大臣表彰を受けた。

受賞したのは①大石田学園運営委員会・大石田町地域学校協働本部②小国高等学校協働協議会・白井森地域学校協働本部（小国町）③伊佐沢小学校運営協議会・同小地域学校協働本部。

県生涯教育・学習振興課によると、①は大石田町内の小学校統合を見据えた合同学習、児童の学力向上、担任の指導力向上に重点を置いている。②は地域と協働した特色ある教育活動を展開し、小国高の魅力化と地域活性化を推進している。③は「少年少女念佛踊り」の継承に地域住民と取り組み、子どもたちの郷土芸能への思いを育んできた。

これらの取り組みが学校運営の改善と強化だけでなく、学校を核とした地域づくりに効果を上げている

と評価された。来月3日に東京で表彰式が行われる。（玉虫秀明）



高齢者宅で除雪作業に汗を流す小国高生たち
＝小国町

は「久しぶりに本格的な除雪作業をしてみても、大変さを改めて感じた。もっと自宅でも手伝うようにしたい」と話していた。(石井剛)

高齢者宅などで除雪のお手伝い
小国高生
小国町の小国高(米野和徳校長)の生徒有志12人が1月31日、町内の高齢者宅などで除雪ボランティア活動に汗を流した。
町社会福祉協議会の呼びかけに応じた1、2年の女子生徒が参加し、要望のあった町中心部の3軒に分かれて作業に当たった。岩井沢地区の高齢者宅では、屋根から落ちた雪や灯油タンク付近に積もった雪などを協力しながらスノーダンプで次々と運び出していた。普段は知人などに除雪作業を依頼しているといい、家主は「本当にありがたい」と喜んでいた。
2年の木口蘭世さん(17)

小国高に留学中・一柳さん(愛媛出身)

本県で7日開幕、スキーIH初出場

雪国で磨いた力 発揮へ



短期の留学制度を活用して小国高に通う一柳花さん(16)＝愛媛県久万高原町出身＝が、本県で7日に開幕するスキーの全国高校大会(フインターハイ)に、愛媛代表として出場する。小国町で知見を広め、アルペン選手としての腕を磨いてきた留学生は、「富山の選手とは実力や練習時間の差があるが、気持ちでは負けない」。第一の千里で臨む初の晴れ舞台で、活躍を誓う。

級友の応援受け 活躍誓う

一柳さんは高校2年生の1年間のみの別的高校に留学できる「地域みらい留学365」の制度を活用し、地元の上野穴高(愛媛)に在籍しつつ、小国町内の寮から小国高に通学している。父親がスキー場に勤めていたことがきっかけで、3歳からスキーを始めた。冬期間の趣味程度だったが、愛媛では競技者が少ないこともあり、中学から愛媛県スキー連盟の練習に参加するようになった。
中学時代には長野県での全国中学校スキー大会や、秋田県での国民体育大会に出席するはずだったが、新型コロナウイルスで大会が中止。約1年経った全小国高に入学して、国舞台に立つことを夢見て、高校での競技経験を決めた。地元小学校でスキーは所属せず、自習に励む日々だったが、基礎体力を養いながら、冬期間は連盟の合宿に参加するのち、実力を磨いた。
「自分らしく頑張って」と書かれた寄せ書きのサファイアブレゼントもあり、「小国の人々の温かさを感じる。クラスメートの応援に応えたい」と意気込んでいる。今季は17日から岩手県で開催される冬季国体に出場予定だ。(小池拓海)

同級生からもらった寄せ書きを手に意気込みを送る一柳花さん
＝小国町

1年間の探究成果発表

小国高「食・健康」などテーマに



取り組んだ探究学習の成果を発表する生徒＝小国町・小国高

小国町の小国高（米野和徳校舎）の2年生が取り組んだ探究学習「マイプロジェクト」の成果発表会が16日、同校で開かれた。生徒18人が1年間の学習を通して得た知識や経験などを発表した。

生徒は「食・健康」「地域活性・エシカル」「教育・芸術・美容」「ゲーム・情報・イラスト」の4つのテーマに分かれて、自身の学習内容について紹介した。「紙芝居で伝えたい」小

国の自然」と題して発表し、山に入るきっかけになればうれし」となると話していた。また、生徒たちは町の魅力を発信するサイト（SNS）で発信したことや、SDGｓ（持続可能な開発目標）に関する少人数による発表も行った。また、小国町内の自然を多くクマやイノシシなどの動物をかわいらしいタッチで描いた。

SDGs 身近に感じて

海洋ごみ
食品ロス

小国町の小国高（米野和徳校舎）の2年生高藤心花さん（17）が1日、小国小の6年2組を対象にSDGs（持続可能な開発目標）に関する特別授業を行った。

小国高 高藤さん 小国小児童に特別授業

高藤さんは探究学習の「マイプロジェクト」でSDGsの「海洋ごみ」と「食品ロス」をテーマに取り組んでいる。その中で、子どもたちにSDGsに関する知識を広めたいと特別授業を実施し、同小の児童で実施した。



小国町小国小

授業では、海洋ごみと食品ロスの問題を知ってもらい、自分たちができることを考え、実践してほしいとの願いが込められている。高藤さんは「SDGsの知識を伝えることが大切だ」と話している。また、日本では食べ残しやまだ食べられる食品が大量に廃棄されている現状を説明し、ペーパーボトルが自然分解される年をクイズにして児童に問いかける場面もあった。また、日本では食べ残しやまだ食べられる食品が大量に廃棄されている現状を説明し、ペーパーボトルが自然分解される年をクイズにして児童に問いかける場面もあった。